令和６年９月13日
社会文教委員会協議会資料No.3-2

飯田市
子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査結果について

こども未来健康部
こども課

目　　次

第１章　調査実施の概要 3
１　調査の目的 3
２　調査の設計 3
３　調査票の配布と回収状況 3
４　報告書の見方について 4
（１）年齢の定義 4
（２）電算処理の注意点 4
（３）グラフの見方について 4
５　調査対象者の属性、家族状況 5
（１）居住地域の状況 5
（２）就学前児童の属性 6
（３）小学生の属性 6
（４）理想のこどもの数について 7
（５）調査回答者の状況と配偶者の有無 8
６　調査結果からみた課題等 9

第２章　子育て家庭を取り巻く環境 17
１　子育ての環境について 17
（１）主な保育者と親族等協力者の状況 17
（２）子育てに関する相談者の状況 21
２　保護者の就労状況 24
（１）母親の就労状況 24
（２）父親の就労状況 30

第３章　子育て支援サービスの現状と今後の利用希望 37
１　就学前児童の平日の定期的な教育・保育事業の現状と 今後の利用希望 .. 37
（１）平日の定期的な教育・保育事業 37
（２）定期的な教育・保育事業の利用理由と未利用の理由 41
２　就学前児童の休日の定期的な教育・保育事業の利用希望 47
（１）土曜日と日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望 47
（３）長期休暇中の教育・保育事業の利用希望 50
３　病児・病後児保育事業の潜在ニーズ 52
（１）病気やケガで通常の事業が利用できない時の対処について 52
（２）病児・病後児の保育施設の利用希望 56

４　不定期の一時保育の利用について 59
（１）就学前児童が不定期に利用している教育・保育事業の状況 59
（２）宿泊を伴う一時保育の利用状況 66
５　放課後の過ごし方について 68
（１）平日の放課後に過ごさせたい場所 68
（２）土曜日、日曜日、祝日・長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望..... 77
６　地域の子育て支援事業の状況と今後の利用希望 83
（１）地域子育て支援拠点事業の利用状況 83
（２）今後の利用意向 85
（３）子育て支援事業の認知度、利用状況と今後の利用意向について 87

第４章　育児休業制度の利用状況 91
１　育児と仕事の両立支援制度について 91
（１）両立支援制度の認知状況 91
（２）育児休業制度の利用状況 92
（３）職場復帰の状況 94
（４）短時間勤務制度の利用状況 97
（５）育児休業取得期間の希望 98

第５章　子育て支援の充実 101
１　子育てについて 101
（１）子育て中の働き方について 101
（２）子育てのことについて 102
（３）子育てに関する悩みや不安 104
（４）子育て家庭の暮らし向きについて 106
（５）子育て環境や支援の満足度 109

資　料　編 113
１　就学前児童保護者の調査票 113
２　小学生保護者の調査票 120

第１章
調査実施の概要

第１章　調査実施の概要

１　調査の目的

本市では「子ども・子育て支援法」に基づき、全てのこどもや子育て家庭が健やかに成長することができる社会の実現を目指して、令和２年３月に「第２期飯田市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、様々な子育て支援事業に取り組んでいます。

令和７年からの第３期（令和７～11年度）計画を策定するにあたり、必要な情報を得るため、子育て家庭のニーズの動向分析等を行い、本市の現状と今後の子ども・子育て支援における課題の整理を目的としたアンケート形式によるニーズ調査を実施しました。

２　調査の設計

調査票は調査対象者別に作成しており、各調査の件数及び調査期間、方法は、以下のとおりです。

■　調査票の種類と調査対象者及び調査の実施方法

①調査票「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査【就学前児童保護者用】」		
	調査対象者	飯田市に居住する就学前児童の保護者から無作為抽出
	調査票配布数	2,000人
	調査期間	令和6年3月
	調査方法	郵送配布後、郵送回収又はWeb回答
②調査票「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査【小学生保護者用】」		
	調査対象者	飯田市に居住する小学生の保護者から無作為抽出
	調査票配布数	2,000人
	調査期間	令和6年3月
	調査方法	郵送配布後、郵送回収又はWeb回答

３　調査票の配布と回収状況

調査によるそれぞれの配布、回収状況は、以下のとおりです。

■　調査票の配布、回収状況

調査対象者	配布数（人）	回収数（人）	回収率（%）
就学前児童の保護者	2,000	695	34.8
小学生の保護者	2,000	742	37.1

4　報告書の見方について

（1）年齢の定義

就学前児童の年齢は、アンケート調査において誕生日の年月を回答しているため、下表による年齢区分により集計を行いました。

年齢区分	該当する生年月	１号認定の年齢区分	２号３号認定の年齢区分
０歳児	2023年４月以降	０歳児組	０歳児組
１歳児	2022年４月～2023年３月	０歳児組	０歳児組
２歳児	2021年４月～2022年３月	１歳児組	１歳児組
３歳児	2020年４月～2021年３月	２歳児組 ３歳になった翌月から年少組	２歳児組
４歳児	2019年４月～2020年３月	年少組	年少組
５歳児	2018年４月～2019年３月	年中組	年中組
６歳児	2017年４月～2018年３月	年長組	年長組

（注）調査期間【2023年度】における年齢区分

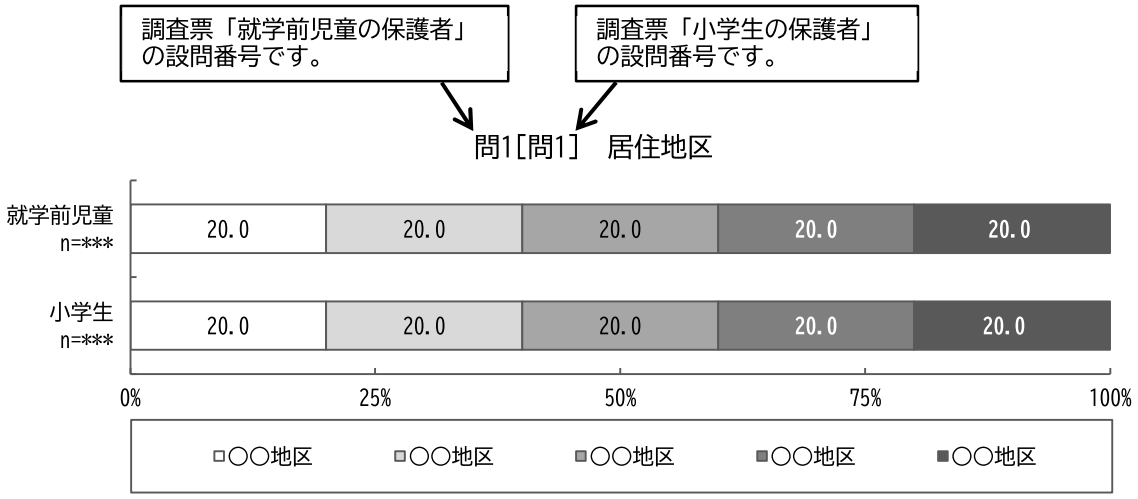
（2）電算処理の注意点

調査結果の数値については小数点第２位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。

なお、基数となる実数は「n」として掲載し、各グラフや表の比率は「n」を母数とした割合を示しています。

また、複数回答が可能な設問では、各項目の割合の合計が100%を超える場合があります。

（3）グラフの見方について

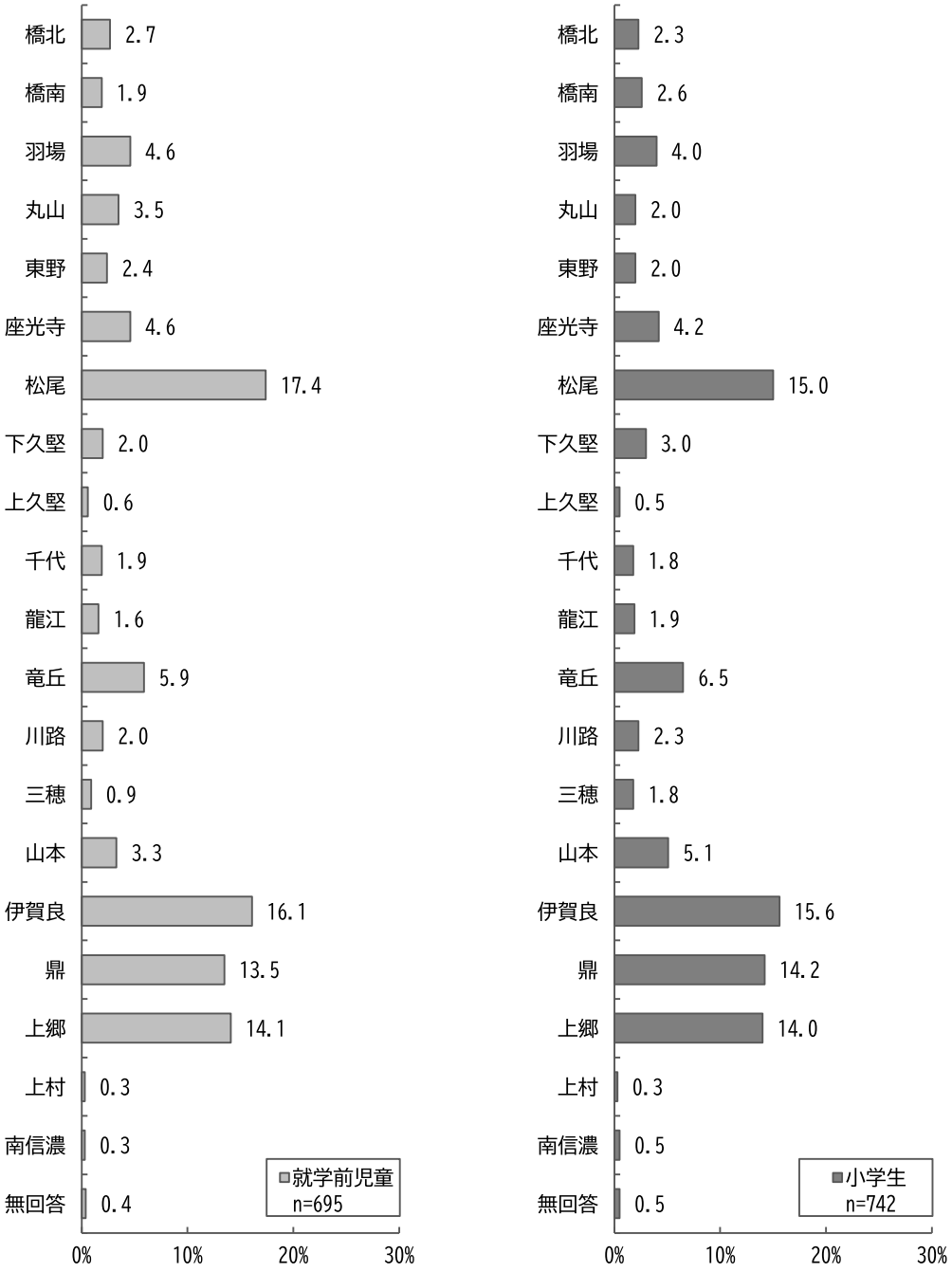


5　調査対象者の属性、家族状況

（１）居住地域の状況

○回答者が居住する地区は、以下のとおりです。

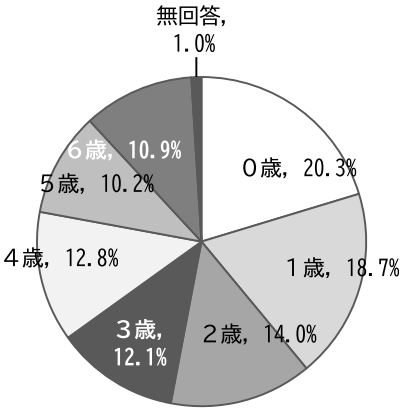
問1[問1]　居住地区



（２）就学前児童の属性

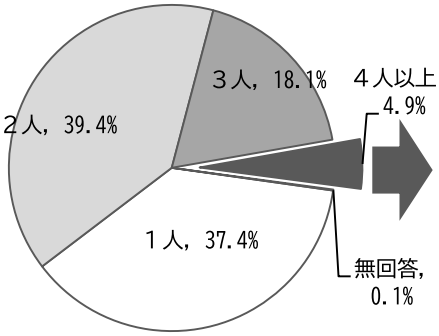
○回答された695人の就学前児童の属性は、以下のとおりです。

問2　年齢



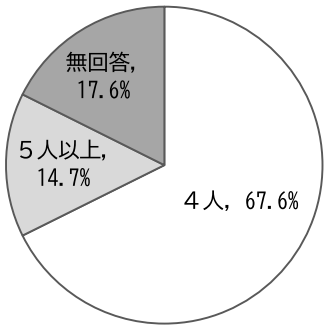
就学前児童
n=695

問3　子どもの人数



就学前児童
n=695

問3　４人以上の内訳

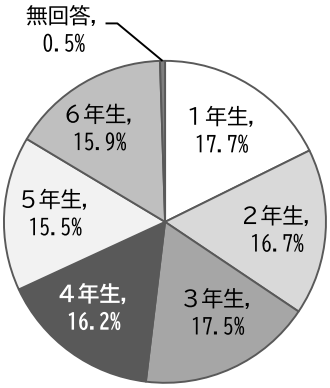


就学前児童
n=34

（３）小学生の属性

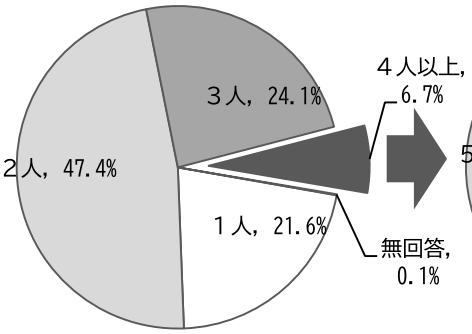
○回答された742人の小学生の属性は、以下のとおりです。

［問2］　学年



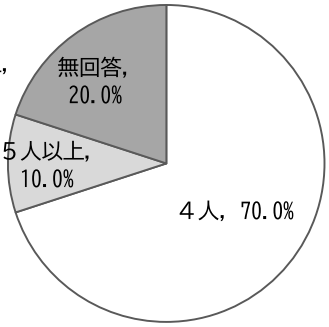
小学生
n=742

［問3］　子どもの人数



小学生
n=742

［問3］　４人以上の内訳



小学生
n=50

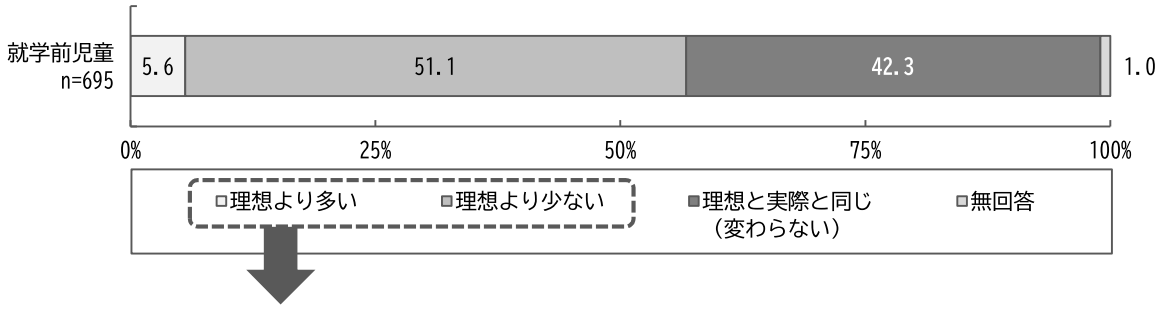
（４）理想のこどもの数について

○「理想の子どもの人数と実際の子どもの人数」との違いについてみると、「理想より少ない」（51.1%）が最も高く、次いで「理想と実際と同じ」（42.3%）となっています。

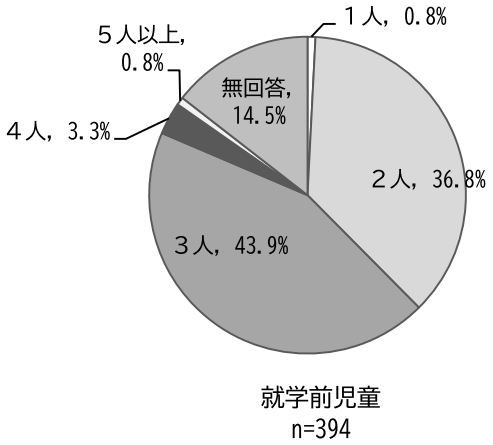
○「理想の子どもの人数」についてみると、「３人」（43.9%）が最も高く、次いで「２人」（36.8%）となっています。

○「理想より子どもの人数が少ない理由」についてみると、「子育てや教育にかかる費用が大きい」（55.2%）が最も高く、次いで「仕事と子育ての両立が難しい」（42.3%）となっています。

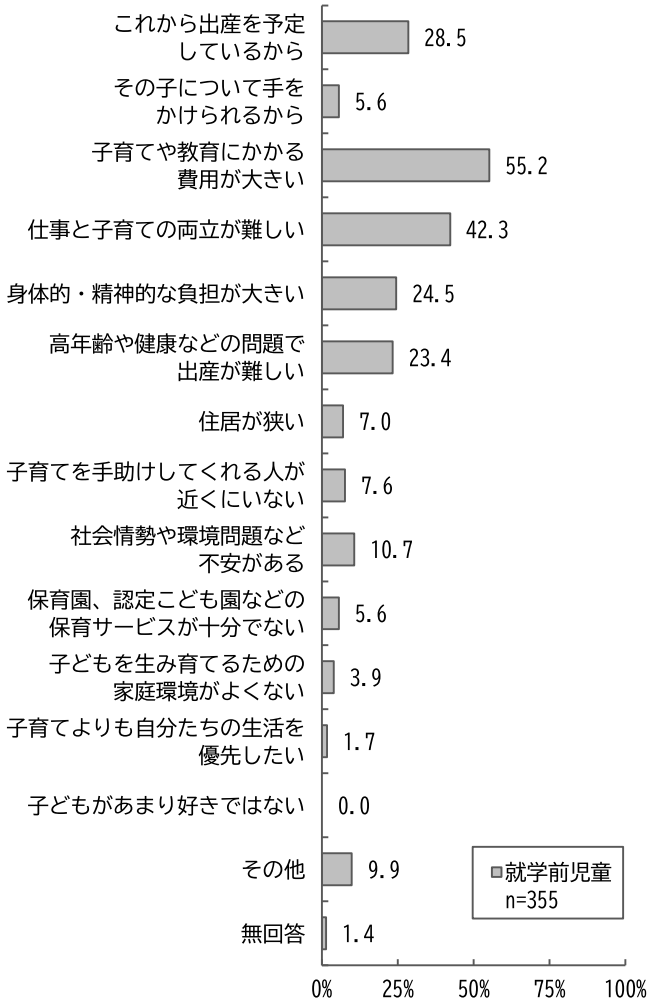
問3-1　理想の子どもの数と実際の子どもの数（就学前児童）



問3-2　理想の子どもの人数（就学前児童）



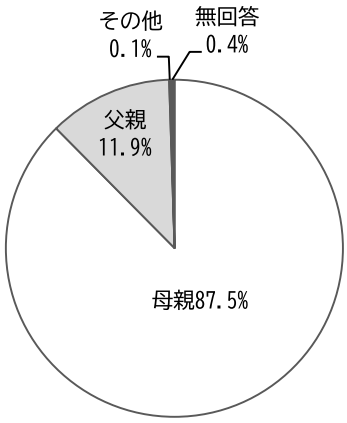
問3-3　（理想より少ない）理由（就学前児童）



（５）調査回答者の状況と配偶者の有無

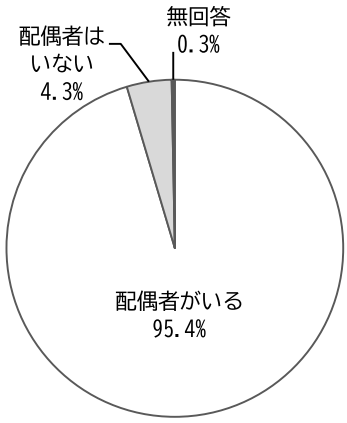
○この調査の回答者は、以下のとおりです。

問4　調査回答者（就学前児童）



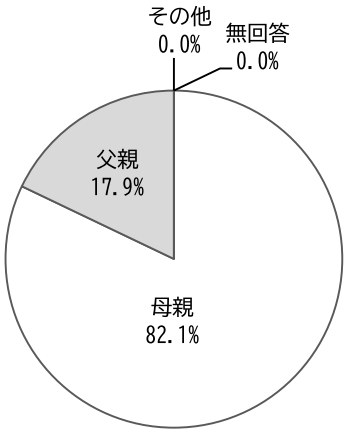
就学前児童
n=695

問5　配偶者の有無（就学前児童）



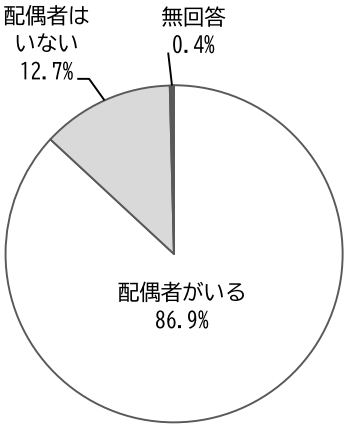
就学前児童
n=695

［問4］　調査回答者（小学生）



小学生
n=742

［問5］　配偶者の有無（小学生）



小学生
n742

6　調査結果からみた課題等

分析を通して考察と課題抽出等を行いました。

結果１　周囲の援助が得られない、孤立した子育て環境にいる保護者は前回調査と比較すると、小学生が3.4ポイント増加 子育てをする上で気軽に相談できる相手（先）がいない保護者は就学前児童で5.0%、小学生で12.3%

子育てに関する親族、知人等協力者の状況は、就学前児童の保護者、小学生の保護者いずれも、多くの方が「日常的、または緊急時、用事の際に祖父母等の親族に子どもをみてもらえる」と回答しており、大半の保護者は協力を得られる状況です。

しかし、前回調査（H30）と比較すると、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」と回答した割合は、就学前児童の保護者では7.5ポイント、小学生の保護者では4.0ポイント減少、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」と回答した割合は、就学前児童の保護者では5.1ポイント増加し、小学生の保護者では3.5ポイント減少しています。

また、協力者が「いずれもいない」と回答した方は、就学前児童の保護者で9.1%、小学生の保護者で12.4%となっており、前回調査と比較すると、小学生が3.4ポイント増加しています。【問9、[問7]】

子育てをする上で気軽に相談できる相手（先）が、「いる／ある」と回答した方は、就学前児童の保護者で 91.8%、小学生の保護者で 83.7%となっており、気軽に相談できる先として「祖父母等の親族」、「友人や知人」が上位を占め、その多くは身近な人達となっています。

一方で、気軽に相談できる相手（先）が「いない／ない」と回答した方は、就学前児童の保護者で5.0%、小学生の保護者で12.3%となっています。【問10・問10-1、[問8・問8-1]】

協力者が「いずれもいない」と回答した方が、気軽に相談できる相手（先）が「いない／ない」と回答している割合は、就学前児童の保護者では12.7%、小学生の保護者では40.2%となっています。【問9×問10、[問7×問8]】

以上の結果から、小学生保護者の孤立割合が高いことが分かりました。孤立した子育て環境にいる保護者に対してどのような子育て支援が必要とされ、有効であるかの把握が課題となっています。さらに、相談することができる公的な機関の充実や教育・保育施設等との連携、活動内容の周知、アクセスしやすく気軽に相談できる体制づくりなど、様々なニーズに即した新たな支援施策についても検討する必要があります。

また、最大の協力先である祖父母等親族に日常的に見てもらえる割合が減ってきていることから、子育て支援の主体をどのように多様化していくか研究する必要があります。

結果２　母親の就労率（育休等を含む）は就学前児童で79.7%、小学生で90.2%

母親の就労状況(産休･育休･介護休業中含む)をみると､就学前児童の保護者が79.7%、小学生の保護者が90.2%となり、そのうち産休、育休、介護休業中の方は、就学前児童の保護者で23.6%、小学生で0.6%となっています。

母親の就労状況を前回調査と比較すると、就学前児童の保護者が4.5ポイント、小学生の保護者が4.0ポイント増加しています。【問12、[問10]】

今後、少子化の進行と働く母親のさらなる増加について注視し、必要な保育供給量を見極めるとともに、就労実態に即した事業体制を整える必要があります。

結果３　年少児以上のこどもはほぼ全員が定期的な教育・保育事業を利用している。３歳児組の76.2%、２歳児の75.3%が定期的な保育事業を利用しており、利用していない家庭はまだこどもが小さいためとしている

平日の定期的な教育・保育事業の利用状況を年齢別にみると、５歳～６歳の100%、４歳の97.8%が定期的な教育・保育事業を利用しています。また、すでに３歳の76.2%、２歳の75.3%が､定期的な保育事業を利用しています｡また､１歳の31.5%､０歳の13.5%が定期的な保育事業を利用しています。【問2×問14】

利用していない理由として、０歳～２歳では「子どもがまだ小さいため□歳くらいになったら利用しようと考えている」の割合が最も高く、２歳～３歳では「利用したいが、保育･教育の事業に空きがない」､「利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない」と回答した割合が一定数あります。【問2×問14-5】

前回調査と比較すると「利用する必要がない」が12.3ポイント、「子どもの祖父母や親戚がみている」が5.0ポイント減少し､「(利用したいが)保育･教育の事業に空きがない」が2.3ポイント増加しています。【問14-5】

利用していない理由はこどもの年齢によって変化がみられます。国の制度改正によって令和元年10月より４歳～６歳(年少組以上)の保育料は無償化されましたが、年少組未満の保育料は有料です。

しかし、飯田市では女性就労率の上昇などを背景に、２歳～３歳の75%超が、未満児保育を利用している点が特徴的です。今後、未満児保育・乳児保育について「希望するが利用できない」とするニーズへ対応する体制について検討する必要があります。

結果４　保育園を選ぶときの基準は、０歳・１歳では母親または父親の職場に近いこと

保育園を選ぶときの基準として「母親の職場（職場が自宅の場合は自宅）に近いこと」「親の職場や近所の子に関わらず、地元小学校の通学区内に通わせたい」の割合が高くなっています。【問15-4】

年齢別にみると、２歳～６歳の保護者では、「親の職場や近所の子に関わらず地元小学校の通学区内に通わせたい」との回答が最も多くなっています。一方、０歳～２歳の保護者では、４割以上が「母親の職場（職場が自宅の場合は自宅）に近いこと」と、１割以上が「父親の職場（職場が自宅の場合は自宅）に近いこと」と回答しています。特に「父親の職場に近いこと」の回答は、前回に比べ4.4ポイント上昇しています。

また、０歳～４歳の保護者では、「園舎の設備や衛生面」、「外遊びをしっかりさせること」、「自然体験をさせてくれること」、「親の不安や子育ての相談を聞いてくれる」など、保育の内容や質への関心が見られます。

４歳～６歳の保護者では、「長く預かってくれること」「乳児から預かってくれること」といった回答が一定数見られます。

【問2×問15-4】【問1×年齢３区分（0～1歳・2～3歳・4～6歳）×問15-4】

こどもの数の動向を踏まえつつ、多様化する保護者のニーズに応えるために、保育園の配置・機能の集約化などについても議論していく必要があります。

結果５　病気やケガで幼稚園・小学校等を利用できなかった場合の対処方法は、「母親が休んだ」が「父親が休んだ」を大きく上回る

病気やケガで幼稚園・小学校等を利用できなかった場合の対処方法は、就学前児童の保護者、小学生の保護者いずれも「母親が休んだ」（就学前児童91.1％・小学校83.3％）が最も高く、「父親が休んだ」（就学前児童48.9％・小学生28.0％）、「親族・知人に子どもをみてもらった」（就学前児童39.5％・小学生28.4％）、「父親または母親のうち就労してない方が子どもをみた」（就学前児童8.9％・小学生5.8％）となっています。

前回調査と比較すると、就学前児童の保護者では「父親が休んだ」が28.3ポイント、「母親が休んだ」が13.3ポイント、小学生の保護者では「母親が休んだ」が13.4ポイント、「父親が休んだ」が11.8ポイント、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」が5.9ポイント高くなっています。【問21-1、[問12-1]】

病気やケガをしたこどもをみるのは母親の役目であるという役割意識の定着がうかがわれます。しかし、前回調査と比較すると、父親が休んだ割合が大幅に増加していることから、父親が休暇を取得しやすい職場環境づくりが徐々に始まっていると推察されます。さらに父親の育児参加の促進やワーク・ライフ・バランスの取組など、父親の育児参加を促すための対策を進めていく必要があります。

結果６　小学生の長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望が大幅に増加

放課後児童クラブの長期休暇期間中の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」「高学年になっても利用したい」と回答した方は小学生の保護者では82.5%となっています。また、就学前児童の保護者も、こどもがやがて小学生となったときの長期休暇中の児童クラブを求めている傾向がうかがえます。【問28、[問16]】

前回調査と比較すると、利用希望（「低学年の間は利用したい」＋「高学年になっても利用したい」の合計）は、小学生で53.4ポイント増加しています。【[問16]】

長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望について、利用者ニーズに合致した事業運営が提供できるよう、各事業の提供量について検証する必要があります。また、保護者の働き方に注視するとともに、運営側の人員や場所の確保等についても、関係各所と連携し、考えていく必要があります。

結果７　育児休業を取得又は取得中の就学前児童の母親は58.8%、父親は14.4%

就学前児童の保護者の育児休業の取得率をみると、母親が58.8%、父親が14.4%となり、前回調査と比較すると、母親は18.2ポイント、父親は12.6ポイント増加しています。

母親の育児休業取得期間についてみると、実際の取得期間、希望取得期間ともに「１歳～１歳半未満」（実際の取得期間56.0%、希望取得期間32.1%）が最も高くなっています。また、３歳以上の長期期間では、実際の取得期間（1.2%）より希望取得期間（30.0%）の割合が上回っています。

育児休業を取得していない理由は、母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が26.3%で前回調査同様最も高くなっていますが、前回と比較すると14.0ポイント減少しています。それ以外では、前回調査において15.1%であった「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が21.3%に増加しています。父親では「仕事が忙しかった」（43.8%）が最も高く、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」（42.3%）、「収入減となり、経済的に苦しくなる」（34.7%）となっています。

また、「その他」の理由として、母親・父親ともに「自営業のため」「フリーランスのため」との回答が多くなっています。【問30・問30-1・問30-4】

以上の結果から、子育て世帯への社会全体の意識の変化にともない、母親・父親ともに育児休業取得率が前回調査時よりも高くなっています。

一方で、育児休業から復帰したときのこどもの実際の月齢と希望する月齢との差があることから、希望の育児休業期間を取得できるような職場の環境づくりなど、安心して出産、子育てができるよう、経済的な支援を含めた更なる取得の支援を推進する必要があります。

結果８　地域の行事や園・学校の行事への参加（「よく参加している」＋「時々参加している」）割合は高いが、まったく参加していない割合は就学前児童保護者で高い

地域の行事等に参加している割合（「よく参加している」＋「時々参加している」）は就学前児童の保護者で55.0%、小学生の保護者で78.2%となっています。

また、お子さんが通う園や学校の行事に参加している割合（「よく参加している」＋「時々参加している」）は、就学前児童の保護者で70.6%、小学生の保護者で97.4%となっています。

一方で、地域の行事等にまったく参加していない割合は、就学前児童の保護者で22.0%、小学生の保護者で6.7%となっています。【問39①②、[問25①②]】

以上の結果から、行事の参加については年齢が上がると参加率が高くなる傾向にありますが、まったく行事に参加していない割合は、就学前児童の保護者で高い結果となっています。

地域住民との関わりが少ない家庭が一定数みられることから、主任児童委員（民生児童委員）をはじめ、地域住民の声掛け等、推進していく必要があります。また、こどもの人間関係形成能力をはぐくむために、地域で交流できる機会やイベントの企画などを通して、地域全体でこどもを見守っていく環境づくりの整備が望まれます。

結果９　子育て環境や支援に対する満足度（「高い」＋「やや高い」＋「ふつう」）は、就学前児童保護者で53.4%、小学生保護者で52.1%

子育て環境や支援に対する保護者の満足度をみると、就学前児童の保護者、小学生の保護者いずれも「ふつう」（就学前児童41.2%・小学生42.7%）が最も高く、「高い＋やや高い」（就学前児童12.2%・小学生9.4%）、「やや低い＋低い」（就学前児童46.2%・小学生47.5%）となっています。【問44、[問30]】

今後さらにこの評価を引き上げていくには、現在実施している事業に対して、ニーズに即した対策の見直し・改善を図る必要があります。また、子育てにかかる地域資源など市内の子育て環境が市民に十分認知されるよう、浸透性の高い情報発信のあり方について、さらなる検討が必要です。

第２章
子育て家庭を取り巻く環境

第２章　子育て家庭を取り巻く環境

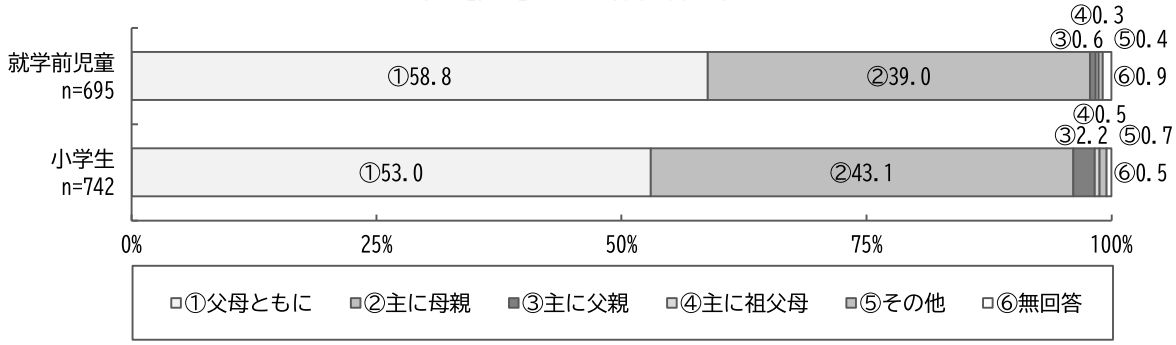
１　子育ての環境について

（１）主な保育者と親族等協力者の状況

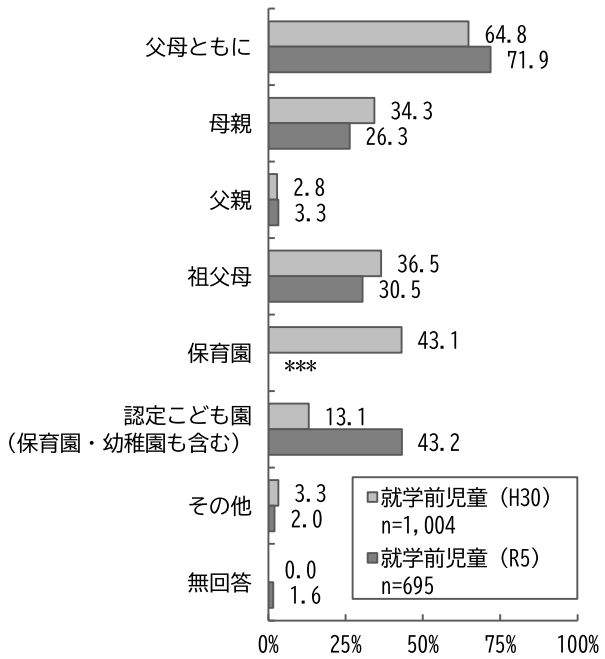
○主な保育者の状況をみると、「父母ともに」「主に母親」を合わせると就学前児童では97.8%、小学生では96.1%となっています。

○日常的に子育てに関わっている人（施設含む）をみると、就学前児童では、「父母ともに」(71.9%) が最も高く、次いで「認定こども園（保育園・幼稚園も含む)」(43.2%)、「祖父母」（30.5%）となっています。前回調査と比較すると、「父母ともに」の割合が増加し、「母親」「祖父母」の割合が減少しています。

問6[問6]　主な保育者の状況



問7　子育てに日常的に関わっている人・施設（経年比較）

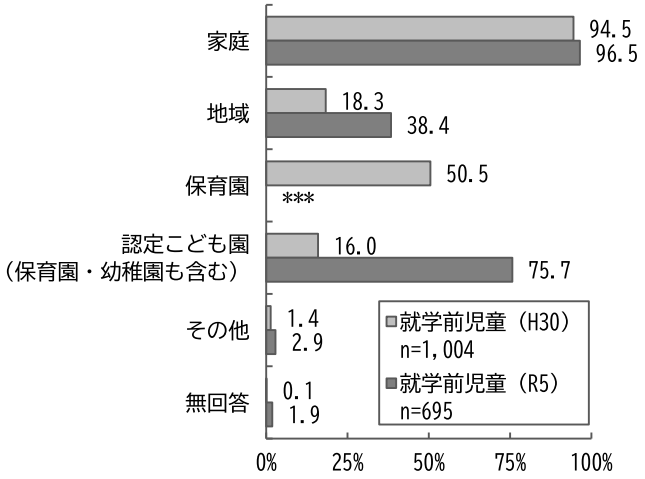


※「保育園」はR5年調査では「認定こども園（保育園・幼稚園も含む)」へ統合のため、選択肢がありません。
H30は「認定こども園（幼稚園も含む)」となっています

○子育てに影響を与える環境をみると、就学前児童では、「家庭」（96.5%）が最も高く、次いで「認定こども園（保育園・幼稚園も含む）」（75.7%）、「地域」（38.4%）となっています。前回調査と比較すると、「地域」の割合が大幅に増加しています。

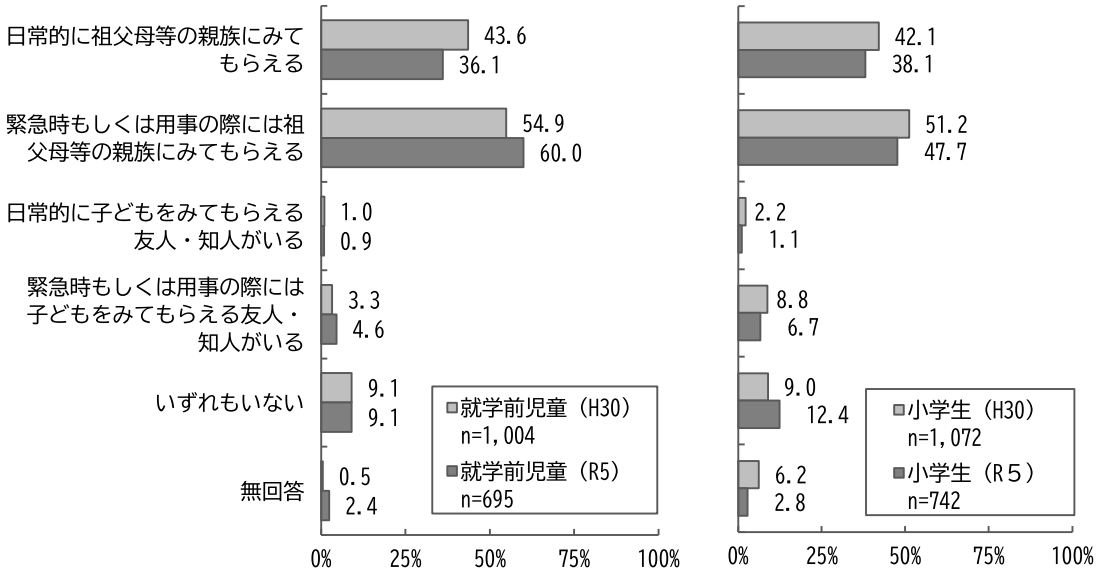
○親族、知人等協力者の状況をみると、就学前児童、小学生いずれも「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」（就学前児童60.0%、小学生47.7%）、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」（就学前児童36.1%、小学生38.1%）と回答した方が多い一方で、「いずれもいない」と回答した方が就学前児童では9.1%、小学生では12.4%となっています。前回調査と比較すると、就学前、小学生ともに「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が減少し、小学生では、「いずれもいない」が増加しています。

問8　子育てに影響を与えると思う環境（経年比較）



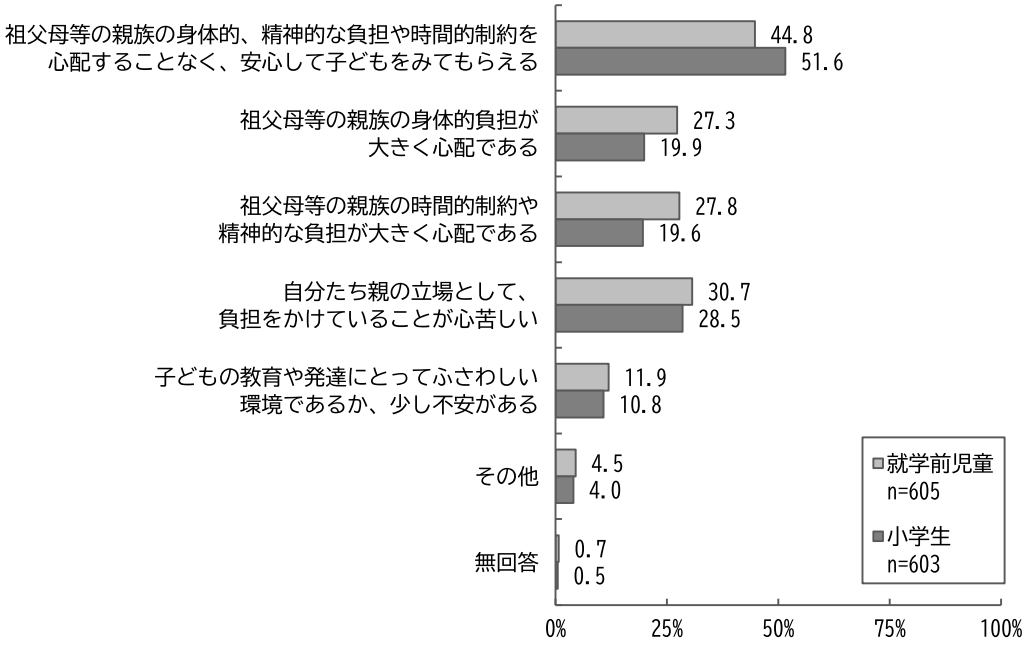
※「保育園」はR5年調査では「認定こども園（保育園・幼稚園も含む）」へ統合のため、選択肢がありません。
H30は「認定こども園（幼稚園も含む）」となっています

問9[問7]　親族、知人等の協力者の状況（経年比較）



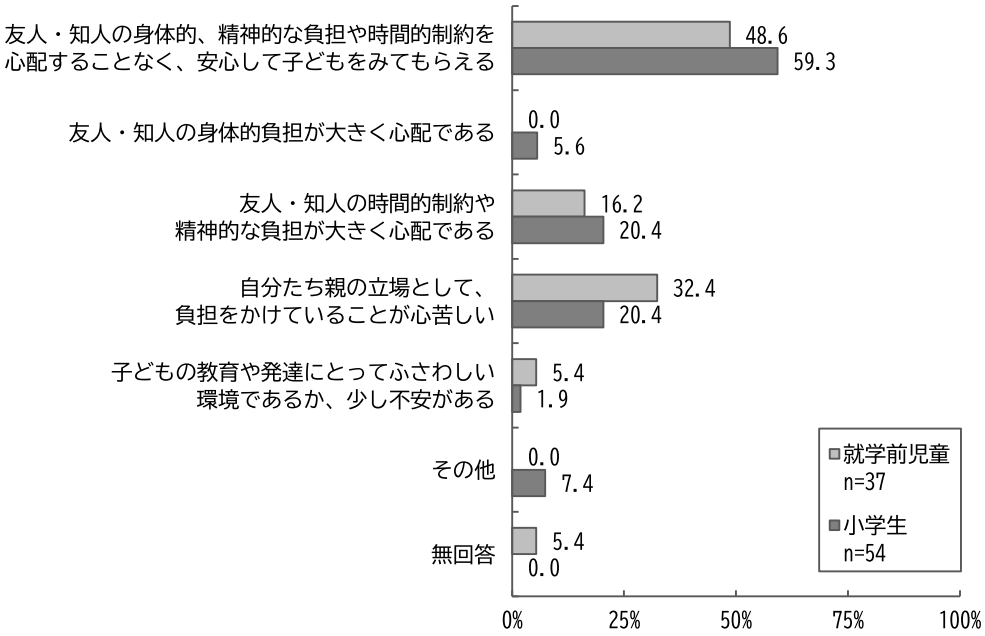
○祖父母等の親族にこどもをみてもらっている状況をみると、就学前児童、小学生いずれも「祖父母等の親族の身体的、精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」(就学前児童44.8%、小学生51.6%)が最も高いものの、一方で、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」（就学前児童27.3%、小学生19.9%)、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(就学前児童27.8%、小学生19.6%)「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(就学前児童30.7%、小学生28.5%）と祖父母等の負担を心配しながらみてもらっている割合も高くなっています。

問9-1[問7-1]　祖父母等の親族に子どもをみてもらうことへの考え



○友人、知人にこどもを預かってもらっている状況をみると、就学前児童、小学生いずれも「友人・知人の身体的、精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」（就学前児童48.6%、小学生59.3%）が最も高いものの、一方で、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（就学前児童32.4%、小学生20.4%）「友人、知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」（就学前児童16.2%、小学生20.4%）と回答した方の割合も多く、友人、知人の負担を心配しながらみてもらっている状況です。

問9-2[問7-2]　友人、知人に子どもをみてもらうことへの考え

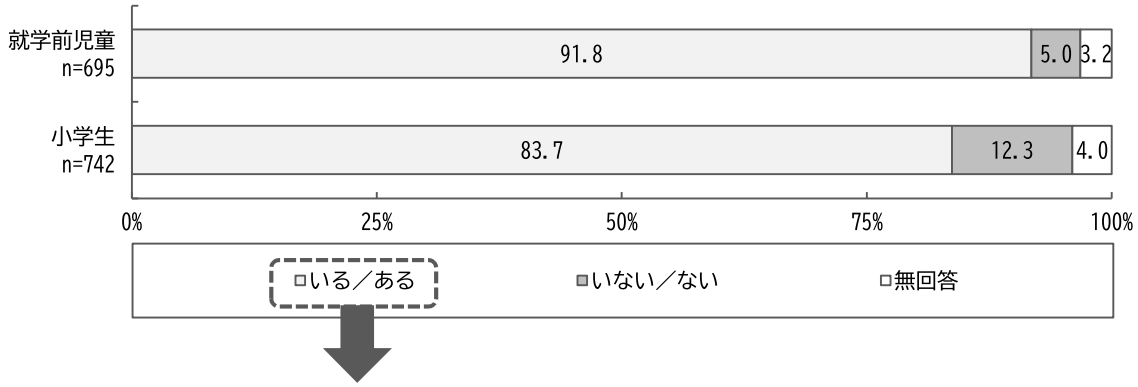


（２）子育てに関する相談者の状況

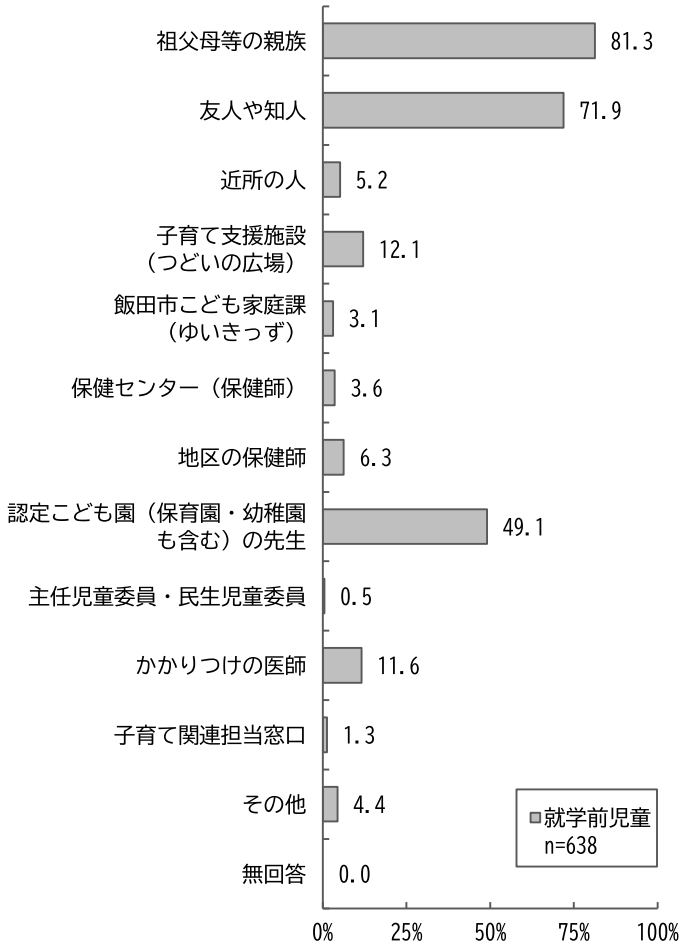
○気軽に相談できる人の有無をみると、「いる／ある」が就学前児童では91.8%、小学生では83.7%となっています。

○気軽に相談できる先の状況をみると、就学前児童では、「祖父母等の親族」（81.3%）が最も高く、次いで「友人や知人」（71.9%）、「認定こども園（保育園・幼稚園も含む）の先生」（49.1%）となっています。

問10[問8]　子育てに関して気軽に相談できる人（場所）の有無

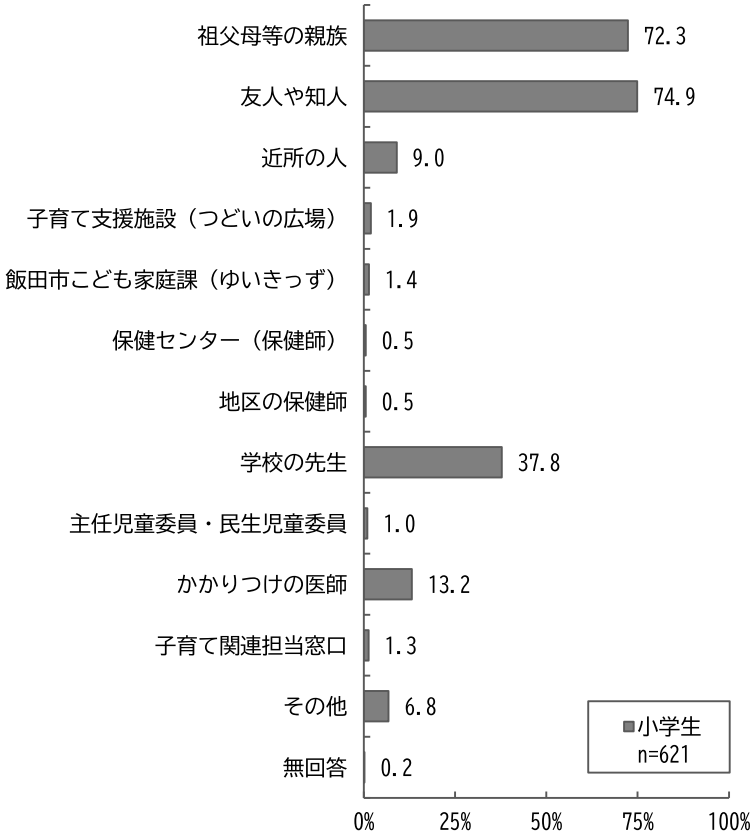


問10-1　気軽に相談できる先



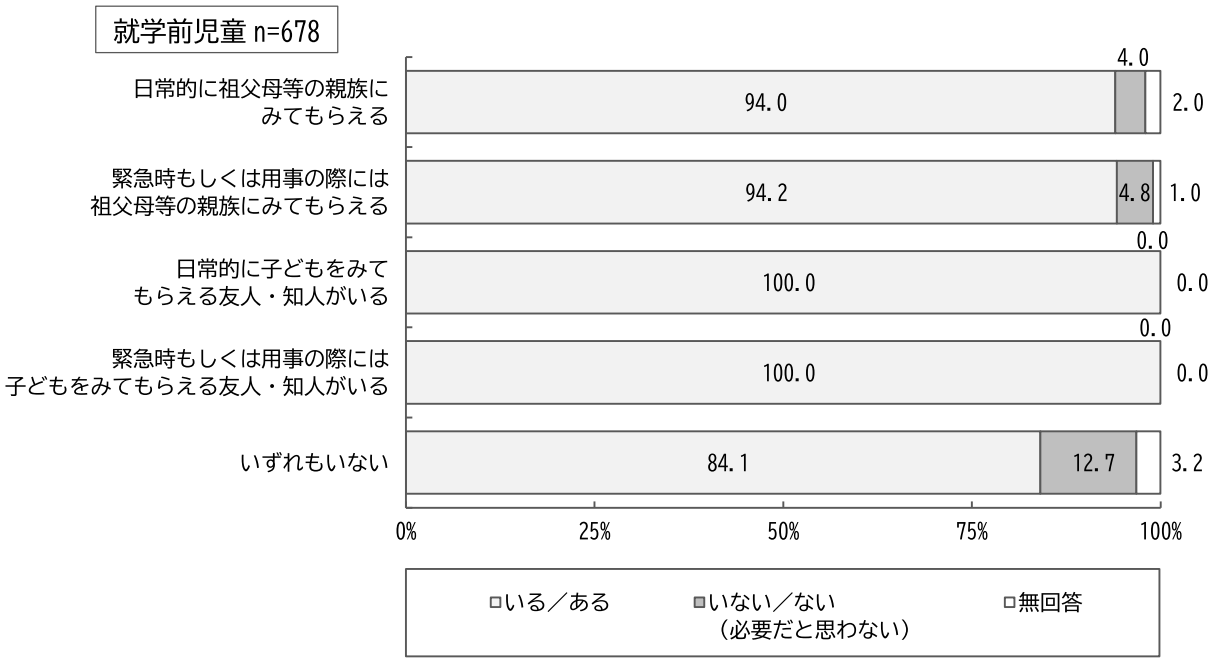
○気軽に相談できる先の状況をみると、小学生では、「友人、知人」（74.9%）が最も高く、次いで「祖父母等の親族」（72.3%）、「学校の先生」（37.8%）となっています。

［問8-1］　気軽に相談できる先

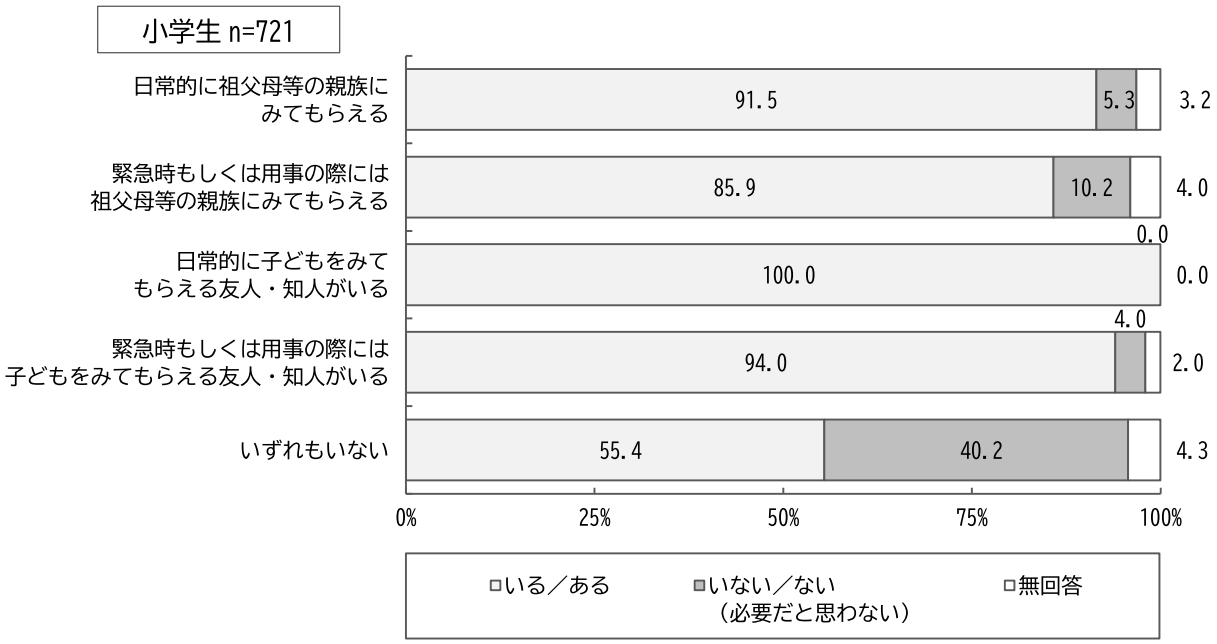


○親族、知人等の協力者の状況を子育てに関して気軽に相談できる人（場所）の有無別にみると、協力者も気軽に相談できる人も「いない/ない」と回答した方は、就学前児童では12.7%、小学生では40.2%となっています。

問9　親族、知人等の協力者の状況×問10　子育てに関して気軽に相談できる人（場所）の有無



［問7］　親族、知人等の協力者の状況×［問8］　子育てに関して気軽に相談できる人（場所）の有無



2　保護者の就労状況

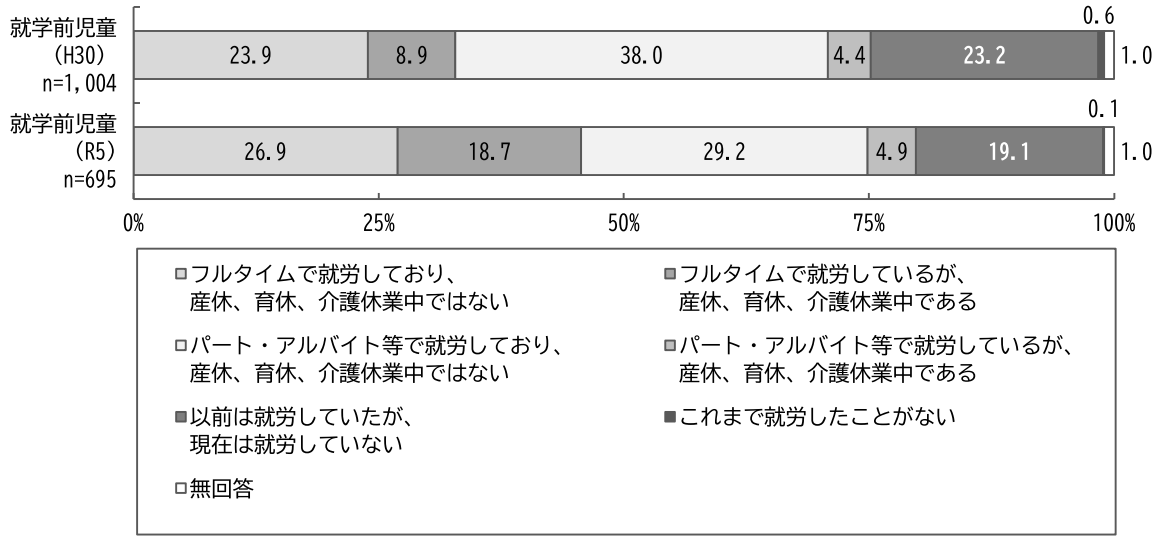
（1）母親の就労状況

○母親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」（産休・育休・介護休業中含む）を合わせた現在就労している方は、就学前児童が79.7%、小学生が90.2%となっています。そのうち産休、育休、介護休業を取得中の方は、就学前児童が23.6%、小学生が0.6%となっています。

○前回調査と比較すると、就労している母親は、就学前児童が4.5ポイント、小学生が4.0ポイント増加しています。

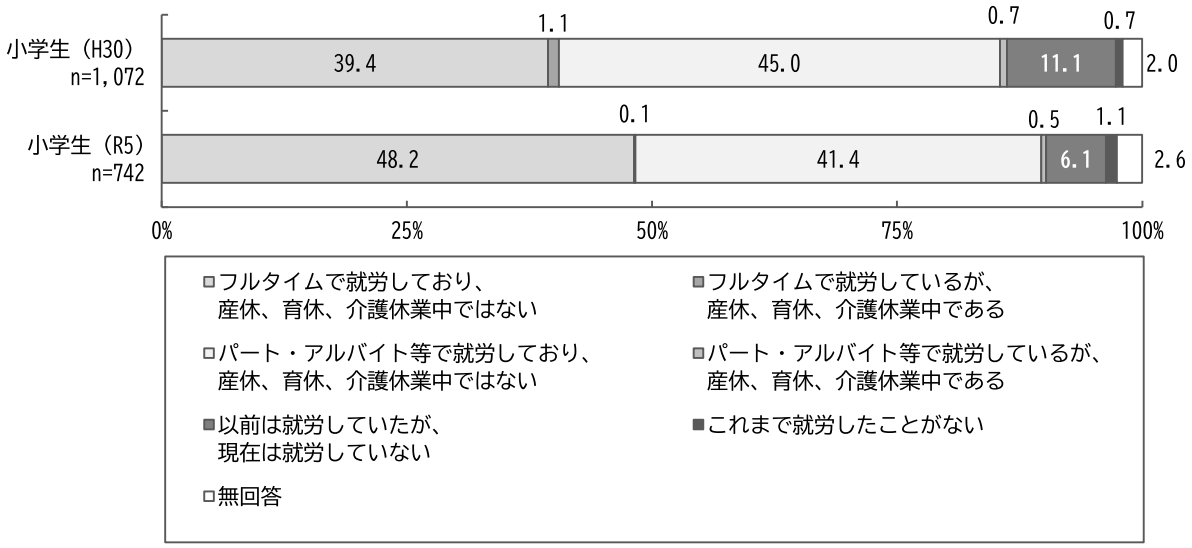
問12　母親の就労状況（経年比較）

就学前児童



［問10］　母親の就労状況（経年比較）

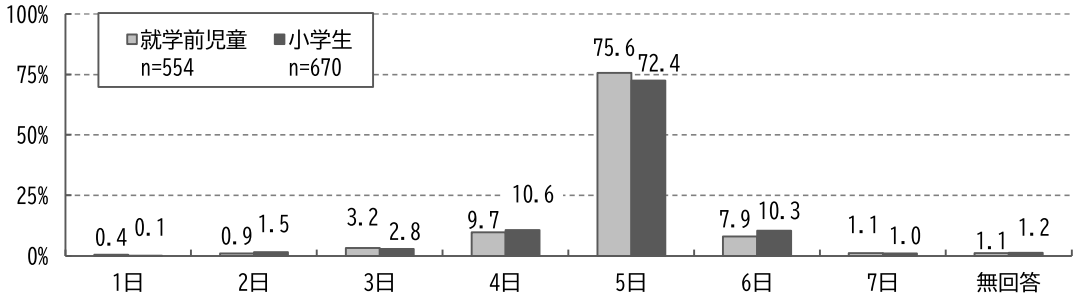
小学生



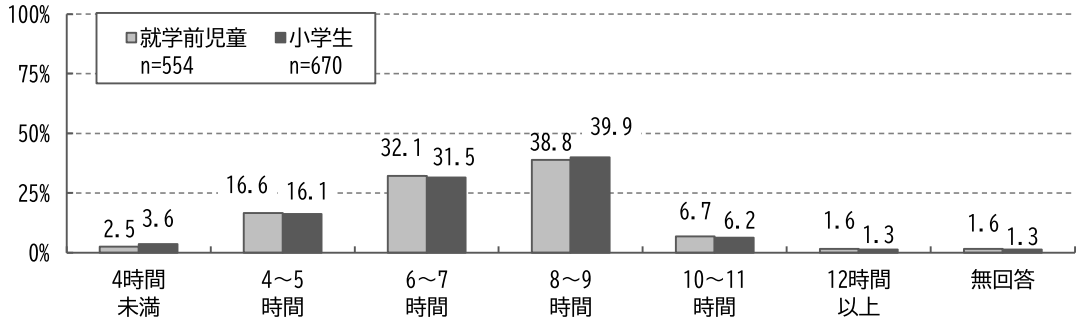
○母親の就労日数をみると、就学前児童、小学生いずれも「５日」（就学前児童75.6%、小学生72.4%）が最も高くなっています。

○母親の就労時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「８～９時間」（就学前児童38.8%、小学生39.9%）が最も高く、「６～７時間」（就学前児童32.1%、小学生31.5%）となっています。

問12-1(1)[問10-1(1)]　母親の就労日数（１週当たり）



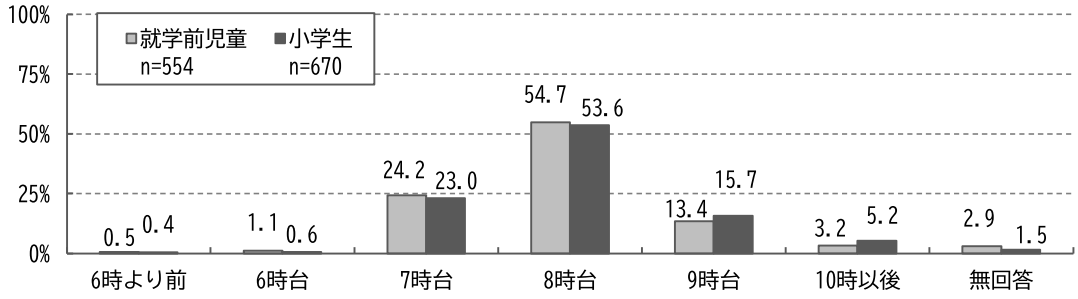
問12-1(1)[問10-1(1)]　母親の就労時間（１日当たり）



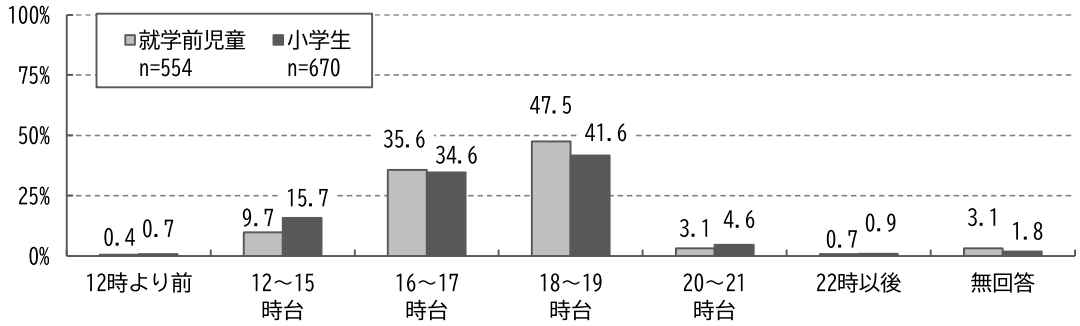
○母親の家を出る時刻をみると、就学前児童、小学生いずれも「８時台」（就学前児童54.7%、小学生53.6%）が最も高く、次いで「７時台」（就学前児童24.2%、小学生23.0%）となっています。

○母親の帰宅時刻をみると、就学前児童、小学生いずれも「18～19時台」（就学前児童47.5%、小学生41.6%）が最も高く、次いで「16～17時台」（就学前児童35.6%、小学生34.6%）となっています。

問12-1(2)[問10-1(2)]　母親の家を出る時刻



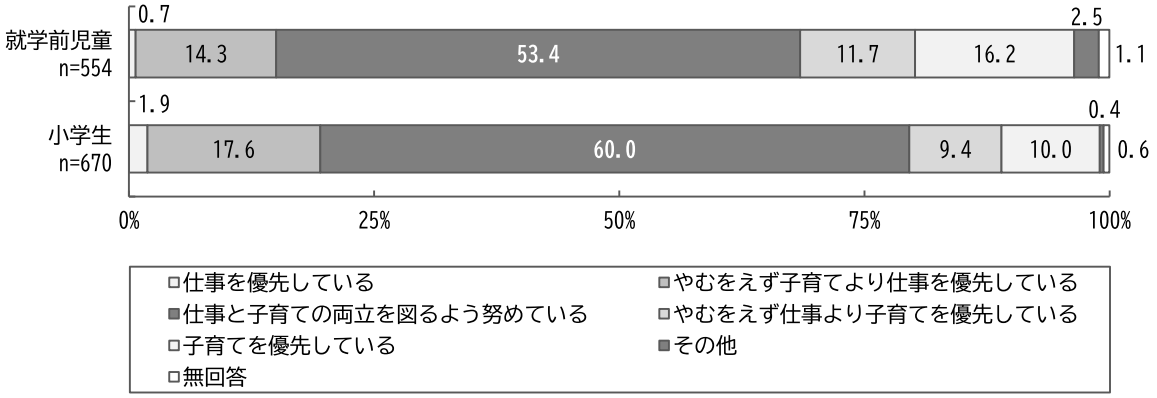
問12-1(2)[問10-1(2)]　母親の帰宅時刻



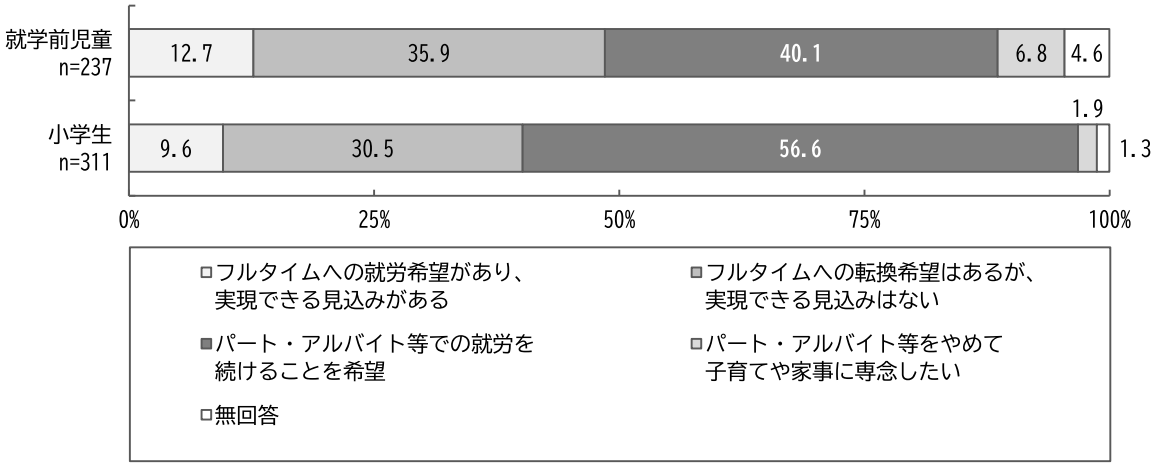
○母親の仕事と子育ての両立の状況についてみると、就学前児童、小学生いずれも「仕事と子育ての両立を図るよう努めている」（就学前児童53.4%、小学生60.0%）となっています。

○母親のフルタイム勤務に対する意向をみると、就学前児童、小学生いずれも「パート・アルバイト等での就労を続けることを希望」（就学前児童40.1%、小学生56.6%）となっています。また、フルタイムへの転換希望は就学前児童が48.6%、小学生が40.1%あり、約１割の方が実現できる見込みがあります。

問12-2[問10-2]　仕事と子育ての両立



問12-3[問10-3]　母親のフルタイム勤務に対する意向

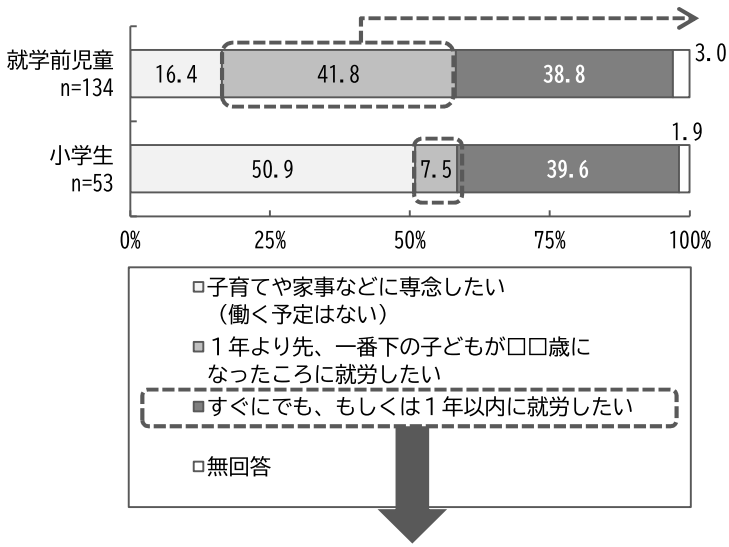


○現在就労していないが、今後就労したい母親の希望をみると、就学前児童では80.6%となっており、その内訳は「１年より先、一番下の子どもが□□歳になったころに就労したい」（41.8%）、「すぐにでも、もしくは１年以内に働きたい」（38.8%）となっています。小学生では47.1%となっており、その内訳は「１年より先、一番下の子どもが□□歳になったころに就労したい」（7.5%）、「すぐにでも、または１年以内に就労したい」（39.6%）となっています。

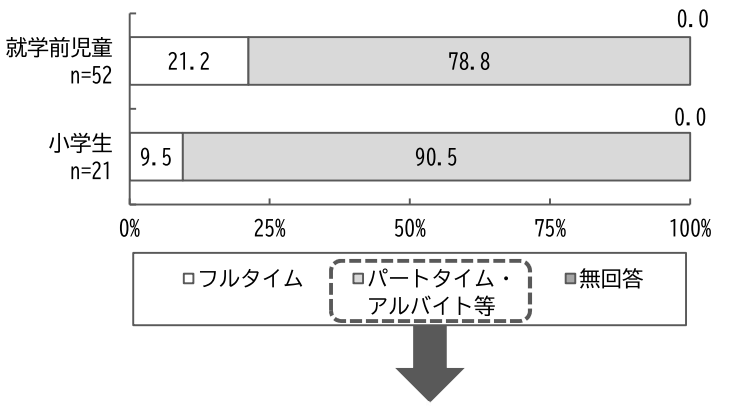
○現在就労していないが、今後就労したい母親の希望する就労形態をみると、就学前児童では「パートタイム・アルバイト等」（78.8%）、「フルタイム」（21.2%）となっています。小学生では「パートタイム・アルバイト等」（90.5%）、「フルタイム」（9.5%）となっています。

○現在就労していないが、「今後就労したい母親の希望する就労時期となる子どもの年齢」は就学前児童では「０～３歳」（82.2%）、小学生では「８歳以上」（75.0%）が最も高くなっています。

問12-4[問10-4]　就労していない母親の就労希望



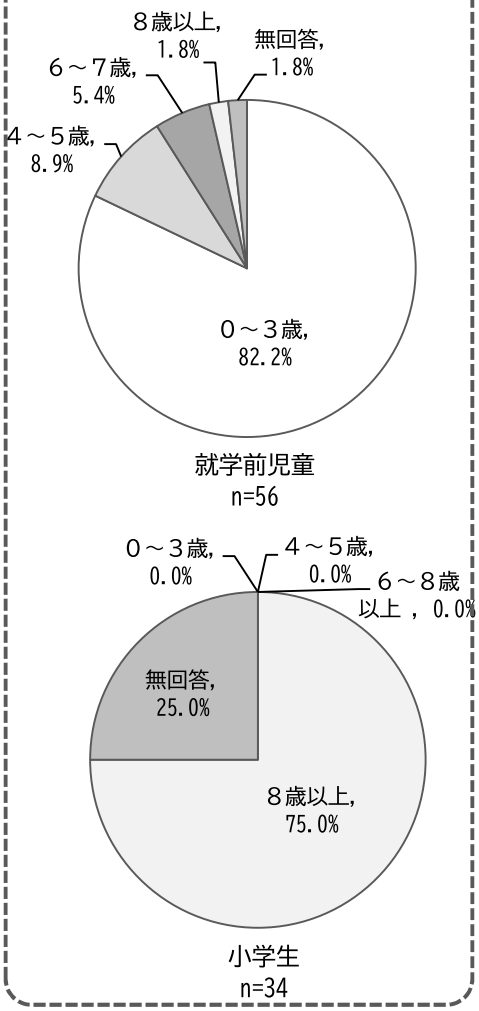
【母親の希望する就労形態】



【希望就労日数と希望就労時間】へ

「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったころに就労したい」を選んだ方

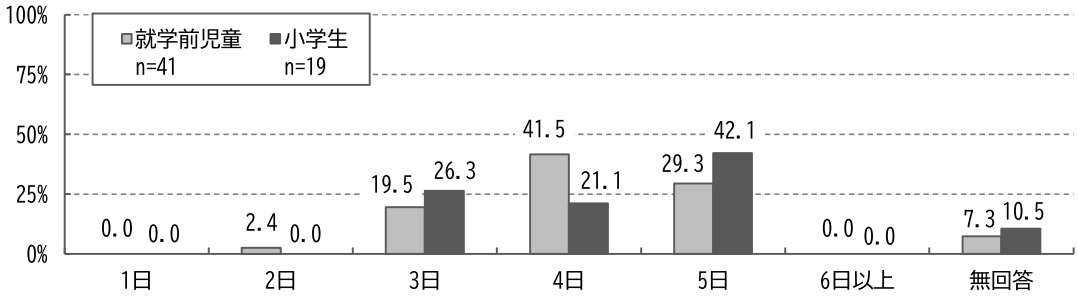
【就労希望時の末子の年齢】



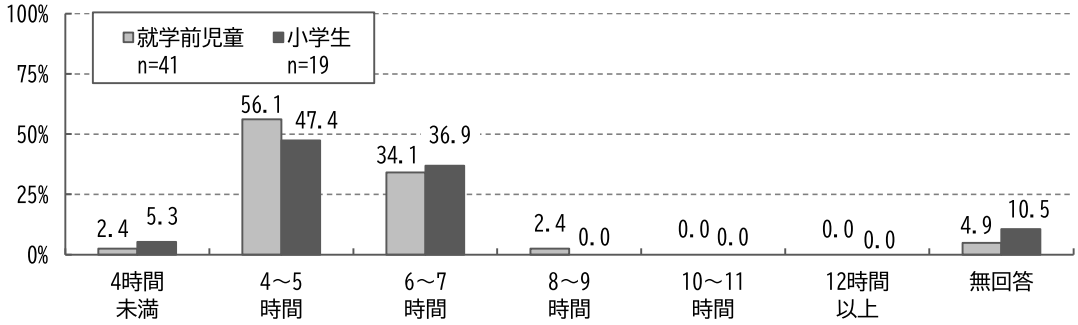
○パートタイム・アルバイト等での就労を希望する母親の希望就労日数をみると、就学前児童では「４日」(41.5%) が最も高く、次いで「５日」(29.3%)、「３日」(19.5%) となっています。小学生では「５日」(42.1%) が最も高く、次いで「３日」(26.3%)、「４日」(21.1%) となっています。

○パートタイム・アルバイト等での就労を希望する母親の希望就労時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「４～５時間」(就学前児童56.1%、小学生47.4%) が最も高く、次いで「６～７時間」(就学前児童34.1%、小学生47.4%) となっています。

問12-4[問10-4]　パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労日数（１週当たり）



問12-4[問10-4]　パートタイム・アルバイト等希望の母親の希望就労時間（１日当たり）



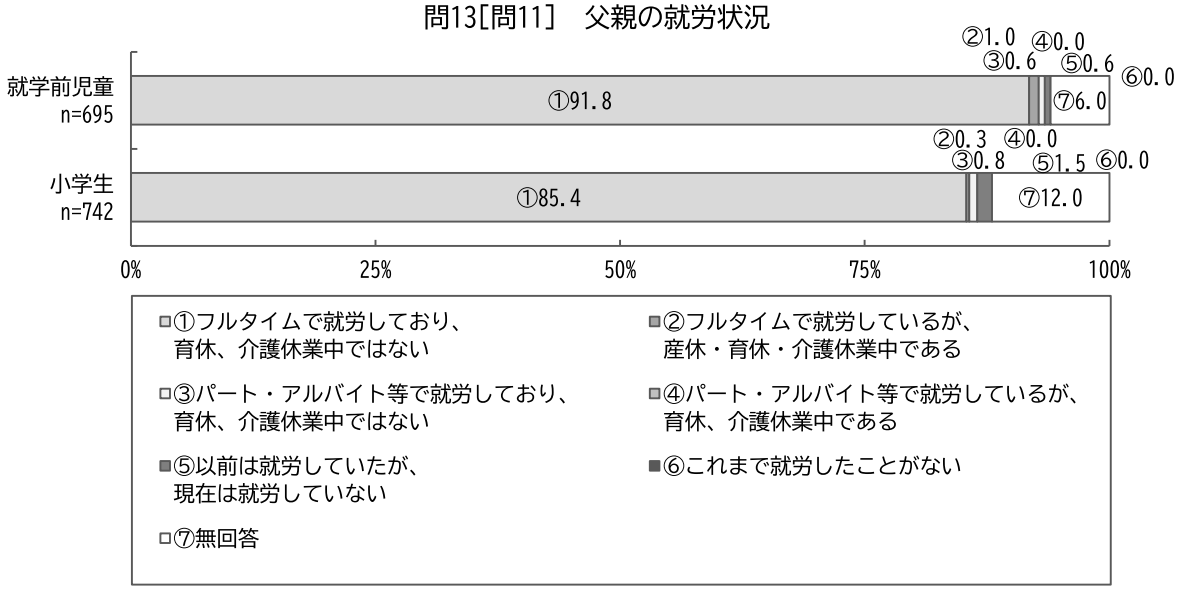
（２）父親の就労状況

○父親の就労状況をみると、「フルタイムで就労している」「パート・アルバイト等で就労している」を合わせると就学前児童では93.4%、小学生では86.5%となっています。

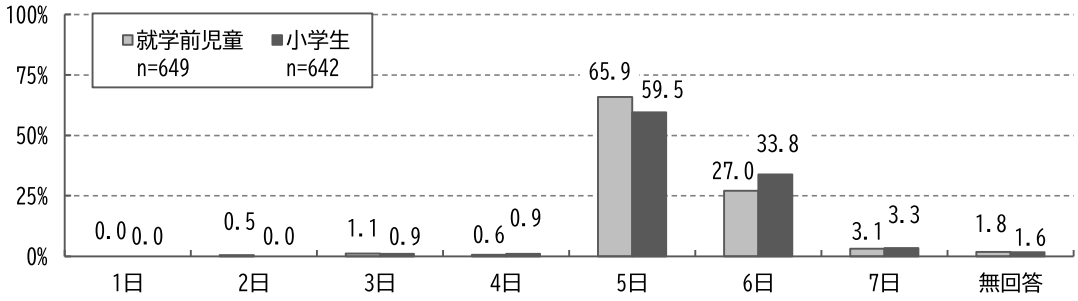
○父親の就労日数をみると、就学前児童、小学生いずれも「５日」（就学前児童65.9%、小学生59.5%）が最も高く、次いで「６日」（就学前児童27.0%、小学生33.8%）となっています。

○父親の就労時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「８～９時間」（就学前児童54.7%、小学生58.1%）が最も高く、次いで「10～11時間」（就学前児童25.3%、小学生23.7%）となっています。

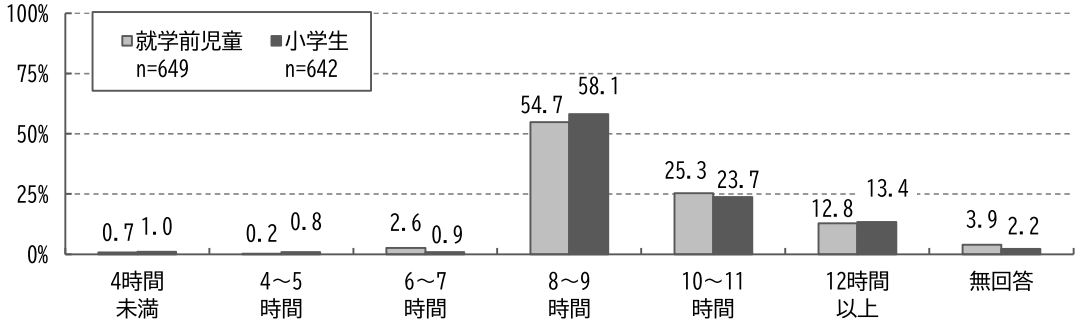
問13[問11]　父親の就労状況



問13-1(1)[問11-1(1)]　父親の就労日数（１週当たり）



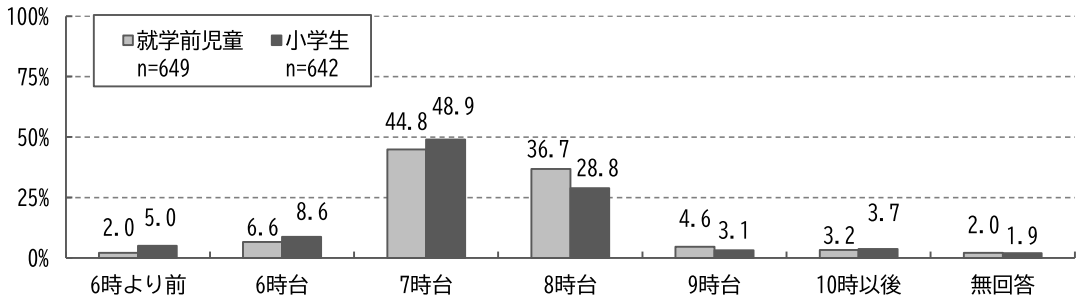
問13-1(1)[問11-1(1)]　父親の就労時間（１日当たり）



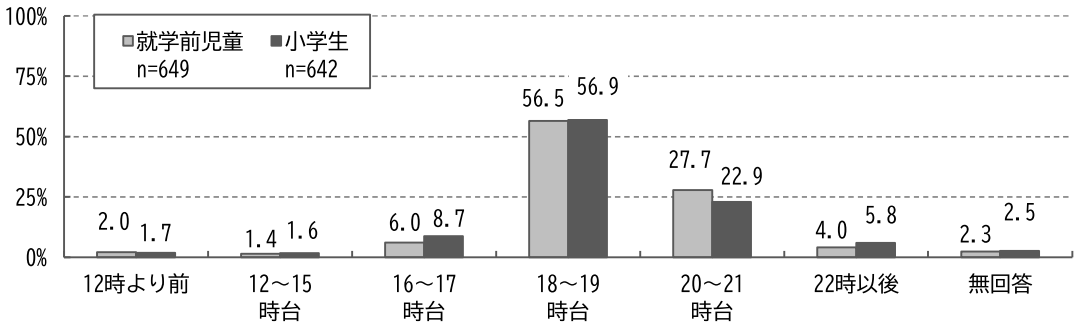
○父親の家を出る時刻をみると、就学前児童、小学生いずれも「７時台」（就学前児童44.8%、小学生48.9%）が最も高く、次いで「８時台」（就学前児童36.7%、小学生28.8%）となっています。

○父親の帰宅時刻をみると、就学前児童、小学生いずれも「18～19時台」（就学前児童56.5%、小学生56.9%）が最も高く、次いで「20～21時台」（就学前児童27.7%、小学生22.9%）となっています。

問13-1(2)[問11-1(2)]　父親の家を出る時刻



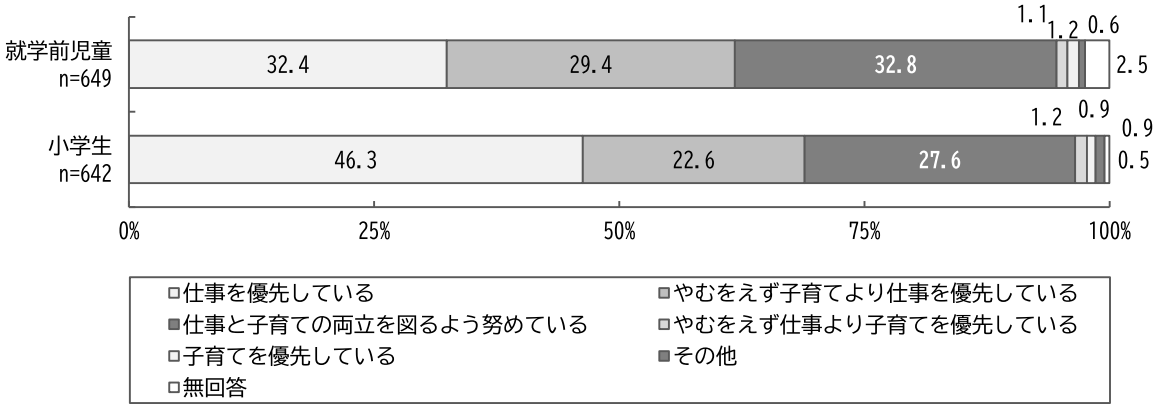
問13-1(2)[問11-1(2)]　父親の帰宅時刻



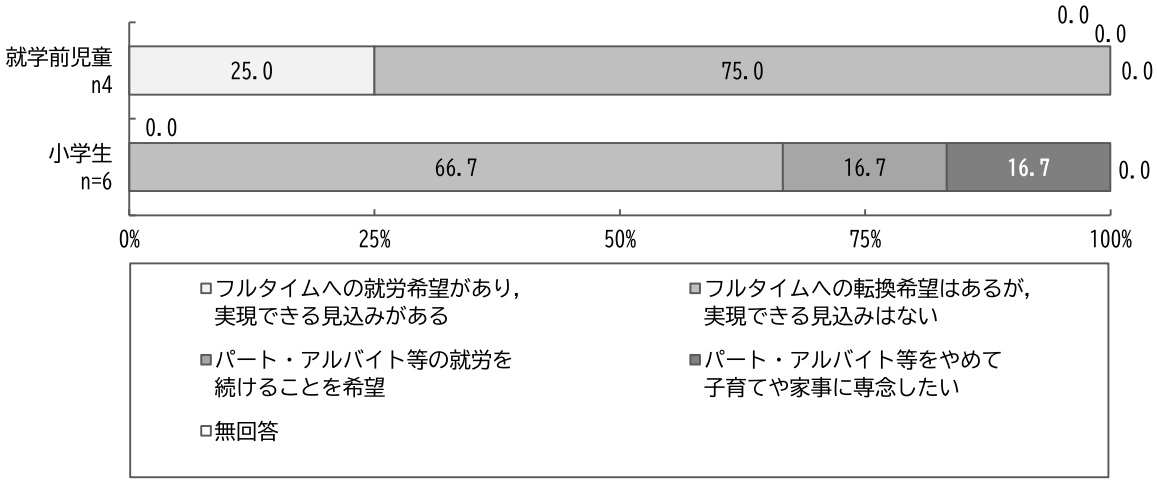
○父親の仕事と子育ての両立の状況についてみると、就学前児童、小学生いずれも「仕事と子育ての両立を図るよう努めている」（就学前児童32.8%、小学生27.6%）となっています。

○父親のパートタイムからフルタイムへの転換意向は以下のとおりです。

問13-2[問11-2]　仕事と子育ての両立

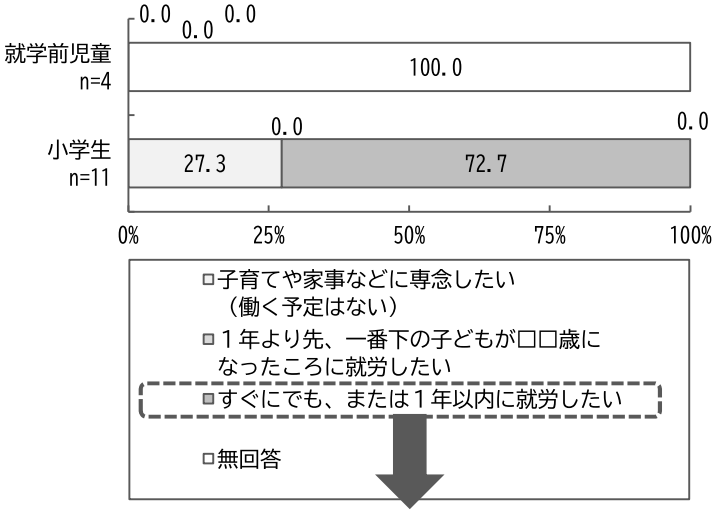


問13-3[問11-3]　父親のフルタイム勤務に対する意向



○現在就労していない父親の今後の就労意向は、以下のとおりです。

問13-4[問11-4]　就労していない父親の就労希望

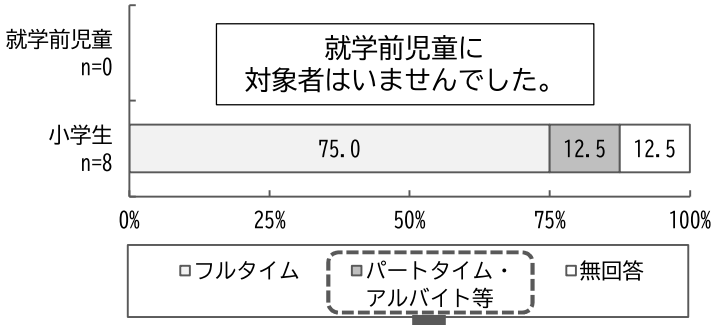


「１年より先、一番下の子どもが□□歳になったころに就労したい」を選んだ方

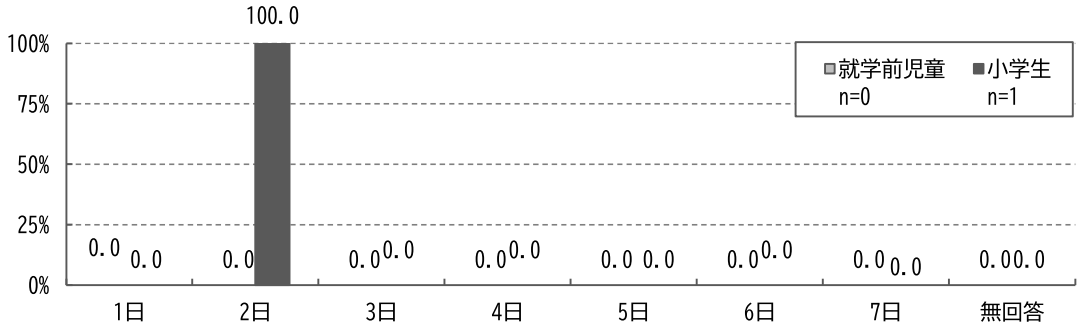
【就労希望時の末子の年齢】

就学前児童、小学生に対象者はいませんでした。

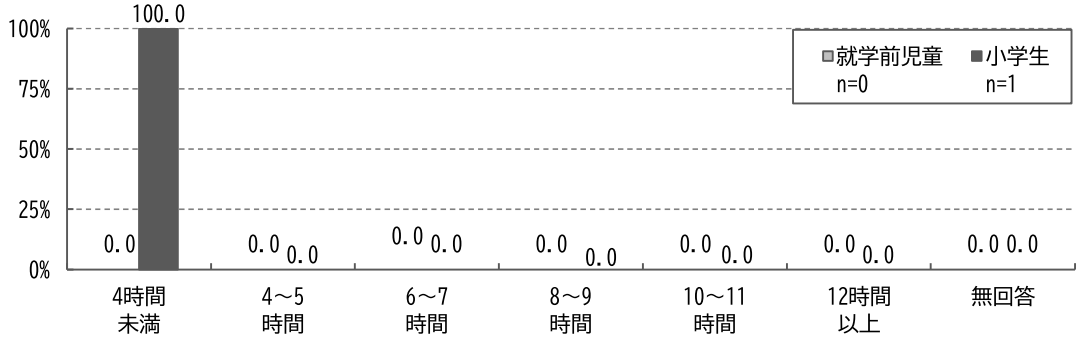
【父親の希望する就労形態】



問13-4[問11-4]　就労希望のある父親の希望就労日数（１週当たり）



問13-4[問11-4]　就労希望のある父親の希望就労時間（１日当たり）



第３章
子育て支援サービスの現状と
今後の利用希望

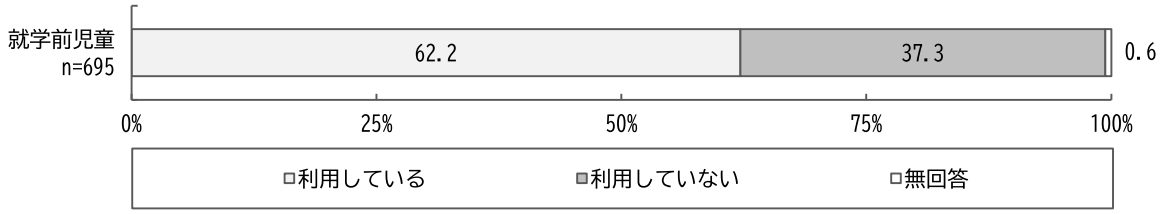
第３章　子育て支援サービスの現状と今後の利用希望

１　就学前児童の平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

（１）平日の定期的な教育・保育事業

○定期的な教育・保育事業の利用状況をみると、「利用している」が62.2%、「利用していない」が37.3%となっています。

問14　定期的な教育・保育事業の利用状況



年代別

○問14「定期的な教育・保育事業の利用状況」を年齢別でみると、５歳、６歳では「利用している」がそれぞれ100%となっています。２歳から４歳でも「利用している」が高くなっています。一方、０歳、１歳は「利用していない」割合が高くなっています。

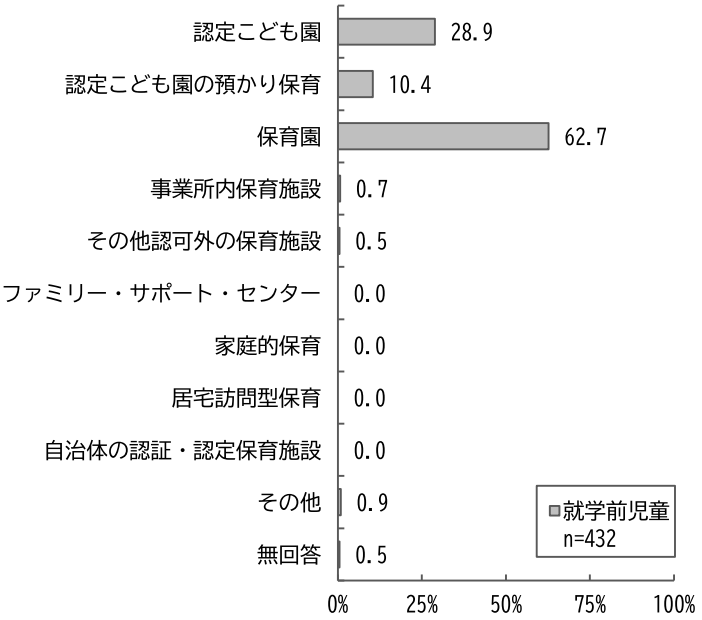
問２　宛名の子どもの年齢×問14　定期的な教育・保育事業の利用状況

単位：（%）

	件	利用している	利用していない	無回答
合計	688	62.6	36.9	0.4
６歳	76	100.0	－	－
５歳	71	100.0	－	－
４歳	89	97.8	1.1	1.1
３歳	84	76.2	21.4	2.4
２歳	97	75.3	24.7	－
１歳	130	31.5	68.5	－
０歳	141	13.5	86.5	－

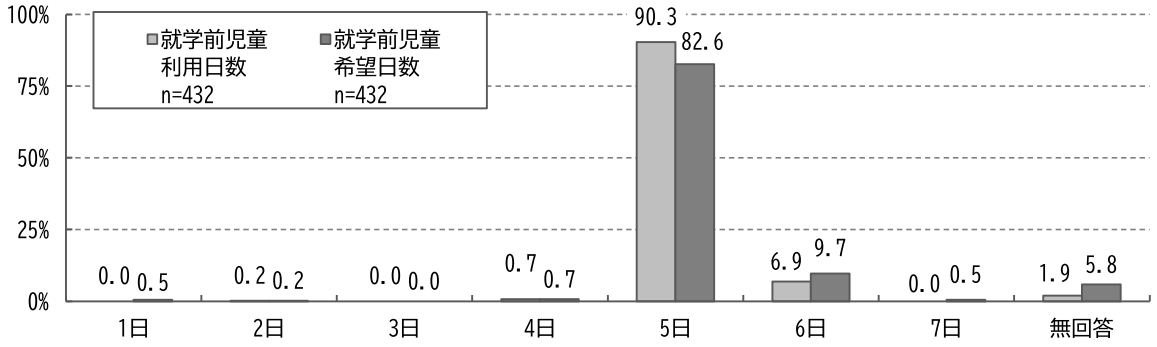
○利用中の事業をみると、「保育園」（62.7%）が最も高く、次いで「認定こども園」（28.9%）、「認定こども園の預かり保育」（10.4%）となっています。

問14-1　定期的な教育・保育事業の利用状況



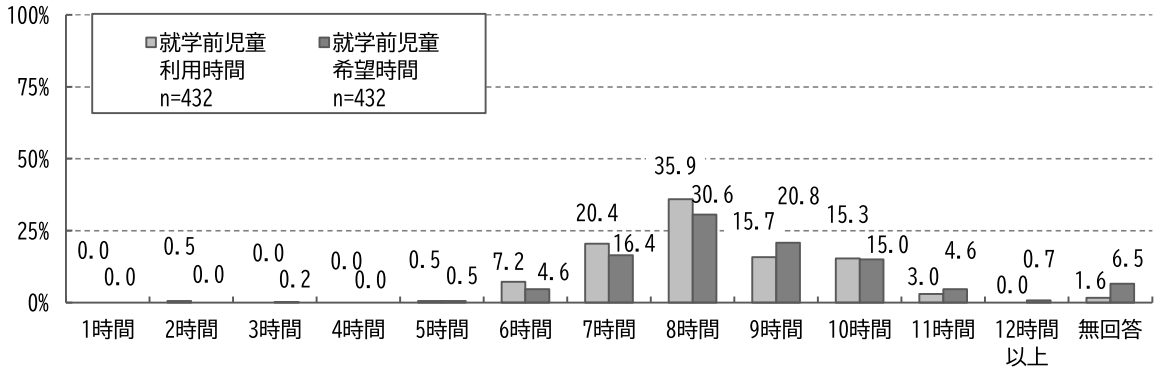
○定期的な教育・保育事業の１週当たりの利用日数と希望日数をみると、利用日数、希望日数いずれも「５日」（利用日数90.3%、希望日数82.6%）が最も高くなっています。

問14-2(1)(2)　定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数（１週当たり）



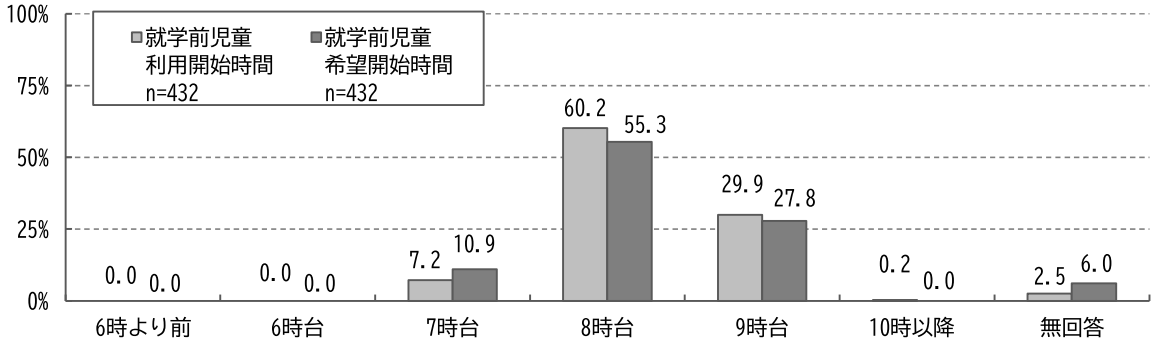
○１日当たりの利用時間と希望時間をみると、利用時間、希望時間いずれも「８時間」（利用時間35.9%、希望時間30.6%）が最も高く、次いで利用時間では「７時間」（20.4%）、希望時間では「９時間」（20.8%）となっています。

問14-2(1)(2)　定期的な教育・保育事業の利用時間と希望時間（１日当たり）



○定期的な教育・保育事業の利用開始時間と希望開始時間をみると、利用開始時間、希望開始時間いずれも「８時台」（利用開始時間60.2%、希望開始時間55.3%）が最も高くなっています。

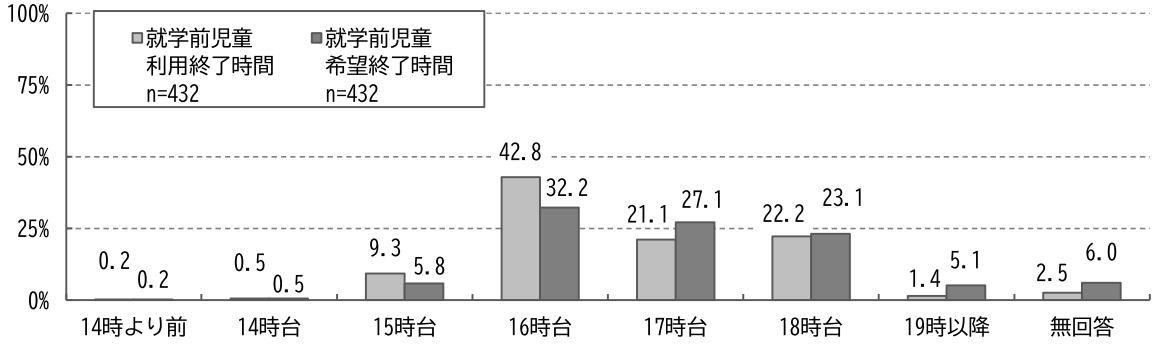
問14-2(1)(2)　利用開始時間　希望開始時間



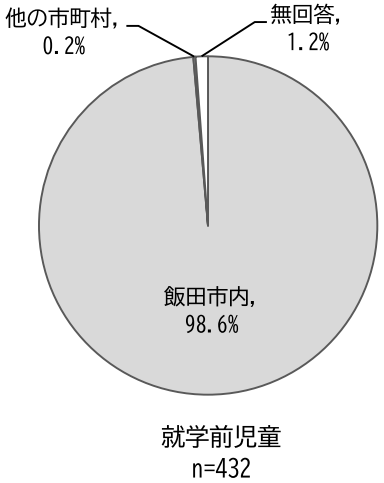
○定期的な教育・保育事業の利用終了時間と希望終了時間をみると、利用終了時間、希望終了時間いずれも「16時台」（利用終了時間42.8%、希望終了時間32.2%）が最も高くなっています。

○現在、利用している教育・保育事業の実施場所をみると、「飯田市内」が98.6%となっています。

問14-2(1)(2)　利用終了時間　希望終了時間



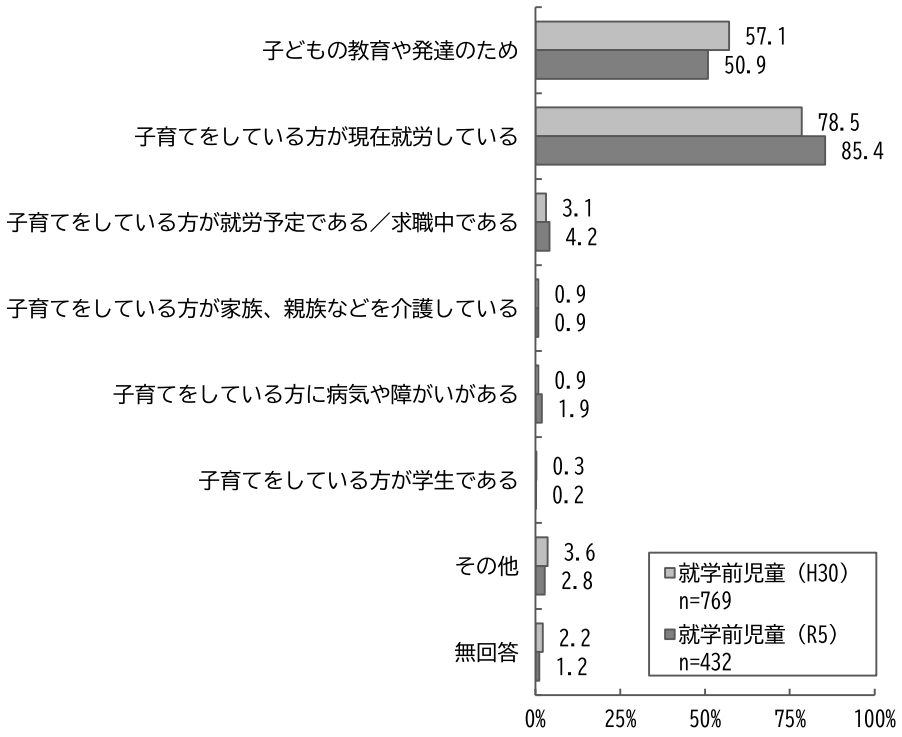
問14-3　現在、利用している教育・保育事業の実施場所



（２）定期的な教育・保育事業の利用理由と未利用の理由

○平日に教育・保育事業を利用している理由をみると、「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」(85.4%)が最も高く、次いで「子どもの教育や発達のため」（50.9%）となっています。前回調査と比較すると、「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」が6.9ポイント増加し、「子どもの教育や発達のため」が6.2ポイント減少しています。

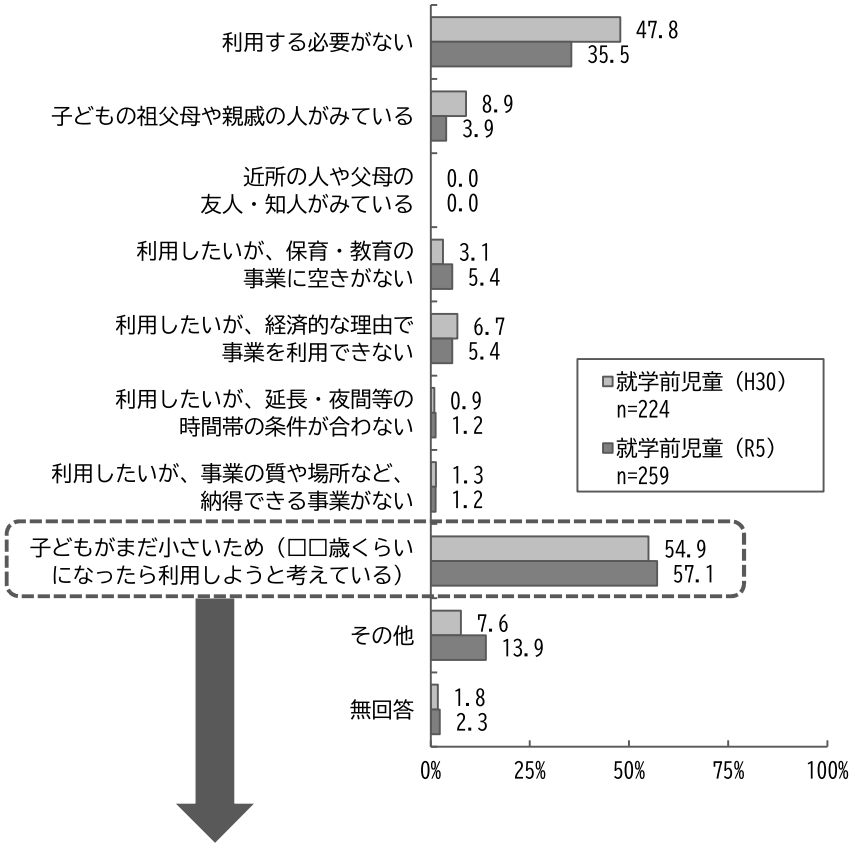
問14-4　平日に教育・保育事業を利用している理由（経年比較）



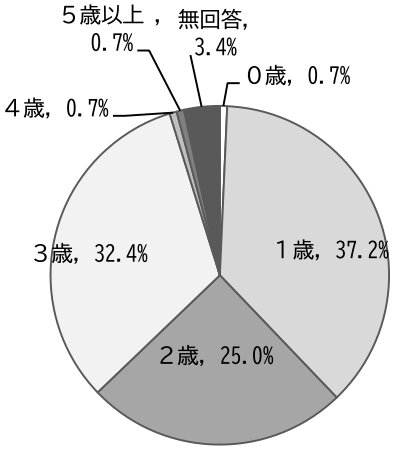
○平日に教育・保育事業を利用していない理由をみると、「子どもがまだ小さいため□歳くらいになったら利用しようと考えている」（57.1%）が最も高く、次いで「利用する必要がない」(35.5%)となっています。前回調査と比較すると、「利用する必要がない」が12.3ポイント、「子どもの祖父母や親戚がみている」が5.0ポイント減少しています。

○「子どもがまだ小さいため（□□歳くらいになったら利用しようと考えている）」と回答した人が、教育・保育事業の利用を希望する子どもの年齢をみると、「１歳」(37.2%)が最も高くなっています。

問14-5　教育・保育事業を利用していない理由（経年比較）



問14-5.8　利用を希望する子どもの年齢



就学前児童
n=148

年代別

○問14-5「教育・保育事業を利用していない理由」を年齢別でみると、０歳～２歳では「子どもがまだ小さいため□歳くらいになったら利用しようと考えている」、３歳では「利用する必要がない」が最も高くなっています。また、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」、「利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない」と回答した方が一定数います。

問２　宛名の子どもの年齢×問14-5　教育・保育事業を利用していない理由

単位：(%)

	無回答	利用する必要がない	子どもの母親や親族が	近所の人や友人の知人が	利用したいが、保育の事業に空きがない	利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない	利用したいが、事業の開始の条件が合わない	利用したいが、事業の質や場所など、満足する事業がない	子どもがまだ小さいため□歳くらいになったら利用したいと考えている	その他	無回答
	(件)										
合計	254	35.4	3.9	-	5.5	5.1	1.2	1.2	57.1	14.2	2.4
６歳	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
５歳	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
４歳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
３歳	18	38.9	11.1	-	11.1	11.1	5.6	-	22.2	33.3	-
２歳	24	37.5	8.3	-	12.5	16.7	-	-	50.0	16.7	4.2
１歳	89	39.3	4.5	-	5.6	2.2	1.1	2.2	47.2	19.1	2.2
０歳	122	32.0	1.6	-	3.3	4.1	0.8	0.8	71.3	6.6	2.5

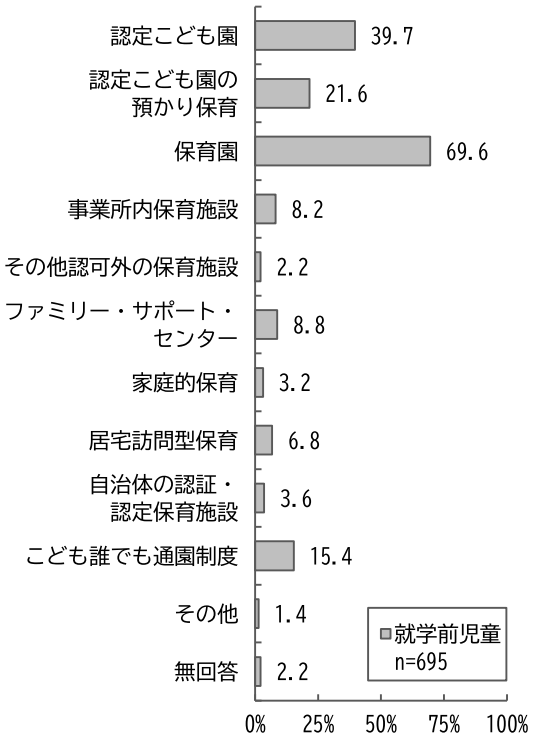
○希望する定期的な事業をみると、「保育園」(69.6%)が最も高くなっています。また、「こども誰でも通園制度」は15.4%となっています。

○利用したい場所は「飯田市内」が96.8%となっています。

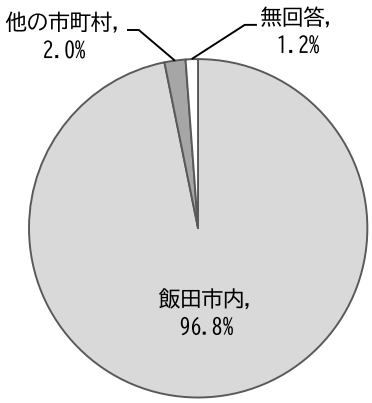
○何歳から保育園に預けることが適当かについてみると、「３歳以上」(36.2%)が最も高く、次いで「１歳～１歳半未満」(25.2%)、「２歳～３歳未満」(21.9%)となっています。

○保育園での保育を希望する理由をみると、「働いている時間帯に子どもをみる人がいないから」(91.3%)が最も高く、次いで「同じ年の子どもと一緒に遊ぶことが大切だと思うから」(79.1%)となっています。

問15　希望する定期的な教育・保育事業

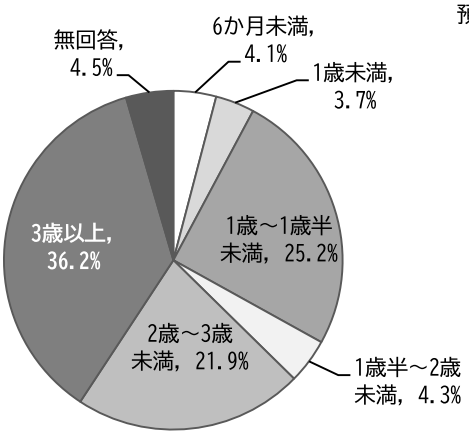


問15-1　教育・保育事業を利用したい場所



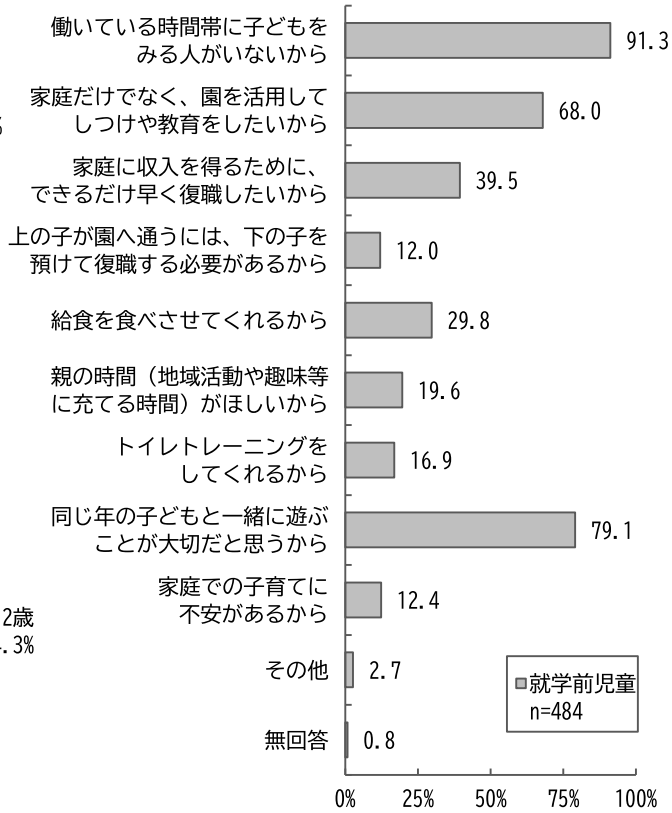
就学前児童
n=695

問15-2　保育園入園に適当な年齢



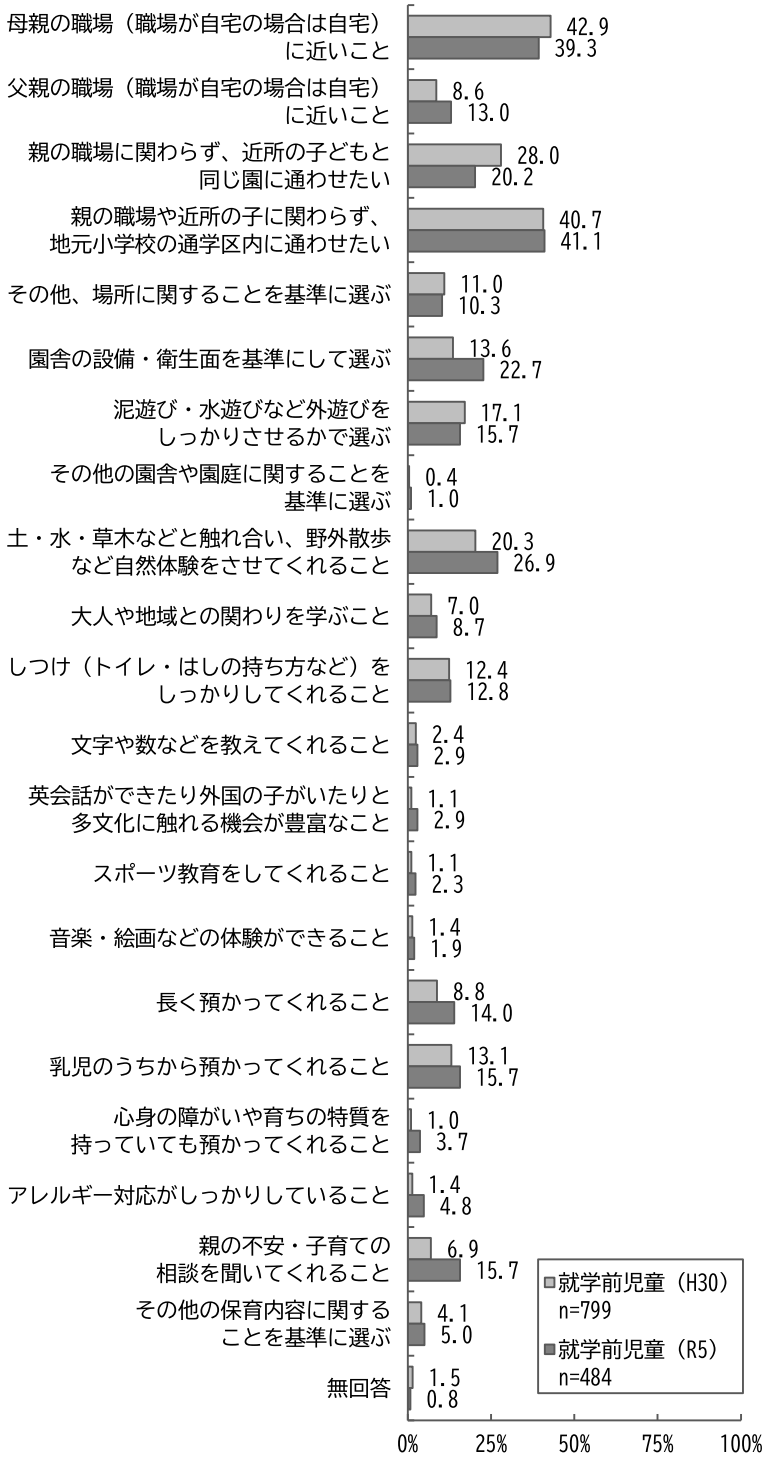
就学前児童
n=484

問15-3　保育園での保育を希望する理由



○保育園を選ぶときの基準をみると、「親の職場や近所の子に関わらず、地元小学校の通学区内に通わせたい」（41.1%）が最も高く、次いで「母親の職場（職場が自宅の場合は自宅）に近いこと」（39.3%）、「土・水・草木などと触れ合い、野外散歩など自然体験をさせてくれること」（26.9%）となっています。前回調査と比較すると、「園舎の設備・衛生面を基準にして選ぶ」が9.1ポイント、「親の不安・子育ての相談を聞いてくれること」が8.8ポイント増加しています。

問15-4　保育園を選ぶときの基準（経年比較）



年代別

○問15-4「保育園を選ぶときの基準」を年齢別でみると、２歳～６歳の保護者では、「親の職場や近所の子に関わらず地元小学校の通学区内に通わせたい」との回答が最も多くなっています。一方、０歳～２歳の保護者では、４割以上が「母親の職場（職場が自宅の場合は自宅）に近いこと」と、１割以上が「父親の職場（職場が自宅の場合は自宅）に近いこと」と回答しています。

○０歳～４歳の保護者では、「園舎の設備や衛生面」、「外遊びをしっかりさせること」、「自然体験をさせてくれること」、「親の不安や子育ての相談を聞いてくれる」など、保育の内容や質への関心が見られます。

○また、４歳～６歳の保護者にも、「長い時間預かってくれること」「乳児から預かってくれること」といった回答が一定数見られます。

問２　宛名の子どもの年齢×問15-4　保育園を選ぶときの基準（抜粋）

単位：（%）

	母親の職場（職場が自宅の場合は自宅）に近いこと	父親の職場（職場が自宅の場合は自宅）に近いこと	親の職場に関わらず、近所の子と同じ園に通わせたい	親の職場や近所の子に関わらず、地元小学校の通学区内に通わせたい	園の雰囲気を基準に選ぶ	外遊びなど遊びをしっかりさせてくれるから選ぶ	友達など触れ合い、交流の機会があるから	長く預かってくれること	乳児から預かってくれること	親の不安や子育ての相談を聞いてくれる	園舎の設備や衛生面	無回答	合計（件）
全体	39.5	13.1	20.4	41.0	22.9	15.6	26.6	14.1	15.8	15.8	0.8		481
６歳	27.8	13.0	31.5	44.4	18.5	18.5	18.5	11.1	16.7	9.3	–		54
５歳	40.7	16.7	22.2	44.4	16.7	5.6	18.5	20.4	16.7	13.0	–		54
４歳	36.1	8.2	24.6	41.0	23.0	18.0	21.3	14.8	11.5	18.0	1.6		61
３歳	39.0	8.5	22.0	49.2	10.2	16.9	22.0	8.5	10.2	10.2	–		59
２歳	41.0	11.5	14.8	47.5	29.5	18.0	31.1	8.2	16.4	19.7	1.6		61
１歳	46.2	14.0	17.2	34.4	28.0	15.1	38.7	18.3	15.1	17.2	1.1		93
０歳	40.4	17.2	16.2	34.3	27.3	16.2	27.3	15.2	21.2	19.2	1.0		99

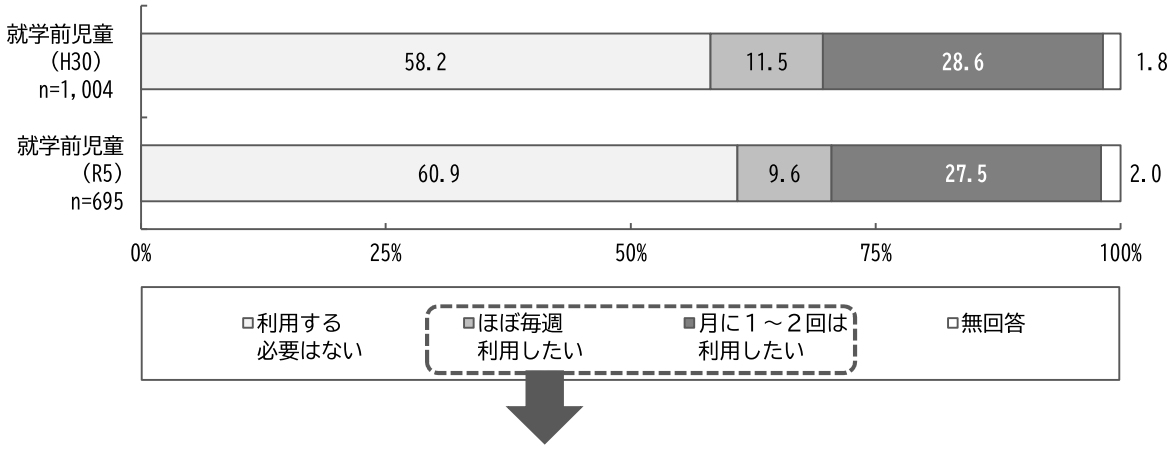
２　就学前児童の休日の定期的な教育・保育事業の利用希望

（１）土曜日と日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

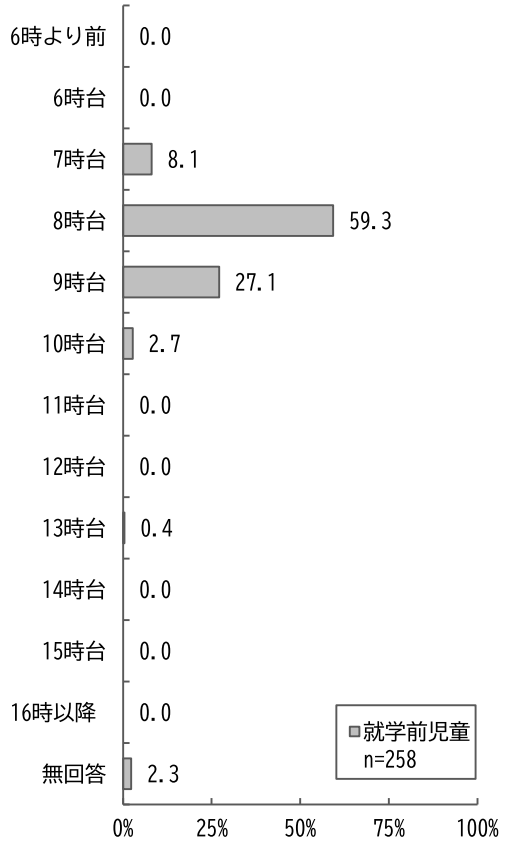
○土曜日の定期的な教育･保育事業の利用意向をみると､｢利用する必要はない｣(60.9%)が最も高く、次いで「月に１～２回は利用したい」（27.5%）となっています。前回調査と比較すると､｢ほぼ毎週利用したい｣､｢月に１～２回は利用したい｣が微減しています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、開始時間は「８時台」(59.3%)、終了時間は「16時台」（29.5%）が最も高くなっています。

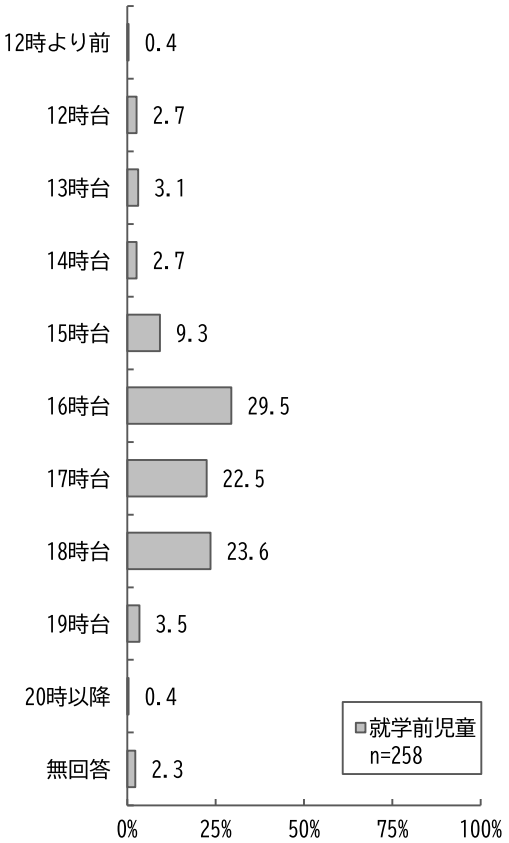
問19(1)　土曜日の利用希望（経年比較）



問19(1)　希望開始時間（R5）



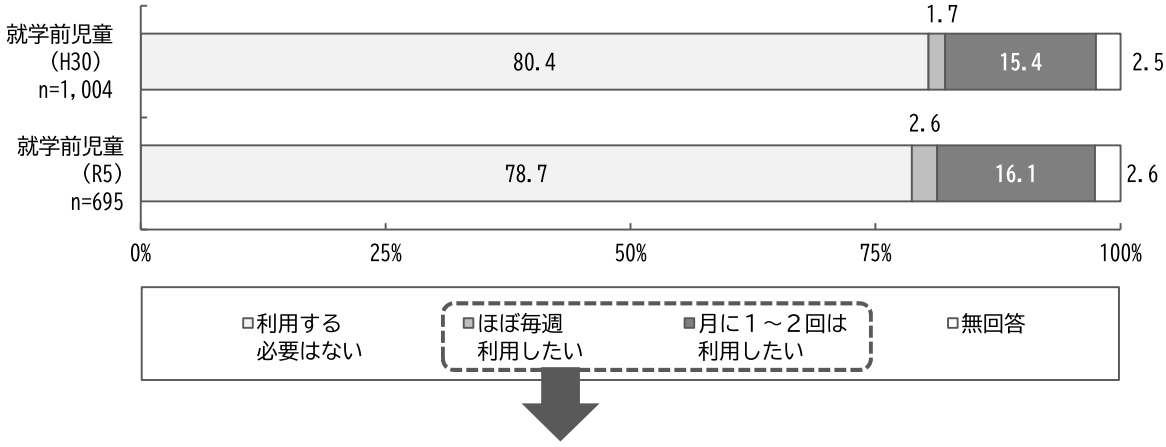
問19(1)　希望終了時間（R5）



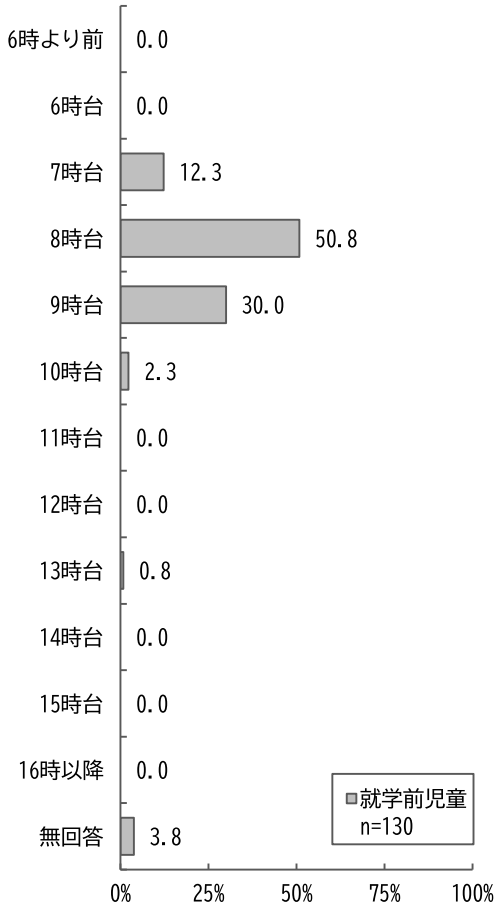
○日曜・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向をみると、「利用する必要はない」（78.7%）が最も高くなっています。前回調査と比較すると、「ほぼ毎週利用したい」、「月に１～２回は利用したい」が微増しています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、開始時間は「８時台」（50.8%）、終了時間は「18時台」（30.8%）が最も高くなっています。

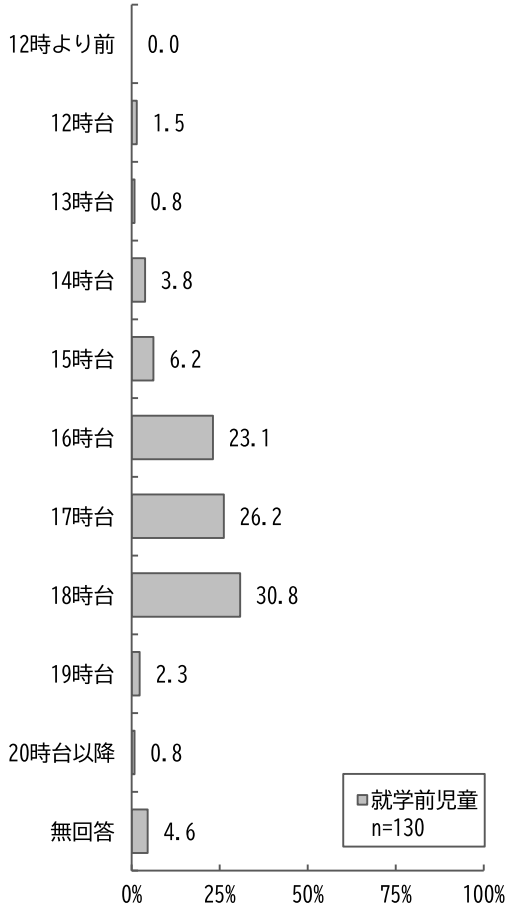
問19(2)　日曜・祝日の利用希望（経年比較）



問19(2)　希望開始時間（R5）

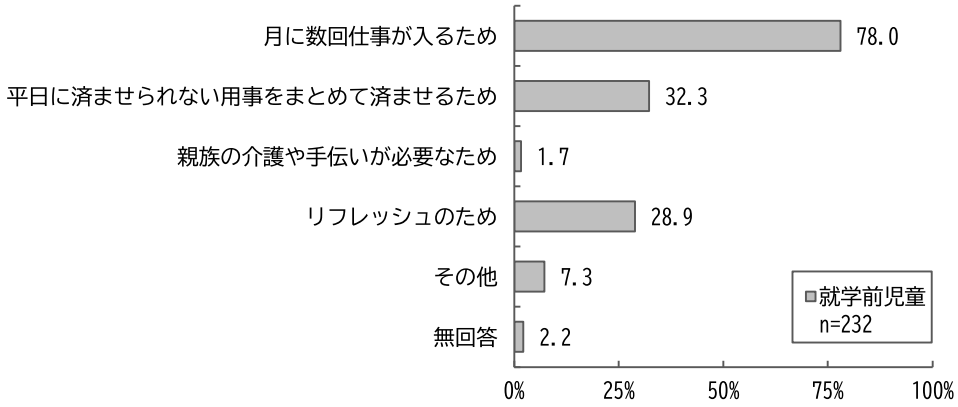


問19(2)　希望終了時間（R5）



○土曜日と日曜日において「月に１～２回は利用したい」と回答した方の理由をみると、「月に数回仕事が入るため」（78.0%）が最も高く、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」（32.3%）、「リフレッシュのため」（28.9%）となっています。

問19-1　毎週ではなく「月に１～２回は利用したい」理由

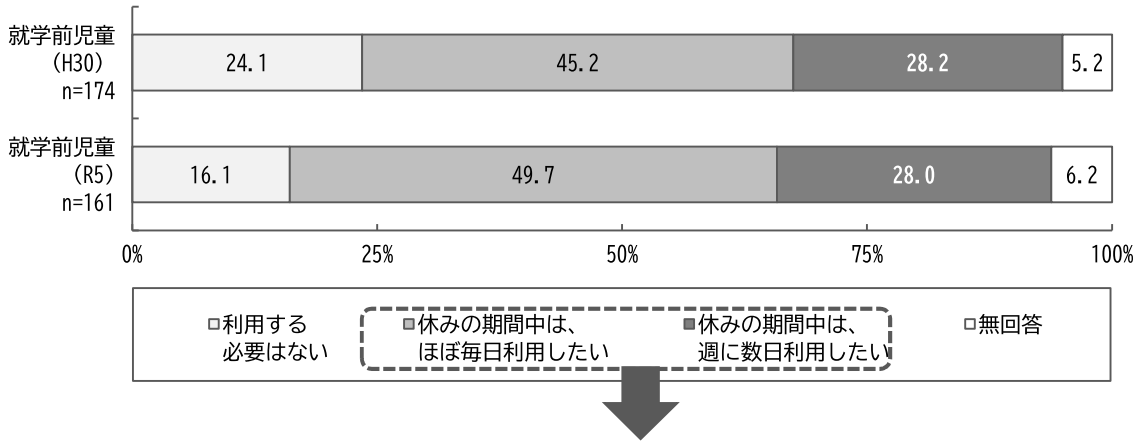


（３）長期休暇中の教育・保育事業の利用希望

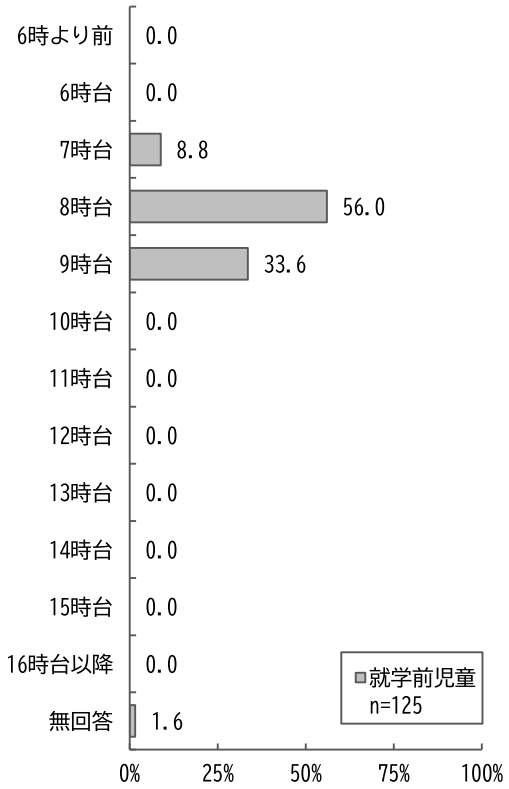
○幼稚園利用者の長期休暇中の教育・保育事業の利用意向をみると、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」（49.7%）が最も高く、次いで「休みの期間中、週に数日利用したい」（28.0%）となっています。前回調査と比較すると、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が4.5ポイント増加しています。

○利用希望者の利用したい時間帯をみると、開始時間は「８時台」（56.0%）、終了時間で「16時台」（39.2%）が最も高くなっています。

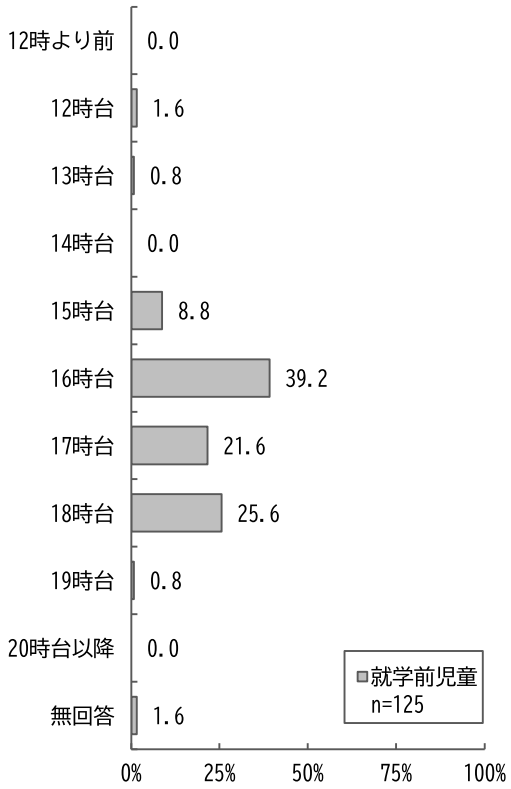
問20　長期休暇中の利用希望（認定こども園利用者【幼稚園利用者も含む】）（経年比較）



問20　希望開始時間（R5）

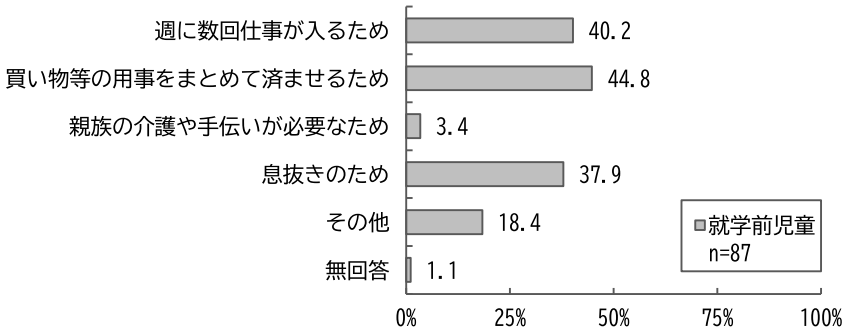


問20　希望終了時間（R5）



○長期休暇中において「休みの期間中は、週に数日利用したい」と回答した方の理由をみると、就学前児童では、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」（44.8%）が最も高く、次いで「週に数回仕事が入るため」（40.2%）、「息抜きのため」（37.9%）となっています。

問20-1　「休みの期間中、週に数日利用したい」理由



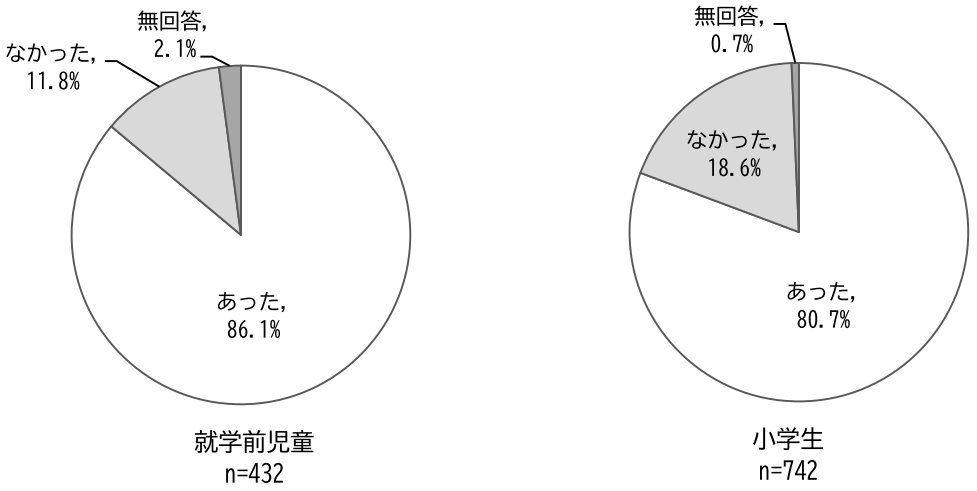
3　病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

（１）病気やケガで通常の事業が利用できない時の対処について

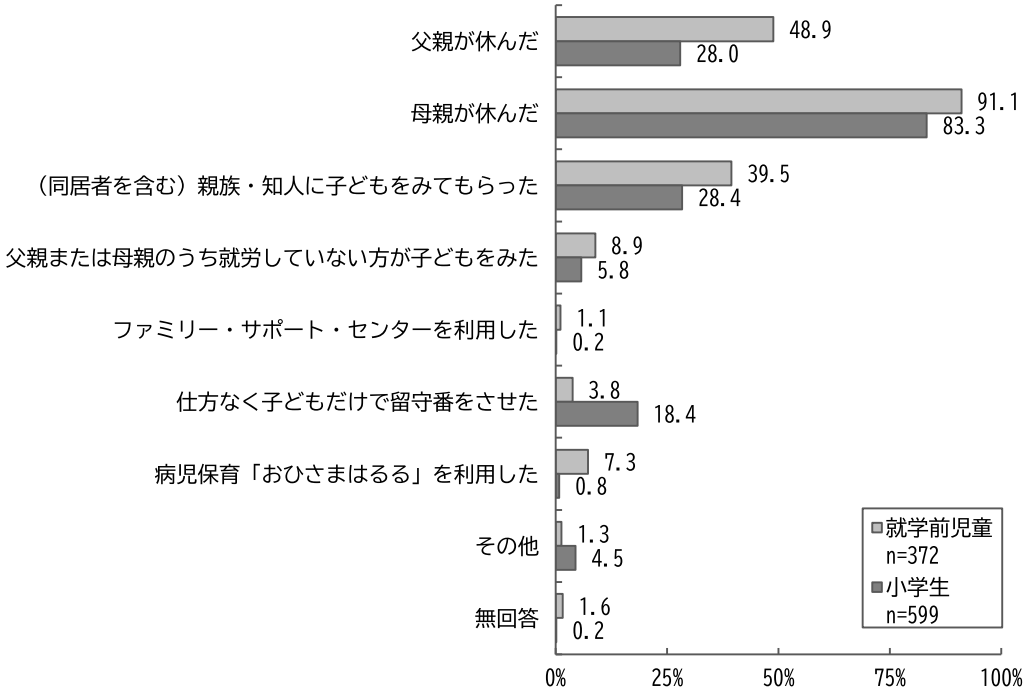
○病気やケガで通常の事業が利用できなかったことが、「あった」と回答した方をみると、就学前児童では86.1%、小学生では80.7%となっています。

○その際の対処方法をみると、就学前児童、小学生いずれも「母親が休んだ」（就学前児童91.1%、小学生83.3%）が最も高く、次いで就学前児童では「父親が休んだ」（48.9%）、小学生では「（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった」（28.4%）となっています。

問21[問12]　病気やケガで通常の事業が利用できなかったことの有無

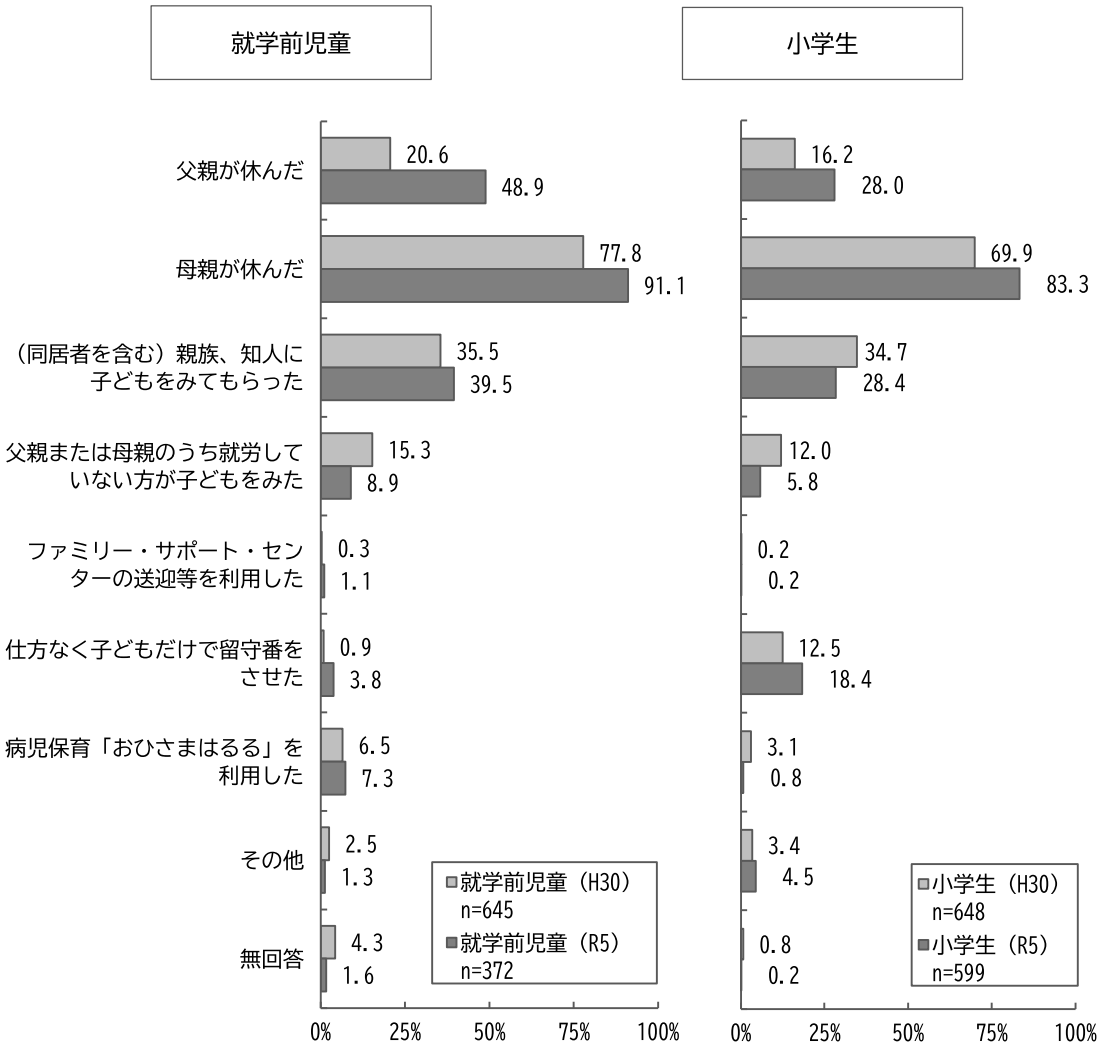


問21-1[問12-1]　この１年間の対処方法



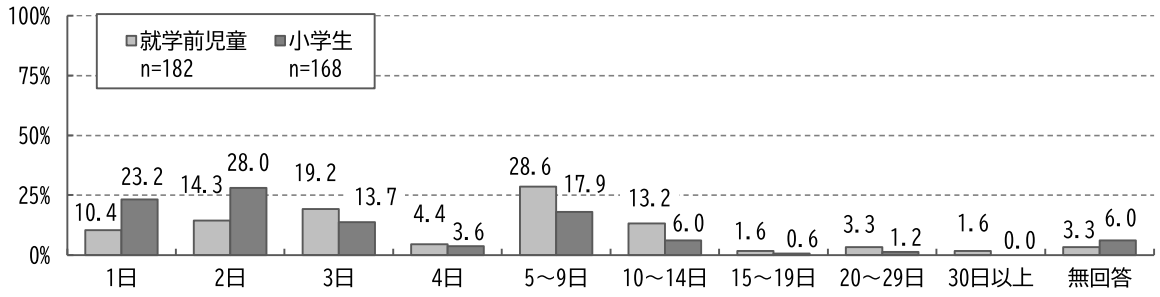
○病気やケガで通常の事業が利用できなかった場合の対処方法について前回調査と比較すると、就学前児童では、「父親が休んだ」が、28.3ポイント、「母親が休んだ」が13.3ポイント増加しています。小学生では「母親が休んだ」が13.4ポイント、「父親が休んだ」が11.8ポイント、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」が5.9ポイント増加しています。

■　問21-1[問12-1]　この１年間の対処方法（経年比較）



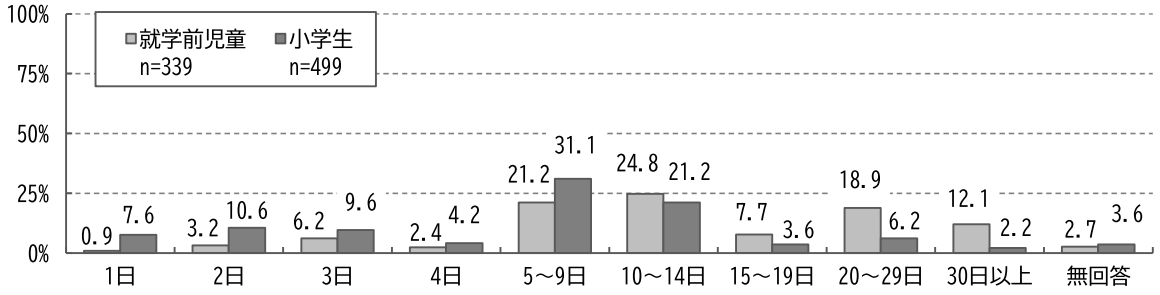
○対処方法別にこの１年間の対処日数をみると、「父親が休んだ日数」は、就学前児童では「５～９日」（28.6%）、小学生では「２日」（28.0%）が最も高くなっています。

問21-1.1[問12-1.1]　父親が休んだ日数



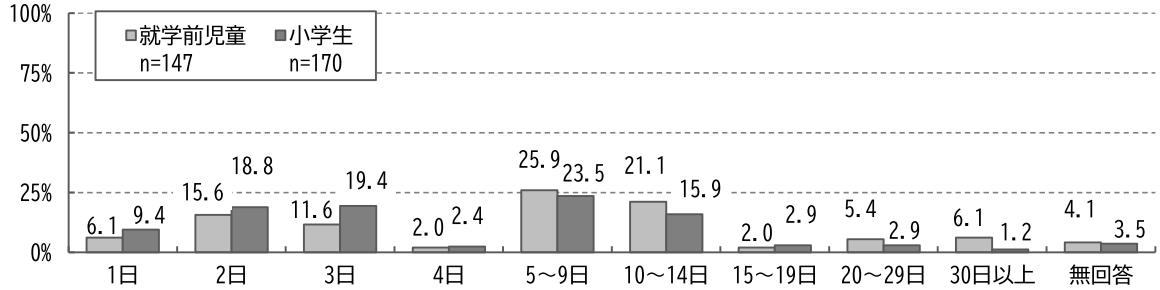
○「母親が休んだ日数」は、就学前児童では「10～14日」（24.8%）、小学生では「５～９日」（31.1%）が最も高くなっています。

問21-1.2[問12-1.2]　母親が休んだ日数



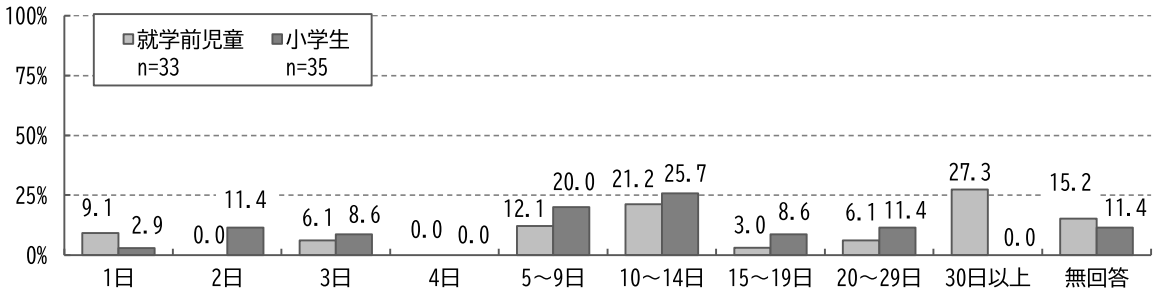
○「親族・知人に子どもをみてもらった日数」は、就学前児童、小学生いずれも「５～10日」（就学前児童25.9%、小学生23.5%）が最も高くなっています。

問21-1.3[問12-1.3]　（同居者を含む）親族・知人に子どもをみてもらった日数



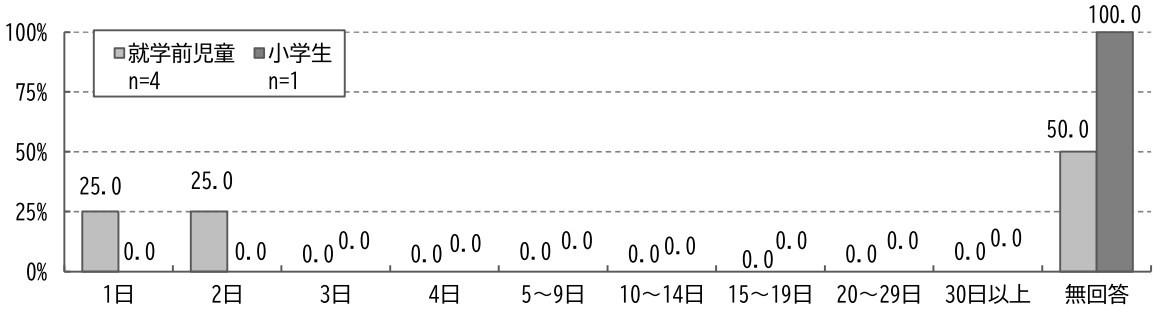
○「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた日数」は、就学前児童では「10～14日」（21.2%）、小学生では、「30日以上」（23.7%）となっています。

問21-1.4[問12-1.4]　父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた日数



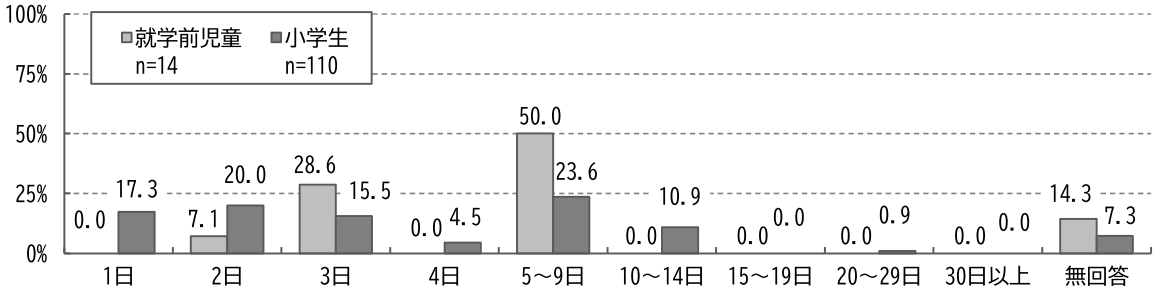
○「ファミリー・サポート・センターを利用した日数」は、以下のとおりです。

問21-1.5[問12-1.5]　ファミリー・サポート・センターを利用した日数



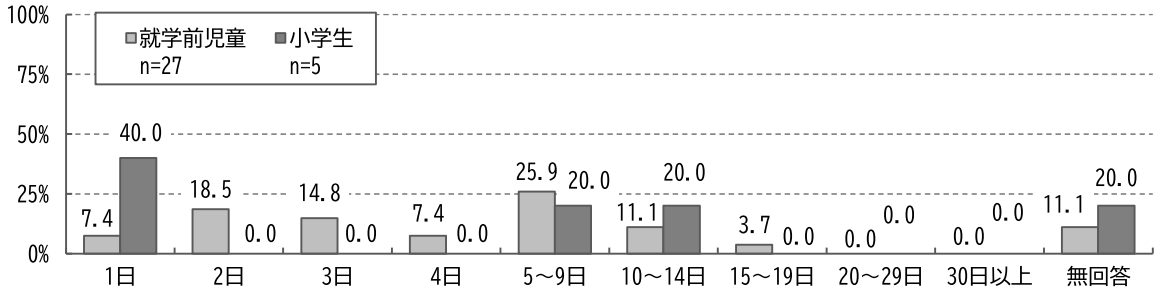
○「仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数」は、就学前児童、小学生いずれも「５～９日」（就学前児童50.0%、小学生23.6%）が最も高くなっています。

問21-1.6[問12-1.6]　仕方なく子どもだけで留守番をさせた日数



○「病児保育「おひさまはるる」を利用した日数」は、就学前児童では、「５～９日」（25.9%）が最も高くなっています。

問21-1.7[問12-1.7]　病児保育「おひさまはるる」を利用した日数

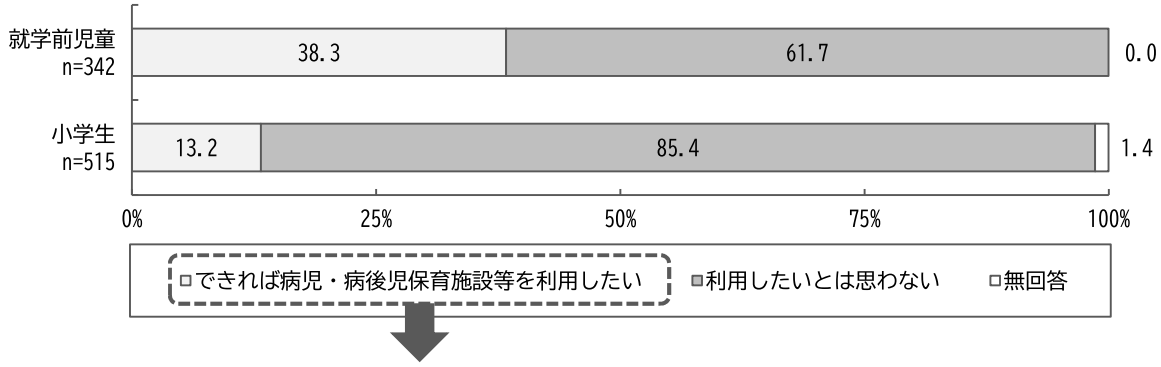


（２）病児・病後児の保育施設の利用希望

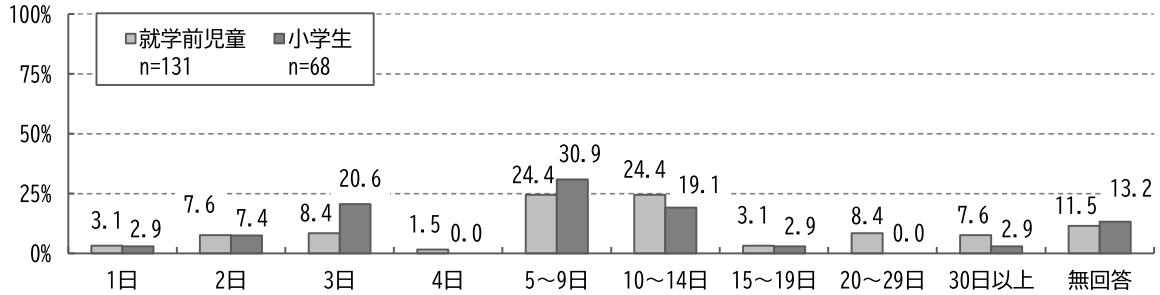
○父親、母親が休んで対処した方の病児・病後児保育施設の利用意向をみると、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」と回答した方は、就学前児童では38.3%、小学生では13.2%となっています。

○その際の年間利用希望日数をみると、就学前児童、小学生いずれも「５～９日」（就学前児童24.4%、小学生30.9%）が最も高くなっています。

問21-2[問12-2]　父親、母親が休んで対処した方の病児・病後児保育施設の利用意向



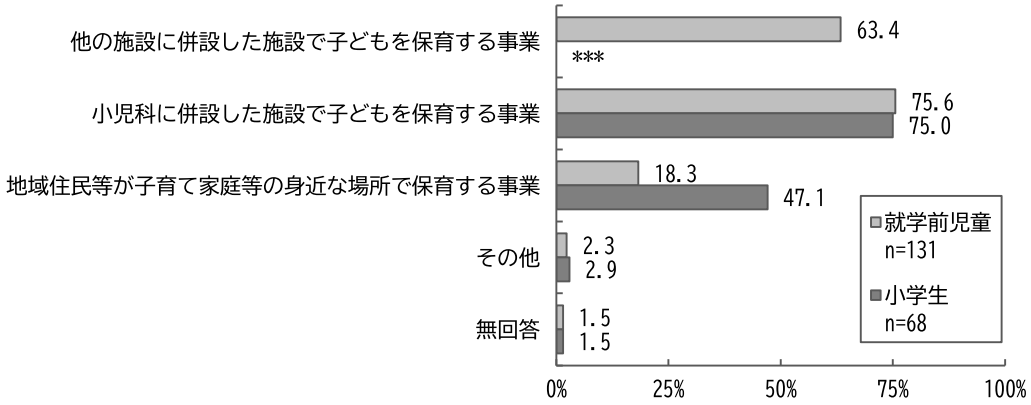
問21-2[問12-2]　病児・病後児保育施設の利用希望日数



○「子どもを預ける場合の望ましい事業形態」をみると、就学前児童、小学生いずれも「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」(就学前児童75.6%、小学生75.0)が最も高くなっています。

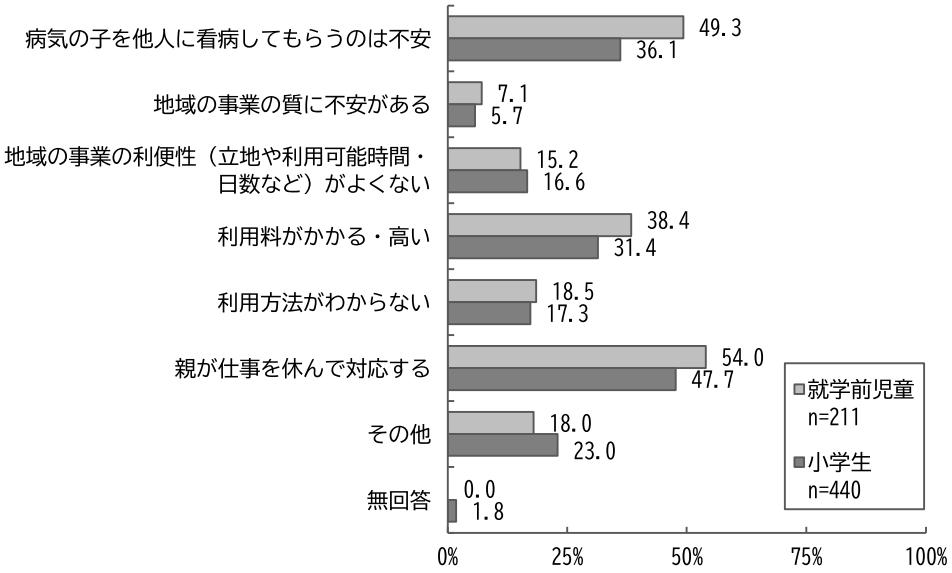
○病児・病後児保育施設等の利用意向がない方の理由をみると、就学前児童、小学生いずれも「親が仕事を休んで対応する」(就学前児童54.0%、小学生47.7%) が最も高くなっています。

問21-3[問12-3]　子どもを預ける場合の望ましい事業形態



※「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」は就学前のみの選択肢

問21-4[問12-4]　病児・病後児保育施設を利用したいと思わない理由

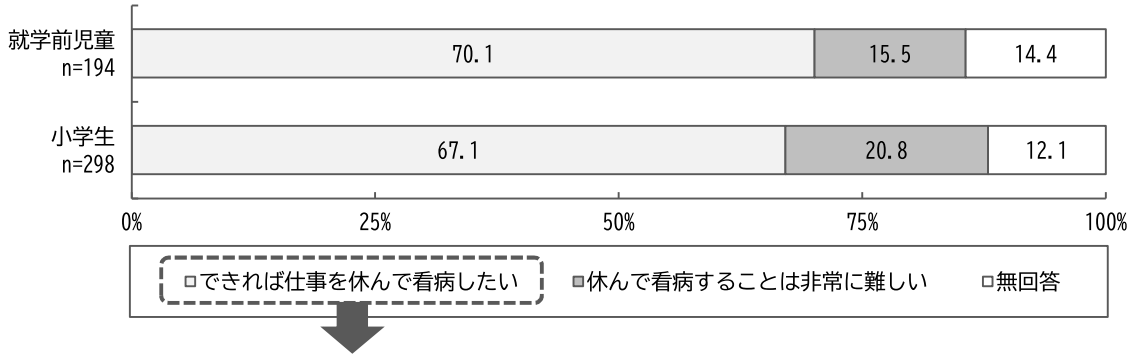


○父母が休む以外の対処方法を選んだ方のうち、「できれば仕事を休んで看病したい」と回答した方をみると、就学前児童では70.1%、小学生では67.1%となっています。

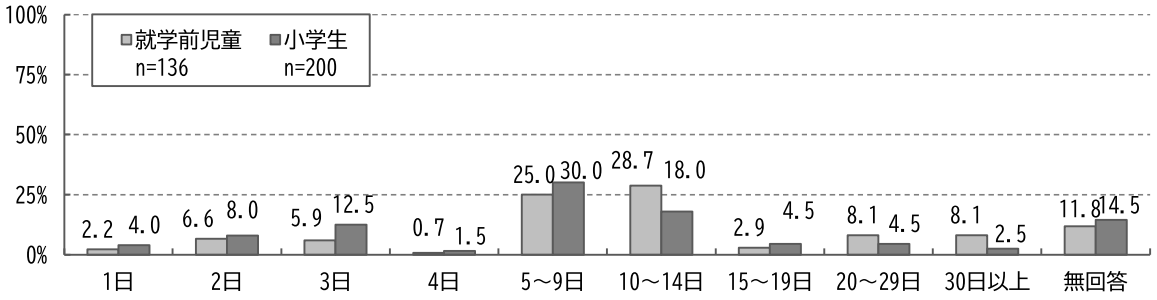
○「できれば仕事を休んで看病したい」と回答した方の年間希望日数は、就学前児童では「10～14日」(28.7%)、小学生では「５～９日」(30.0%) が最も高くなっています。

○「休んで看病することは非常に難しい」と回答した方の理由をみると、就学前児童、では「休暇日数が足りないので休めない」(36.7%)、小学生では「子どもの看病を理由に休みがとれない」(33.9%) が最も高くなっています。また、「その他」が就学前児童では40.0%、小学生では41.9%となっていることから、選択項目以外にもさまざまな理由があることがうかがえます。

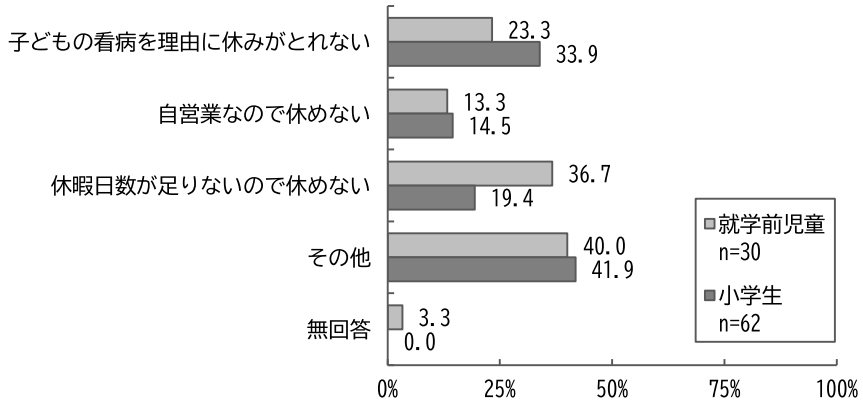
問21-5[問12-5]　「父母が仕事を休んで看病したい」意向



問21-5.1[問12-5.1]　「できれば仕事を休んで看病したい」希望日数（年間）



問21-6[問12-6]　「休んで看病することは非常に難しい」理由



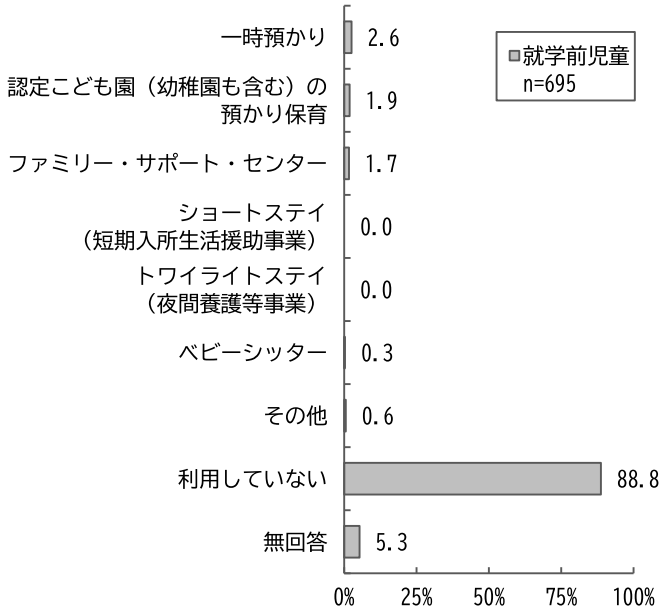
４　不定期の一時保育の利用について

（１）就学前児童が不定期に利用している教育・保育事業の状況

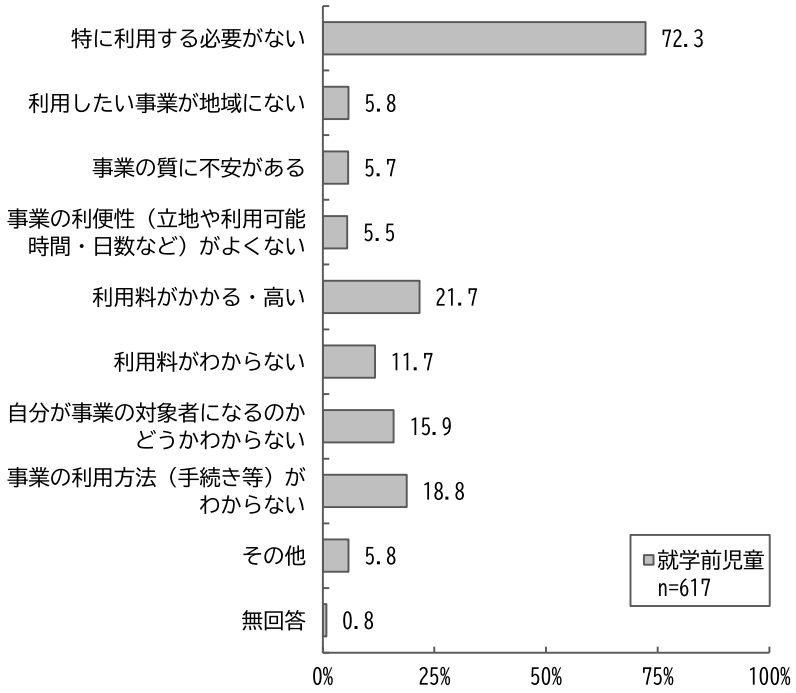
○不定期に利用している教育・保育事業の状況をみると、「利用していない」が88.8%となっています。利用している事業は「一時預かり」（2.6%）となっています。

○「利用していない」理由をみると「特に利用する必要がない」が72.3%となっています。

問22　不定期に利用している一時預かり事業

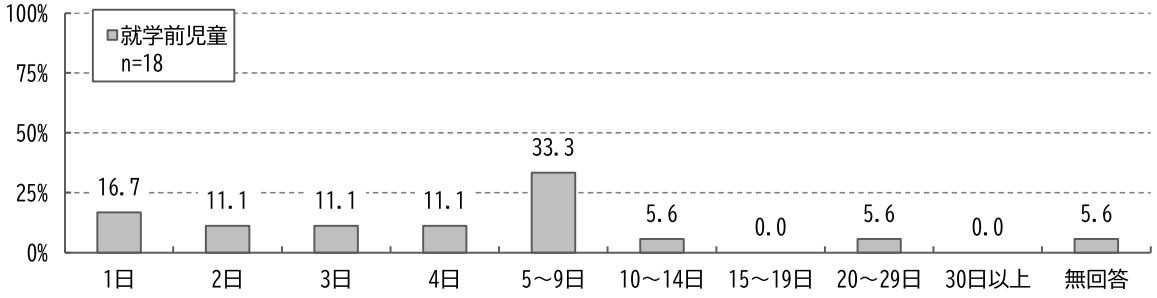


問22-1　現在利用していない理由

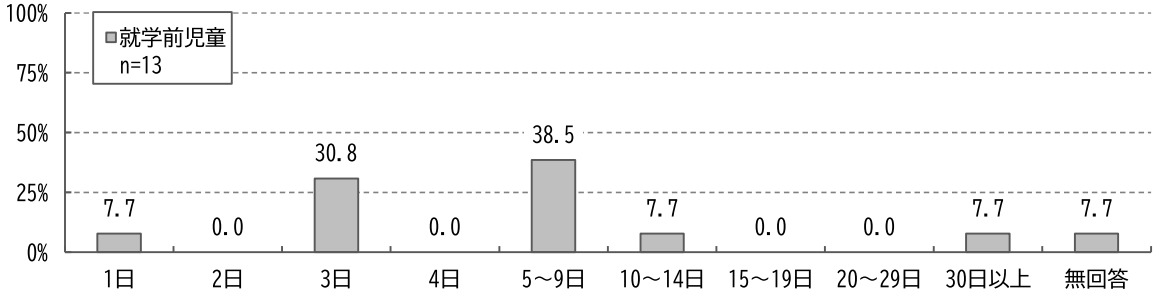


○事業別の年間利用日数は以下のとおりです。

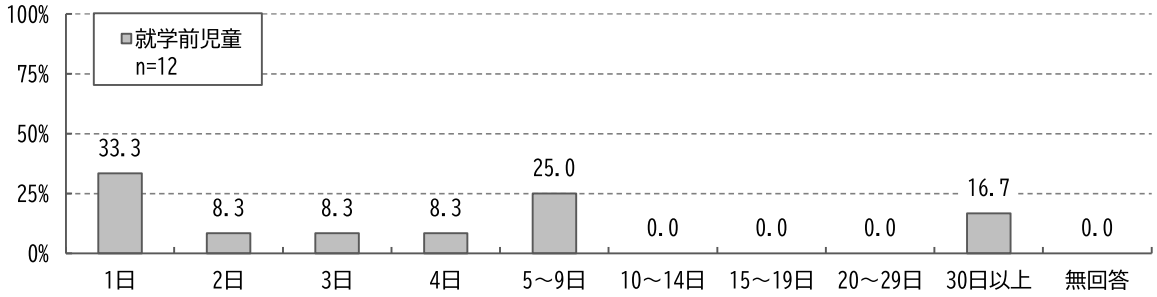
問22.1　「一時預かり」年間利用日数



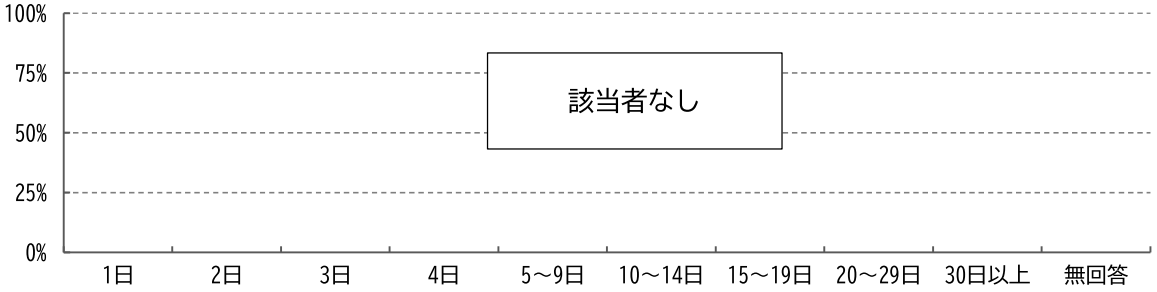
問22.2　「認定こども園（幼稚園も含む）の預かり保育」年間利用日数



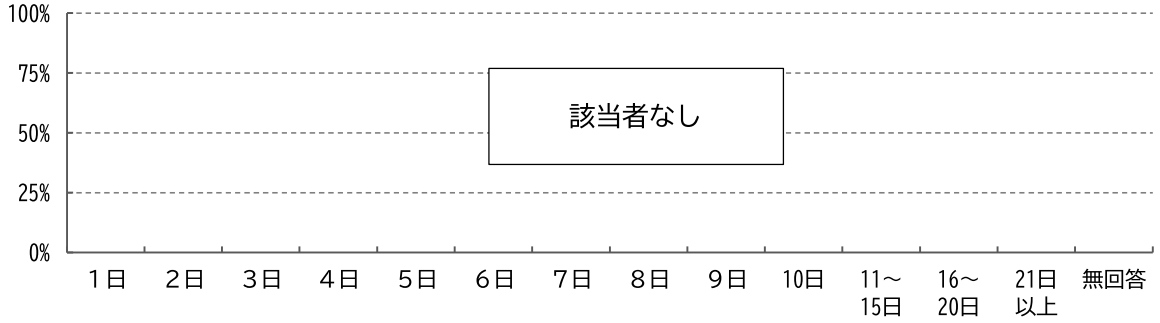
問22.3　「ファミリー・サポート・センター」年間利用日数



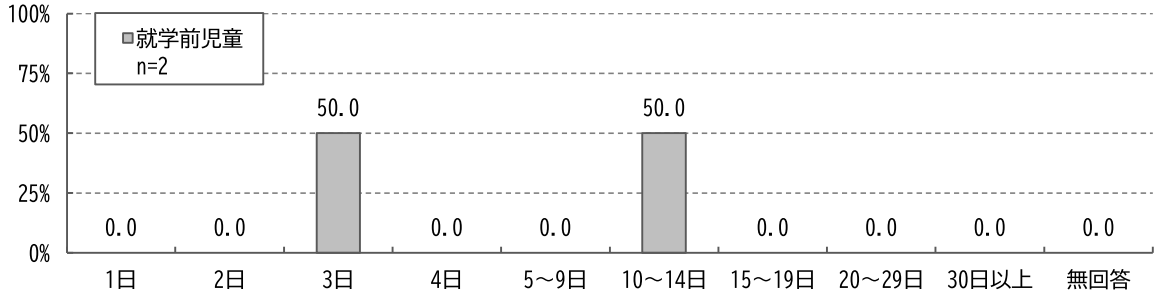
問22.4　「ショートステイ（短期入所生活援助事業）」年間利用日数



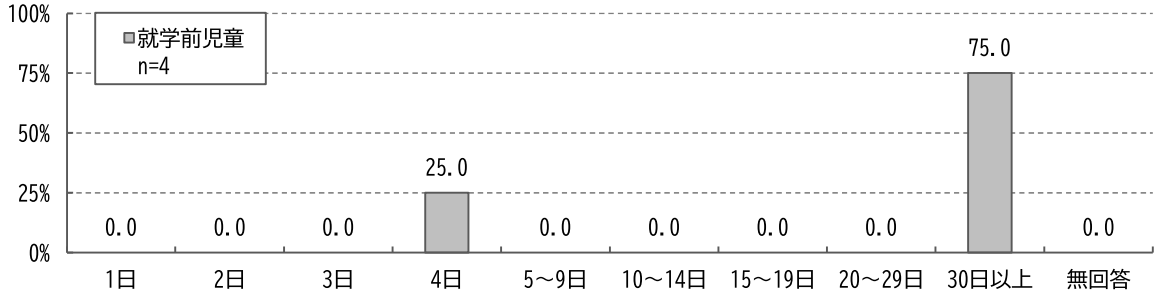
問22.5　「トワイライトステイ（夜間養護等事業）」年間利用日数



問22.6　「ベビーシッター」年間利用日数

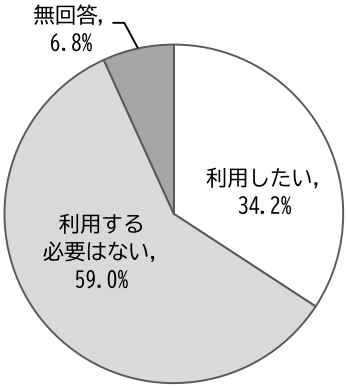


問22.7　「その他」年間利用日数



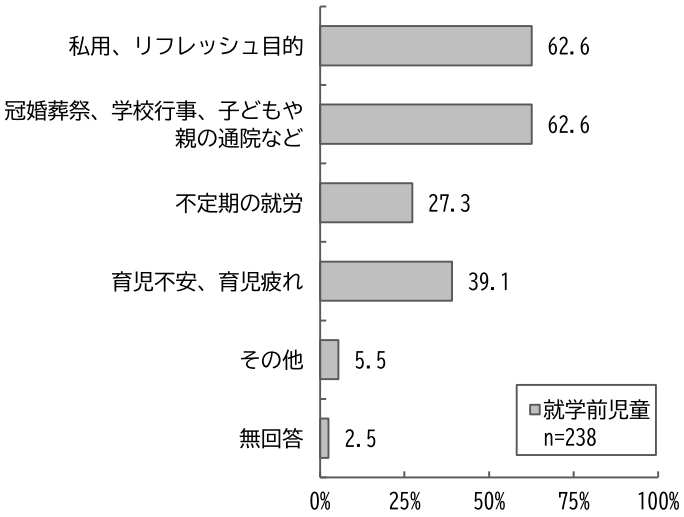
○一時保育事業の利用希望をみると、「利用したい」が34.2%となっています。
○一時保育事業の利用目的をみると、「私用（買い物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事など）、リフレッシュ目的」「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」（各62.6%）が最も高くなっています。

問23　一時保育事業の利用希望



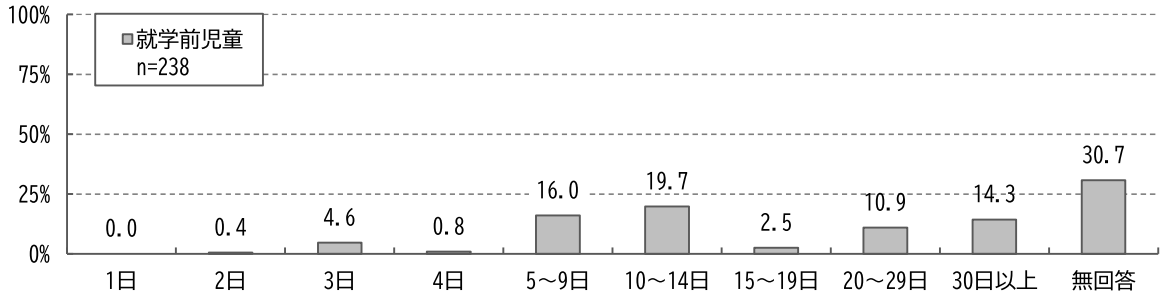
就学前児童
n=695

問23　利用したい目的



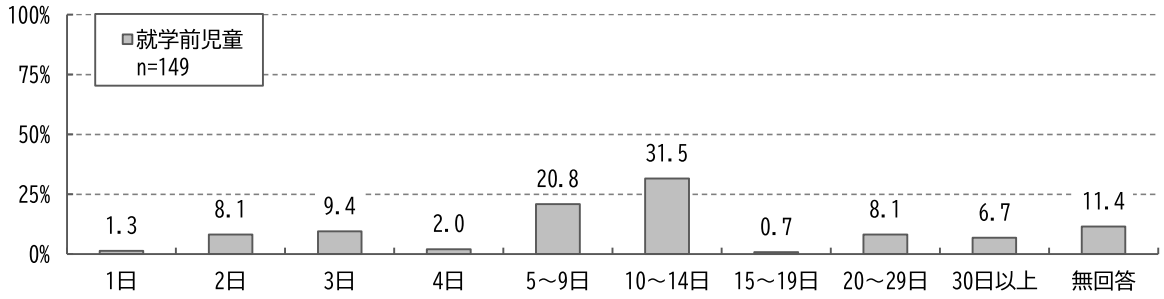
○事業の利用希望年間合計日数をみると、「10～14日」（19.7%）が最も高くなっています。

問23.1　事業の利用希望年間合計日数



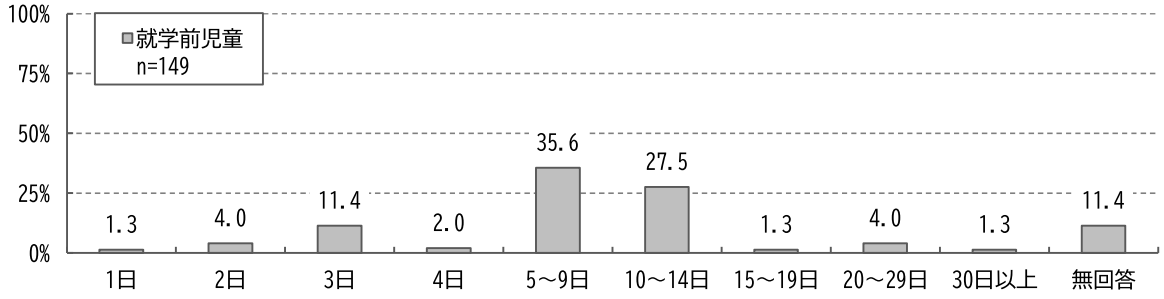
○目的ごとの年間利用希望日数をみると、「私用、リフレッシュ目的」では「10～14日」（31.5%）が最も高くなっています。

問23.①　私用、リフレッシュ目的



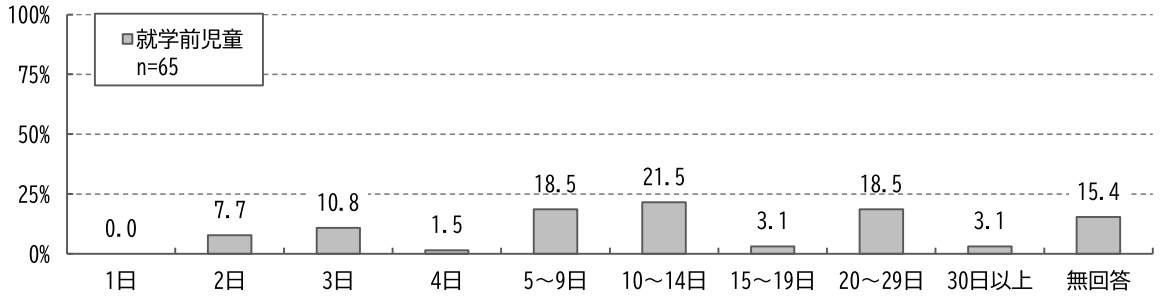
○「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」では「５～９日」（35.6%）が最も高くなっています。

問23.②　冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等



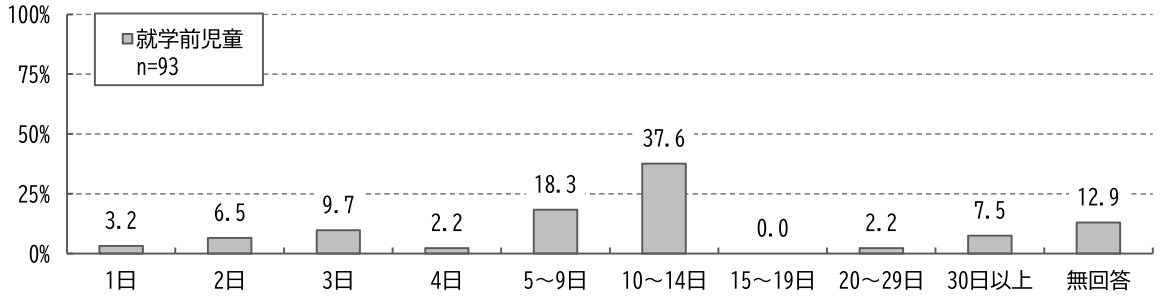
○「不定期の就労」では「10～14日」（21.5%）が最も高くなっています。

問23.③　不定期の就労



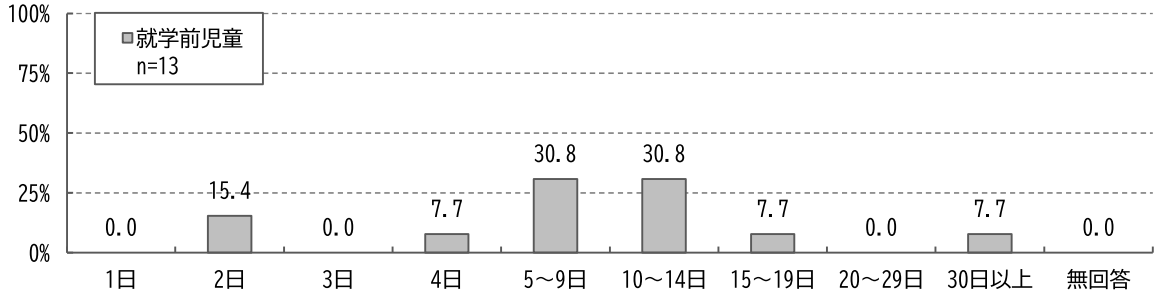
○「育児不安、育児疲れ」では「10～14日」（37.6%）が最も高くなっています。

問23.④　育児不安、育児疲れ



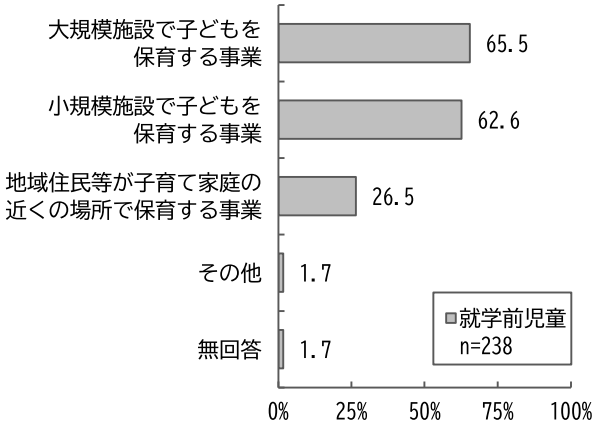
○「その他」では「５～９日」「10～14日」（各30.8%）が最も高くなっています。

問23.⑤　その他



○「一時保育として子どもを預ける場合の望ましい事業形態」をみると、「大規模施設で子どもを保育する事業」（65.5%）が最も高く、次いで「小規模施設で子どもを保育する事業」（62.6%）となっています。

問23-1　子どもを預ける場合の望ましい事業形態



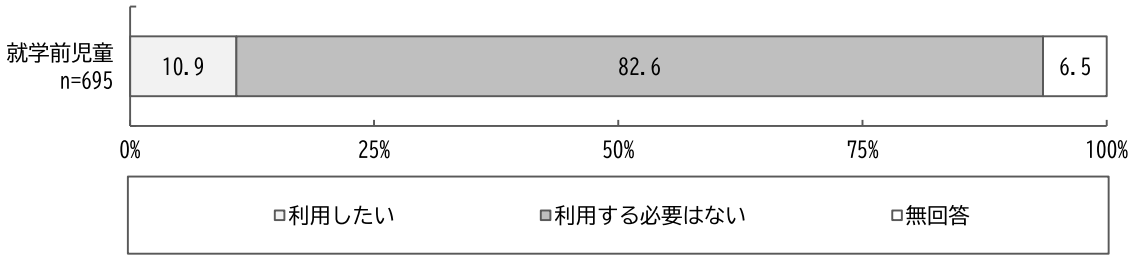
（２）宿泊を伴う一時保育の利用状況

○「保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預ける事業の利用希望」をみると、「利用したい」が10.9%となっています。

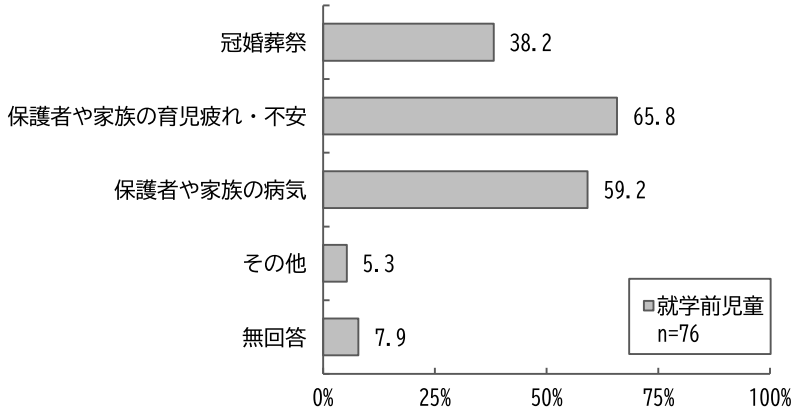
○事業を利用したい理由についてみると、「保護者や家族の育児疲れ・不安」（65.8%）が最も高く、次いで「保護者や家族の病気」（59.2%）となっています。

○利用希望年間合計日数をみると、「５～９泊」（19.7%）が最も高くなっています。

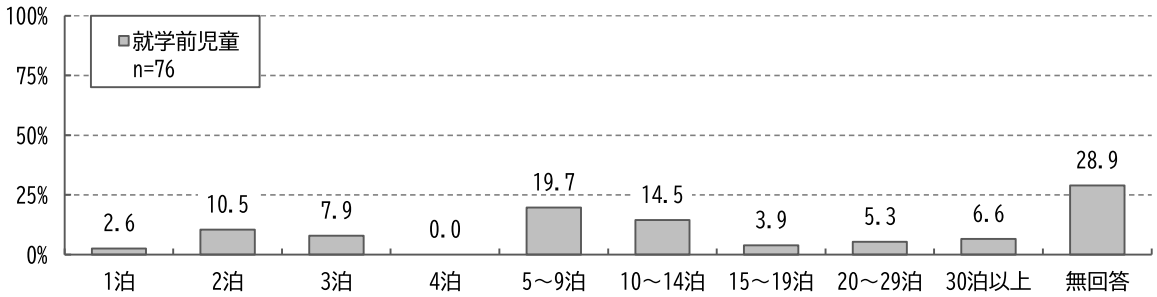
問24　保護者の用事等で子どもを泊りがけで家族以外に預ける事業の利用希望



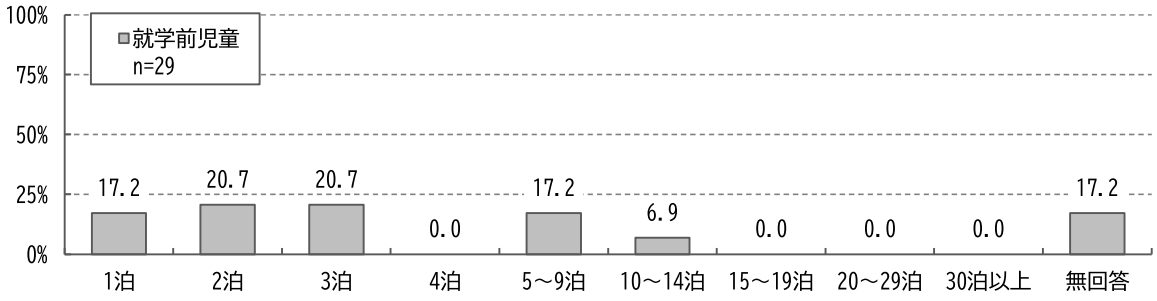
問24.1　利用したい理由



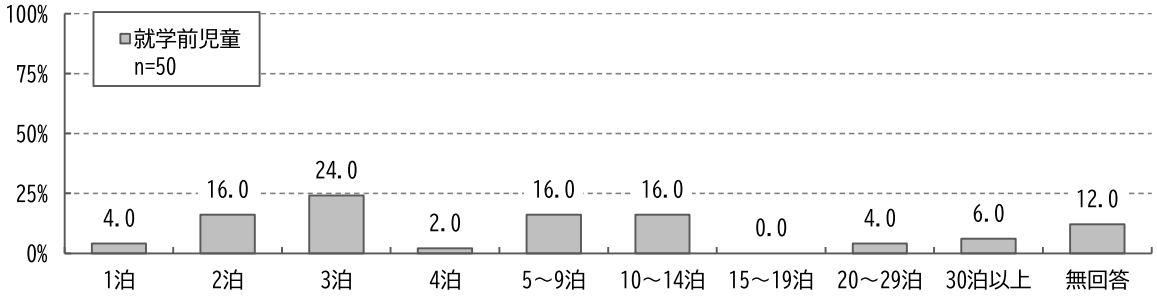
問24.1　利用希望年間合計日数



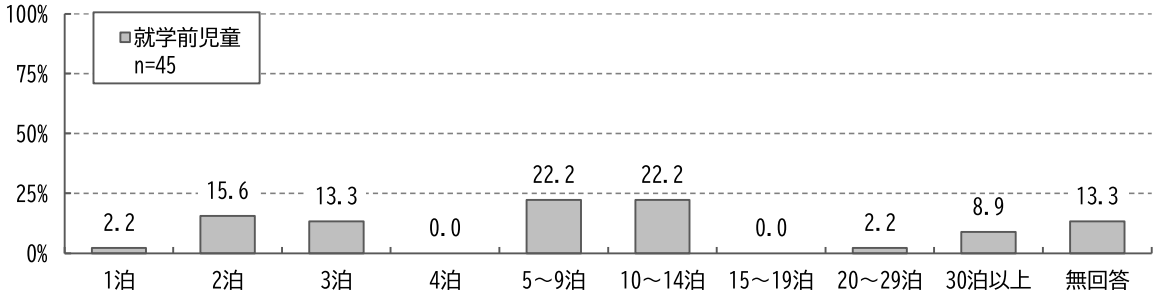
問24.①　冠婚葬祭



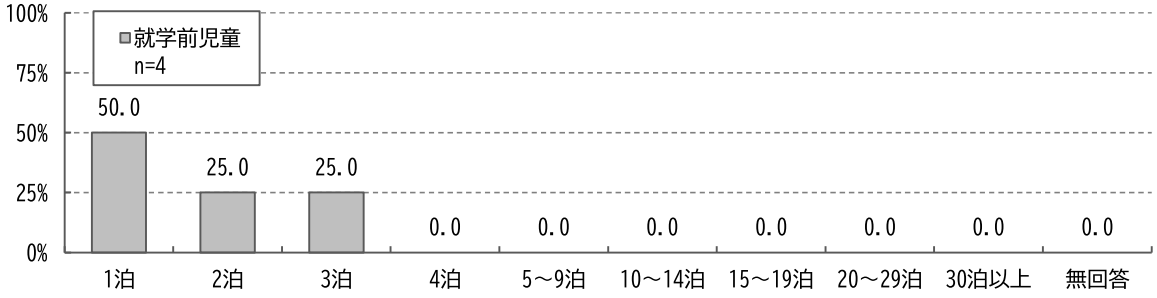
問24.②　保護者や家族の育児疲れ・不安



問24.③　保護者や家族の病気



問24.④　その他



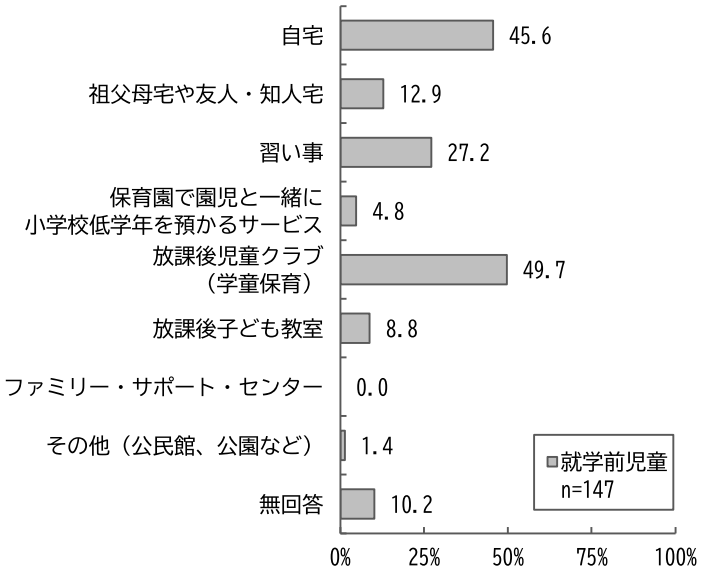
5　放課後の過ごし方について

（１）平日の放課後に過ごさせたい場所

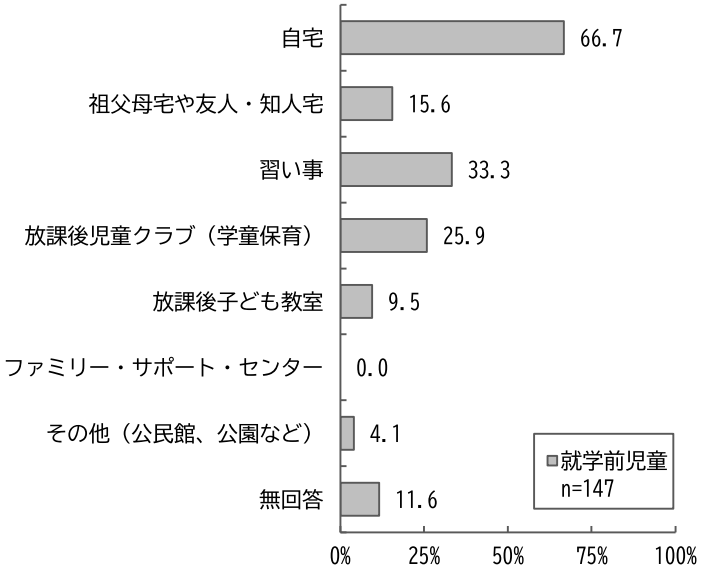
①就学前児童

○就学前児童保護者に小学校就学後の放課後の過ごし方の希望についてみると、低学年のうちは「放課後児童クラブ（学童保育）」（49.7%）が最も高く、次いで「自宅」（45.6%）となっています。高学年になると「自宅」（66.7%）が最も高く、次いで「習い事」（33.3%）、「放課後児童クラブ（学童保育）」（25.9%）となっています。

問25　放課後の過ごし方の希望（小学校低学年）



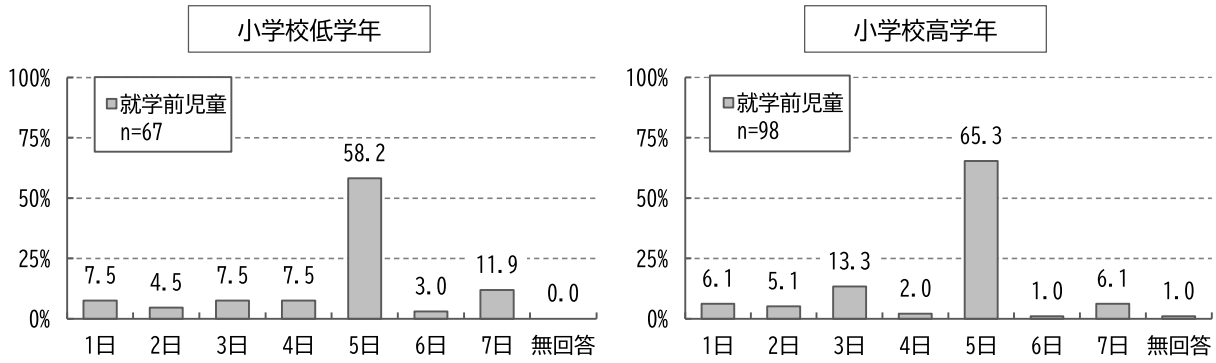
問26　放課後の過ごし方の希望（小学校高学年）



※「小学校低学年」は１～３年生、「小学校高学年」は４～６年生です。

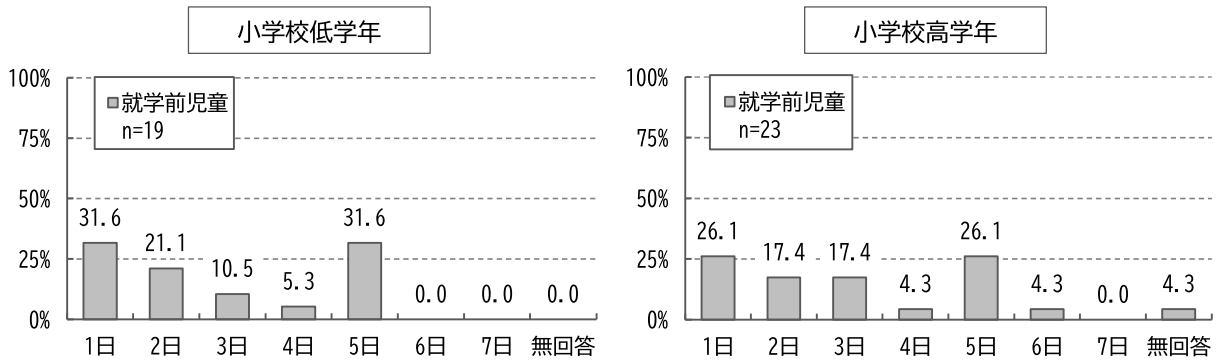
○保護者が放課後を過ごさせたい場所別に１週当たりの希望日数をみると、「自宅」では、低学年時期、高学年時期いずれも「５日」（低学年時期58.2%、高学年時期65.3%）が最も高くなっています。

問25.1・問26.1　「自宅」希望日数（１週当たり）



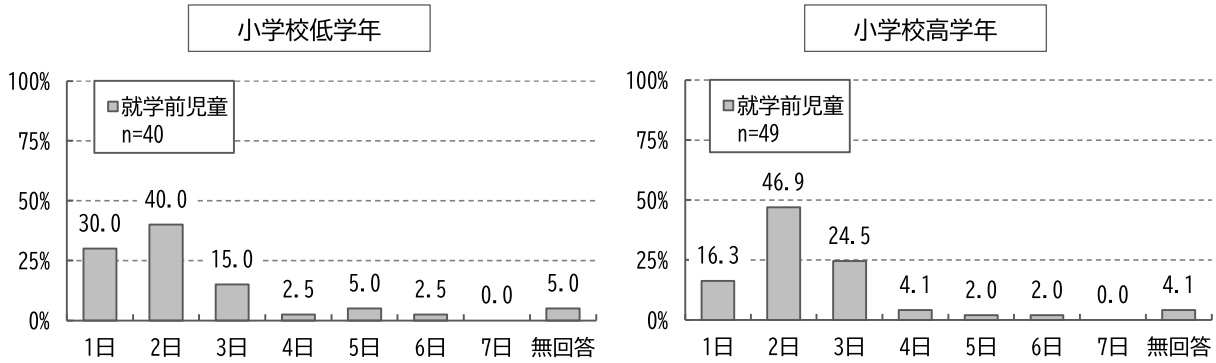
○「祖父母宅や友人、知人宅」では、低学年時期、高学年時期いずれも「１日」「５日」（低学年時期各31.6%、高学年時期各26.1%）が最も高くなっています。

問25.2・問26.2　「祖父母宅や友人、知人宅」希望日数（１週当たり）



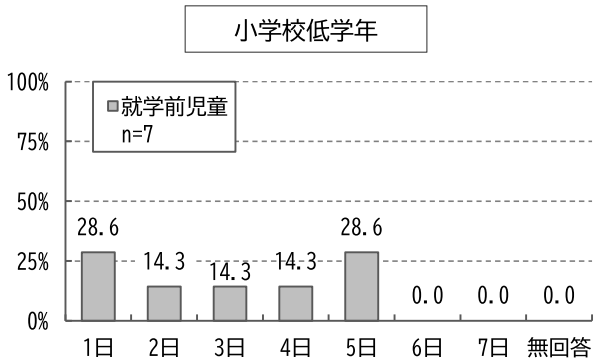
○「習い事」では、低学年時期低学年時期、高学年時期いずれも「２日」（低学年時期40.0%、高学年時期46.9%）が最も高くなっています。

問25.3・問26.3　「習い事」希望日数（１週当たり）



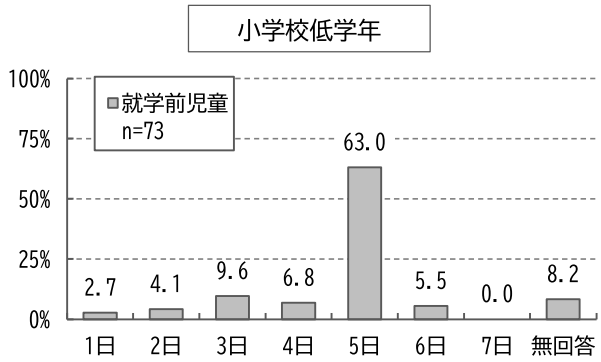
○「保育園で園児と一緒に小学校低学年を預かるサービス」では、低学年時期「１日」「５日」（各28.6%）が最も高くなっています。

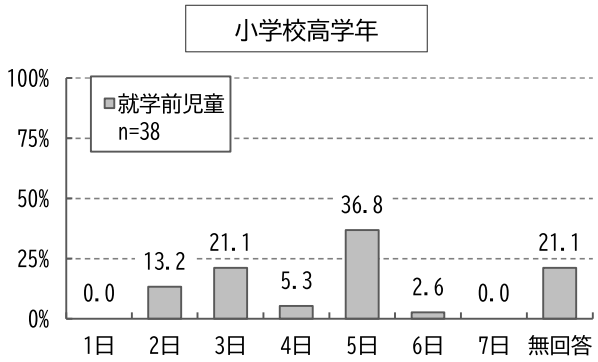
問25.4　「保育園で園児と一緒に小学校低学年を預かるサービス」希望日数（１週当たり）



○「放課後児童クラブ（学童保育）」では、低学年時期、高学年時期いずれも「５日」（低学年時期63.0%、高学年時期36.8%）が最も高くなっています。

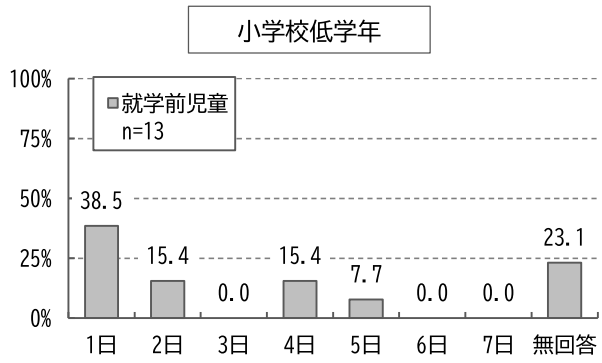
問25.5・問26.4　「放課後児童クラブ（学童保育）」希望日数（１週当たり）

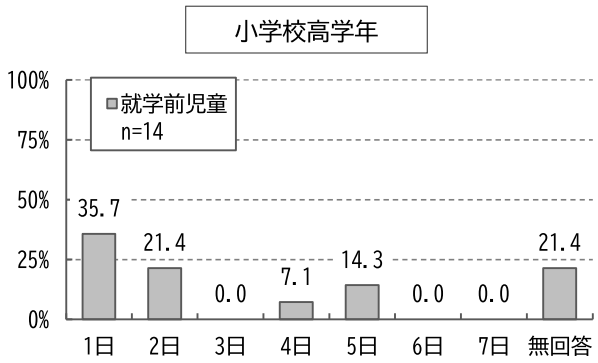




○「放課後子ども教室」では、低学年時期、高学年時期いずれも「１日」（低学年時期38.5%、高学年時期35.7%）が最も高くなっています。

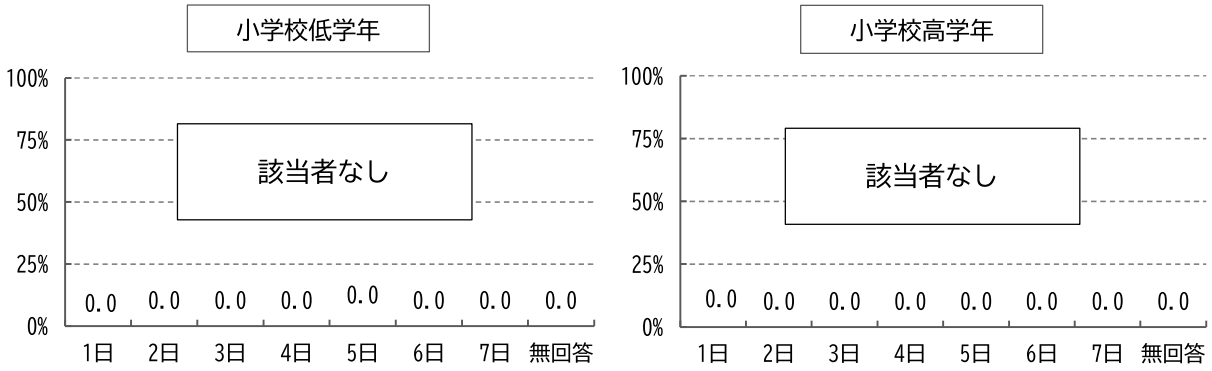
問25.6・問26.5　「放課後子ども教室」希望日数（１週当たり）





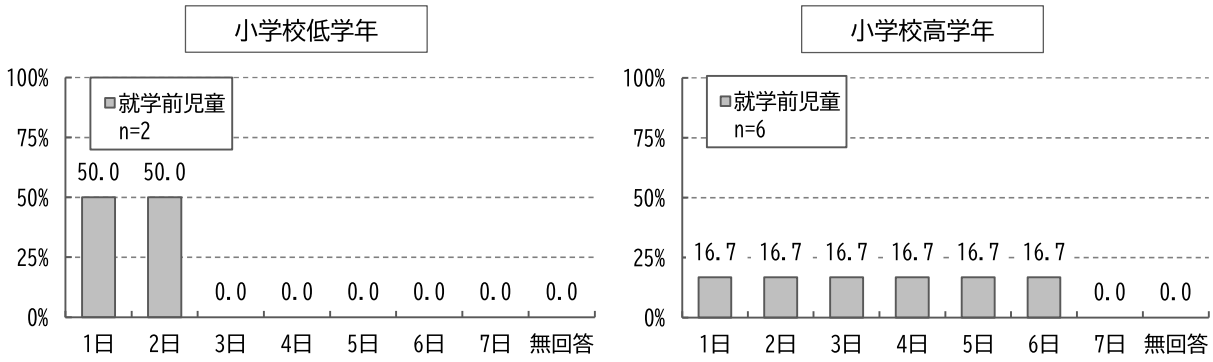
○「ファミリー・サポート・センター」は、希望者がいません。

問25.7・問26.6　「ファミリー・サポート・センター」希望日数（１週当たり）



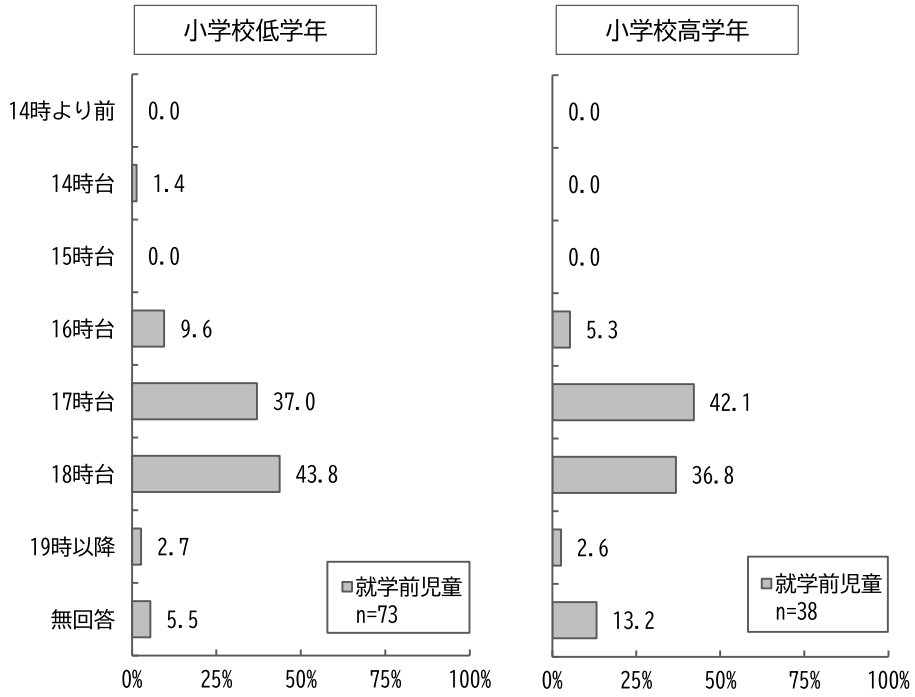
○「その他（公民館、公園など）」は、以下のとおりです。

問25.8・問26.7　「その他（公民館・公園など）」希望日数（１週当たり）



○放課後児童クラブの下校時からの利用希望時間帯をみると、低学年時期では「18時台」（43.8%）、高学年時期では「17時台」（42.1%）が最も高くなっています。

問25.5・問26.4　「放課後児童クラブ」下校時からの利用希望時間

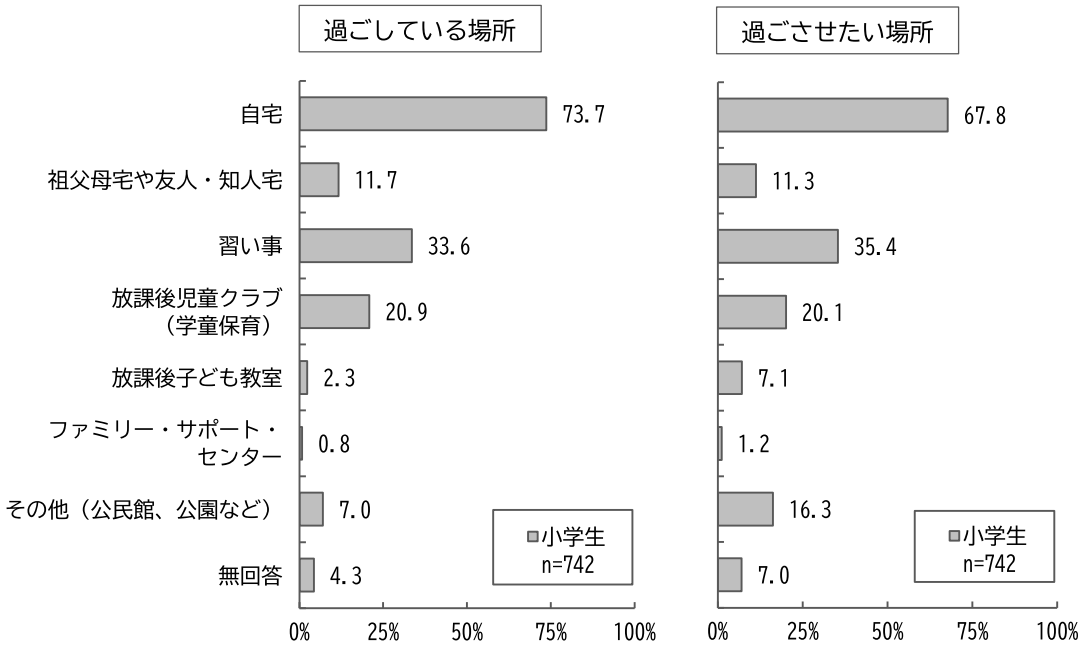


②小学生

○小学生が放課後に過ごしている場所についてみると、「自宅」（73.7%）が最も高く、次いで「習い事」（33.6%）、「放課後児童クラブ（学童保育）」（20.9%）となっています。

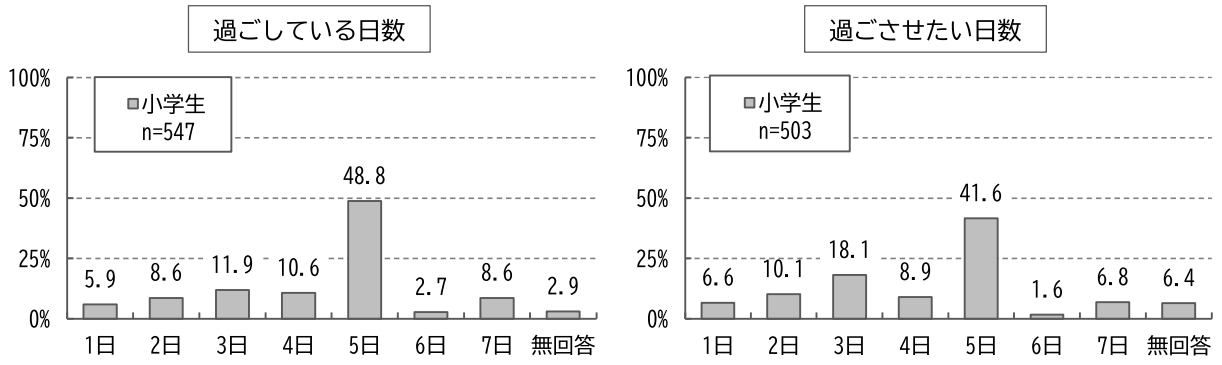
○放課後に過ごさせたい場所についてみると、「自宅」（67.8%）が最も高く、次いで「習い事」（35.4%）、「放課後児童クラブ（学童保育）」（20.1%）となっています。

［問13・問14］　放課後の過ごし方の現状と希望



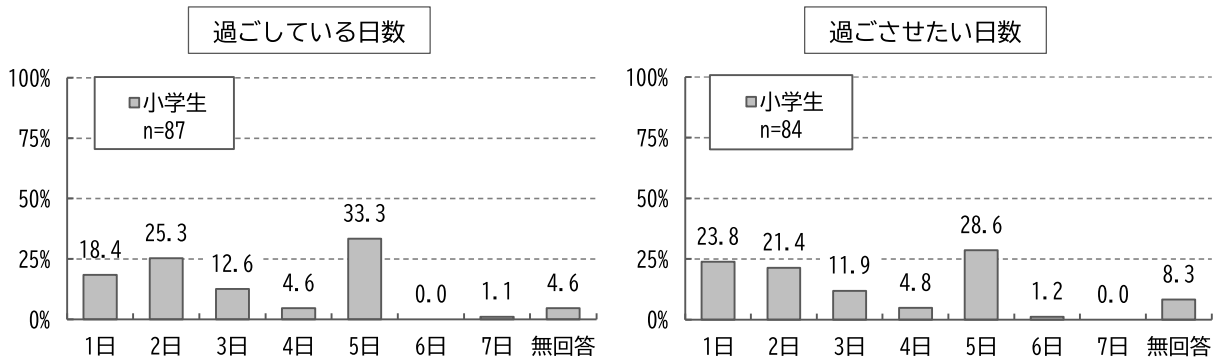
○場所別に１週当たりの日数をみると、「自宅」では、過ごしている日数、過ごさせたい日数いずれも「５日」（過ごしている日数48.8%、過ごさせたい日数41.6%）が最も高くなっています。

［問13.1・問14.1］　「自宅」日数（１週当たり）



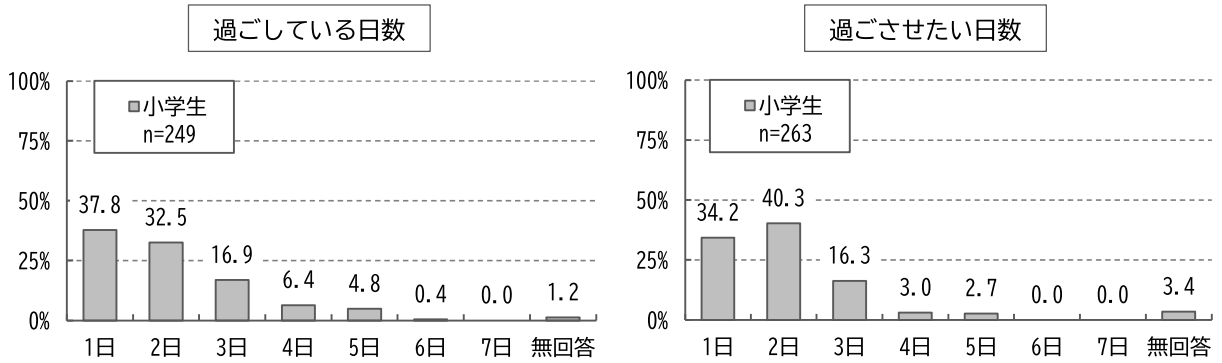
○「祖父母宅や友人、知人宅」では、過ごしている日数、過ごさせたい日数いずれも「５日」（過ごしている日数33.3%、過ごさせたい日数28.6%）が最も高くなっています。

［問13.2・問14.2］　「祖父母宅や友人、知人宅」日数（１週当たり）



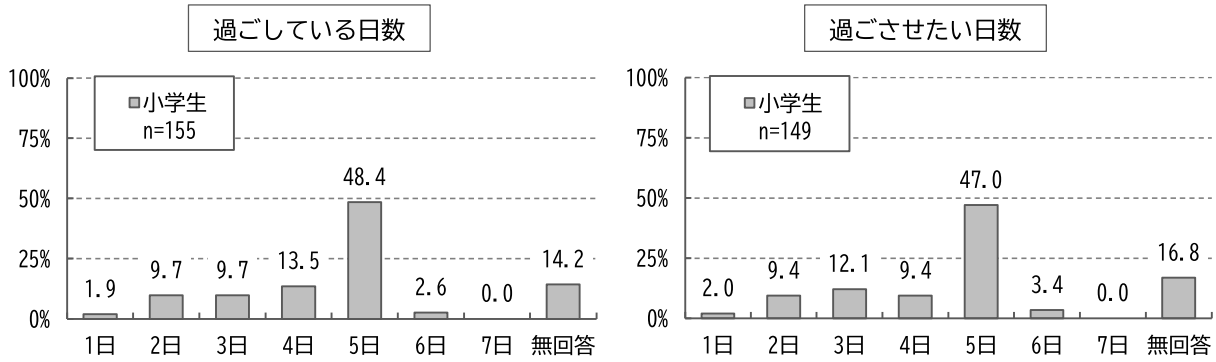
○「習い事」では、過ごしている日数は「１日」（37.8%）、過ごさせたい日数は「２日」（40.3%）が最も高くなっています。

［問13.3・問14.3］　「習い事」希望日数（１週当たり）



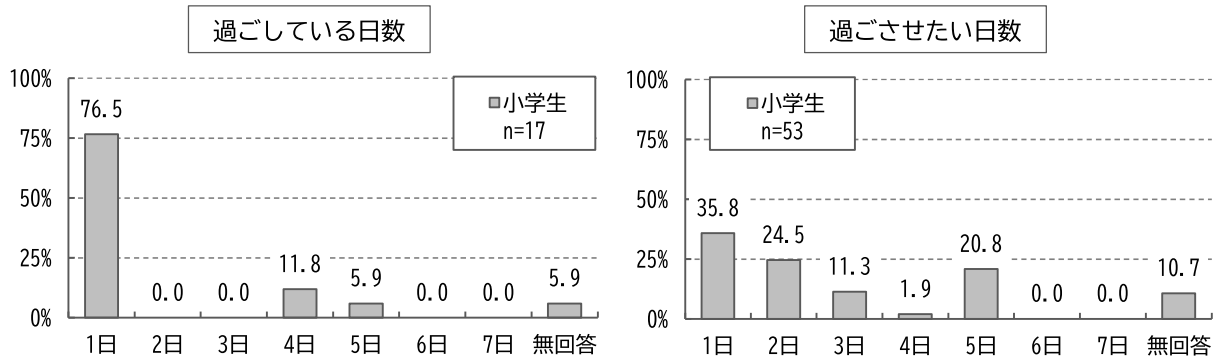
○「放課後児童クラブ（学童保育）」では、過ごしている日数、過ごさせたい日数いずれも「５日」（過ごている日数48.4%、過ごさせたい日数47.0%）が最も高くなっています。

［問13.4・問14.4］　「放課後児童クラブ（学童保育）」日数（１週当たり）



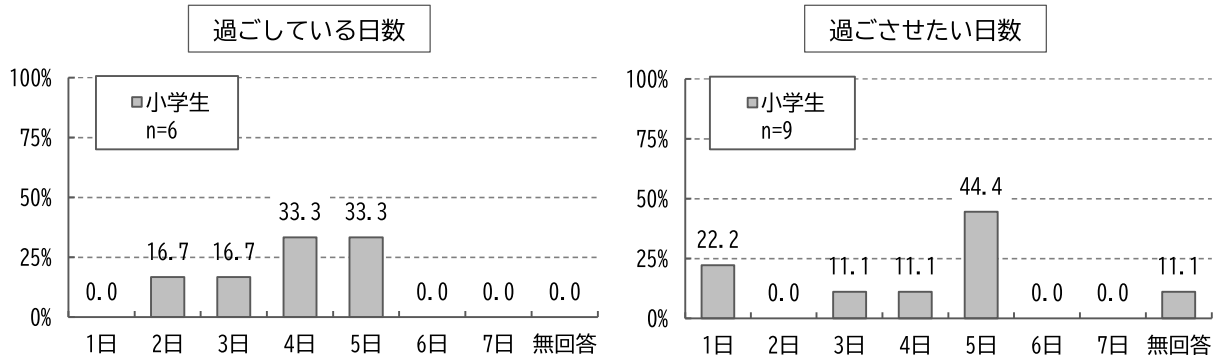
○「放課後子ども教室」では、過ごしている日数、過ごさせたい日数いずれもは「１日」（過ごしている日数76.5%、過ごさせたい日数35.8%）が最も高くなっています。

［問13.5・問14.5］　「放課後子ども教室」日数（１週当たり）



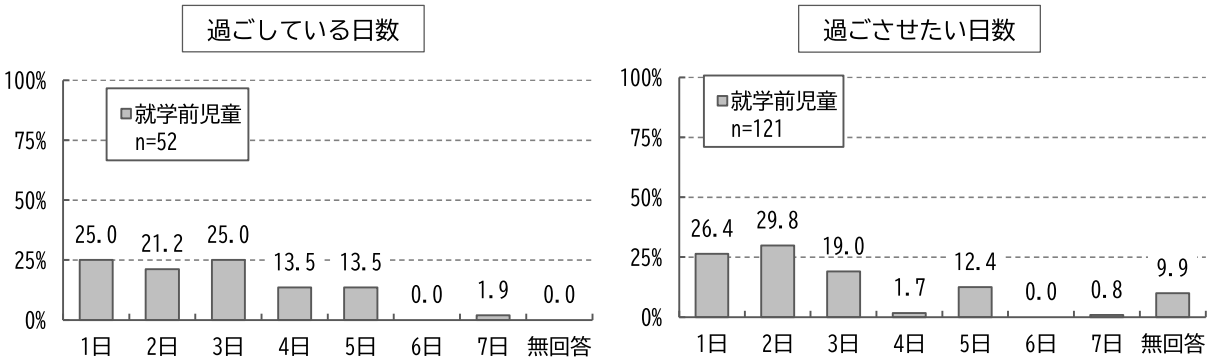
○「ファミリー・サポート・センター」では、過ごしている日数は「４日」「５日」（各33.3%）、過ごさせたい日数は「５日」（44.4%）が最も高くなっています。

［問13.6・問14.6］　「ファミリー・サポート・センター」日数（１週当たり）



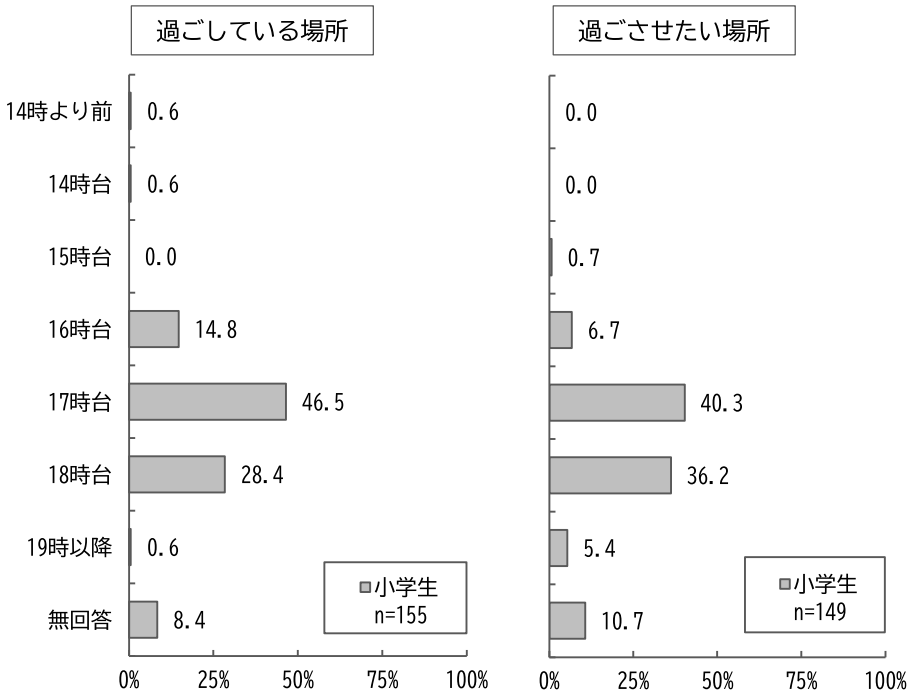
○「その他（公民館、公園など）」では、過ごしている日数は「１日」「３日」（各25.0%）、過ごさせたい日数は「２日」（29.8%）が最も高くなっています。

［問13.7・問14.7］　「その他（公民館・公園など）」日数（１週当たり）



○放課後児童クラブの下校時からの利用時間帯をみると、過ごしている場所、過ごさせたい場所いずれも「17時台」（過ごしている場所46.5%、過ごさせたい場所40.3%）が最も高くなっています。

［問13.4・問14.4］　「放課後児童クラブ」下校時からの利用時間



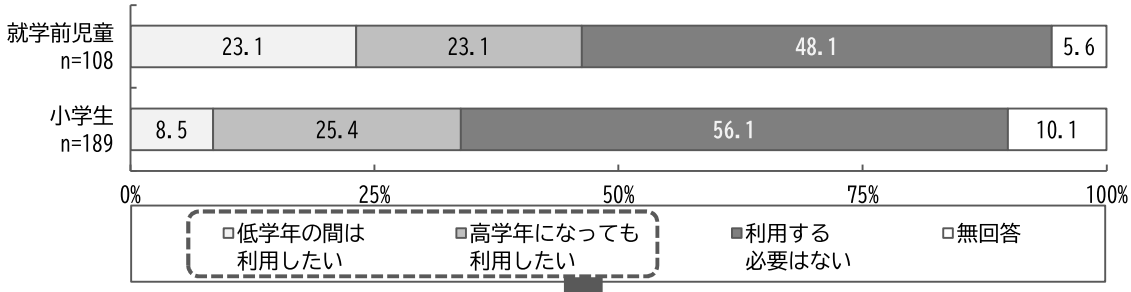
（２）土曜日、日曜日、祝日・長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望

○放課後児童クラブの土曜日の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」（就学前児童23.1%、小学生8.5%）、「高学年になっても利用したい」（就学前児童23.1%、小学生25.4%）となっています。

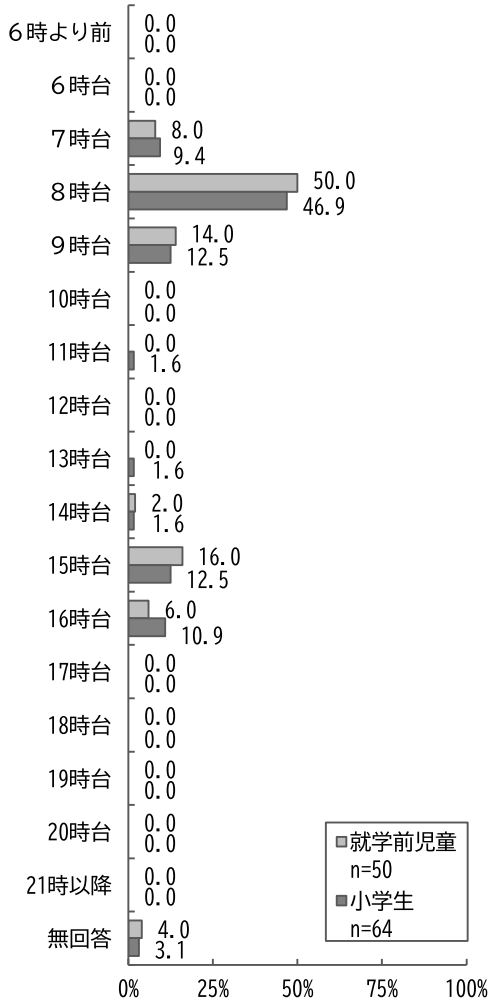
○希望開始時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「８時台」（就学前児童50.0%、小学生46.9%）が最も高くなっています。

○希望終了時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「18時台」（就学前児童46.0%、小学生42.2%）が最も高くなっています。

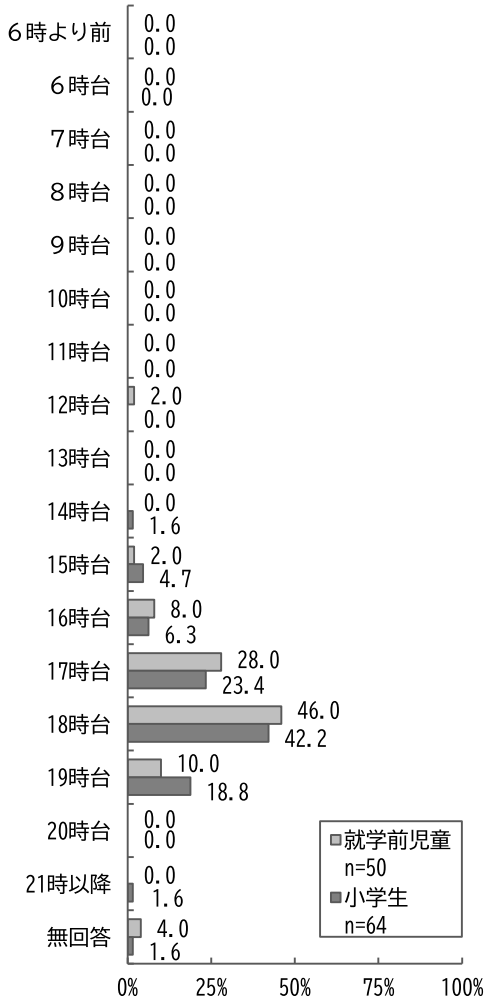
問27(1)[問15(1)]　放課後児童クラブの土曜日の利用希望（利用希望・利用者）



問27(1)[問15(1)]　希望開始時間



問27(1)[問15(1)]　希望終了時間

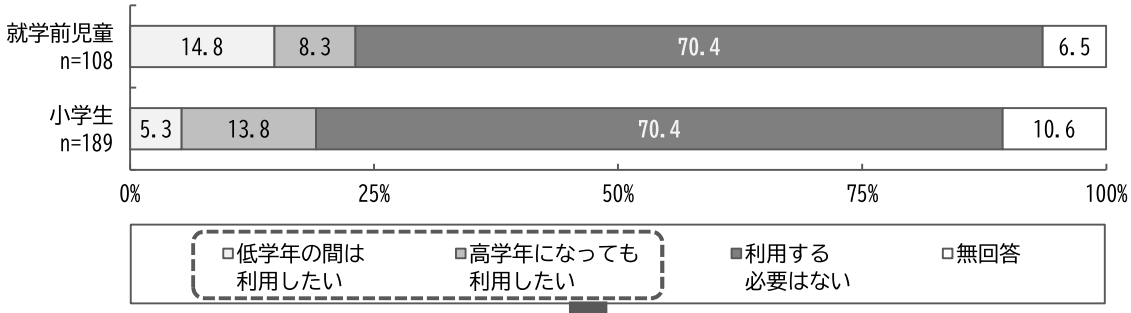


○放課後児童クラブの日曜日、祝日の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」「高学年になっても利用したい」と回答した方は就学前児童23.1%、小学生では19.1%となっています。

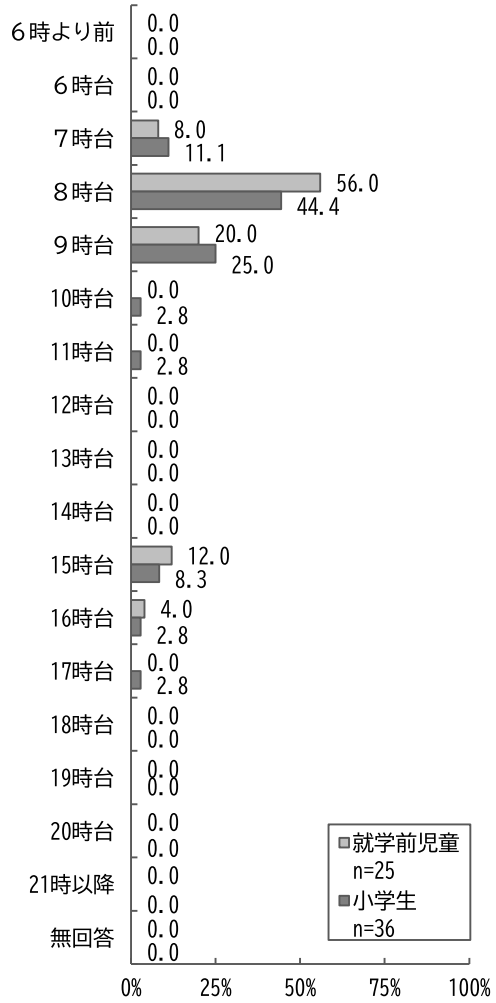
○希望開始時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「８時台」(就学前児童56.0%、小学生44.4%）が最も高くなっています。

○希望終了時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「18時台」(就学前児童48.0%、小学生38.9%）が最も高くなっています。

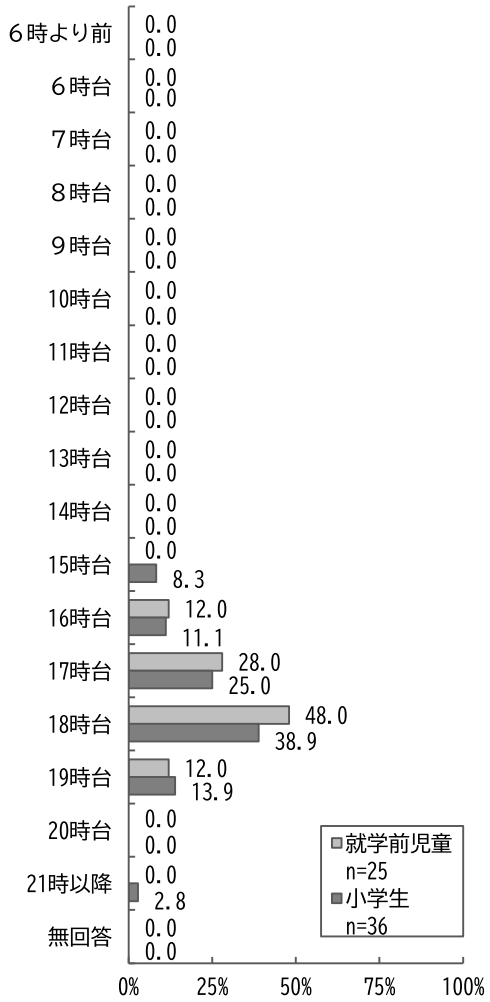
問27(2)[問15(2)]　放課後児童クラブの日曜日、祝日の利用希望（利用希望・利用者）



問27(1)[問15(2)]　希望開始時間



問27(1)[問15(2)]　希望終了時間

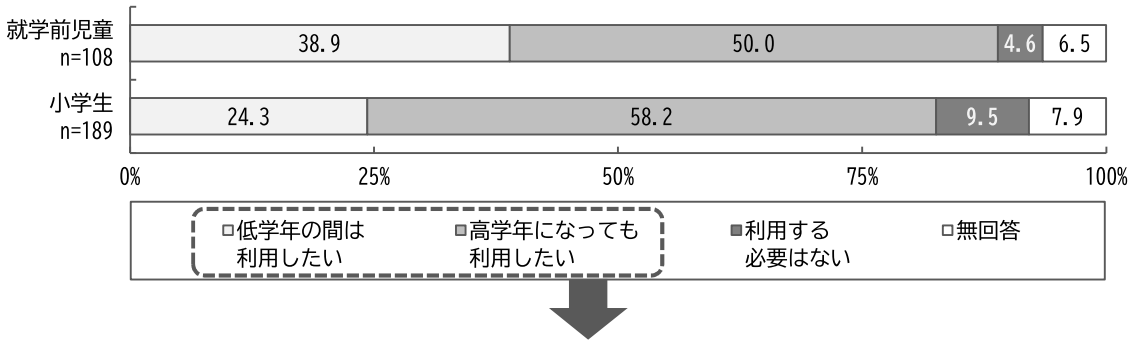


○放課後児童クラブの長期休暇期間中の利用希望をみると、「低学年の間は利用したい」「高学年になっても利用したい」と回答した方は就学前児童88.9%、小学生では82.5%となっています。

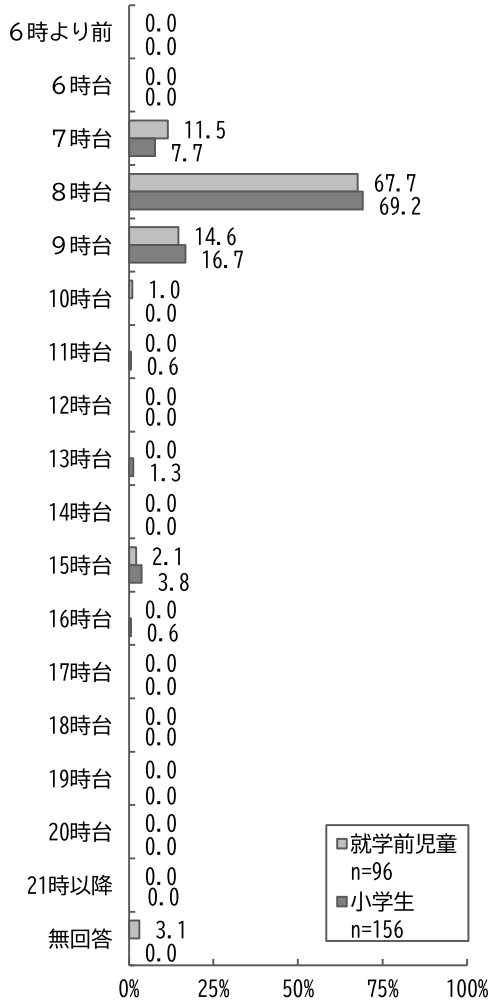
○希望開始時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「８時台」（就学前児童67.7%、小学生69.2%）が最も高くなっています。

○希望終了時間をみると、就学前児童、小学生いずれも「18時台」（就学前児童43.8%、小学生41.7%）が最も高くなっています。

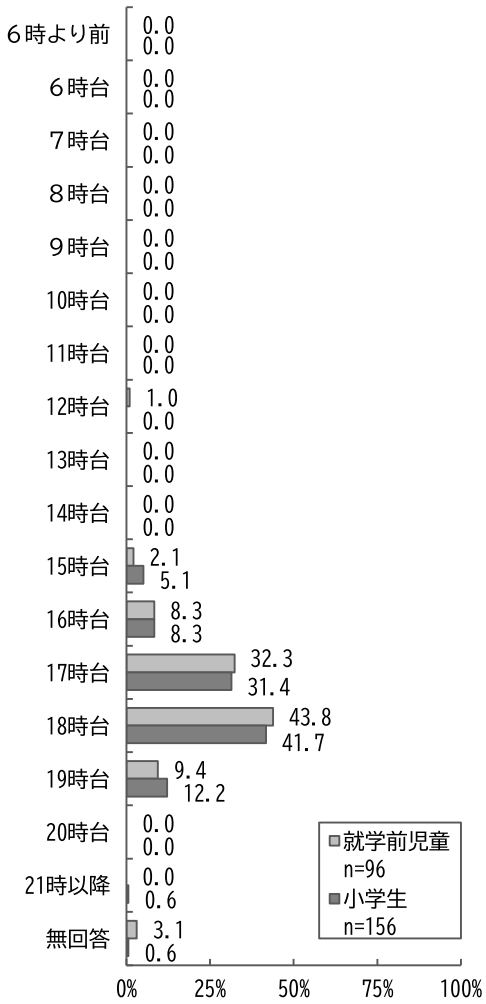
問28[問16]　長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望（利用希望・利用者）



問28[問16]　希望開始時間



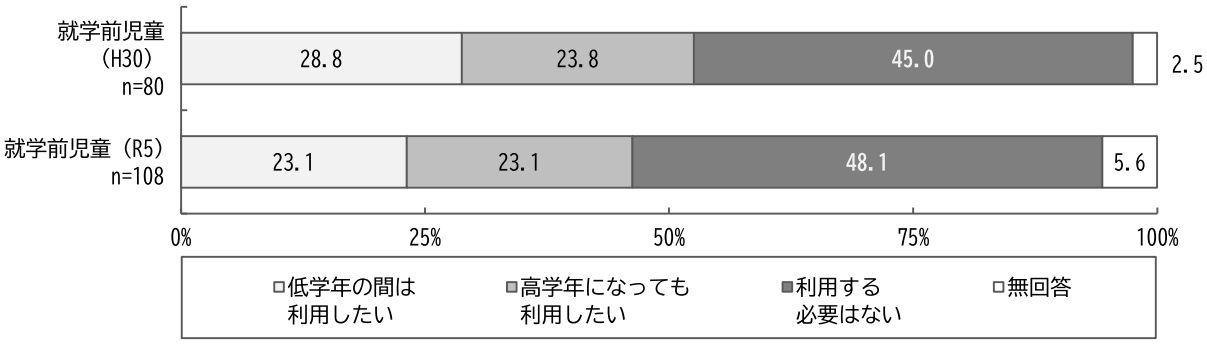
問28(1)[問16]　希望終了時間



○放課後児童クラブの土曜日の利用希望を前回調査と比較すると、就学前児童、小学生いずれも利用希望（「低学年の間は利用したい」+「高学年になっても利用したい」の合計）は就学前児童で6.4ポイント、小学生で6.1ポイント減少しています。

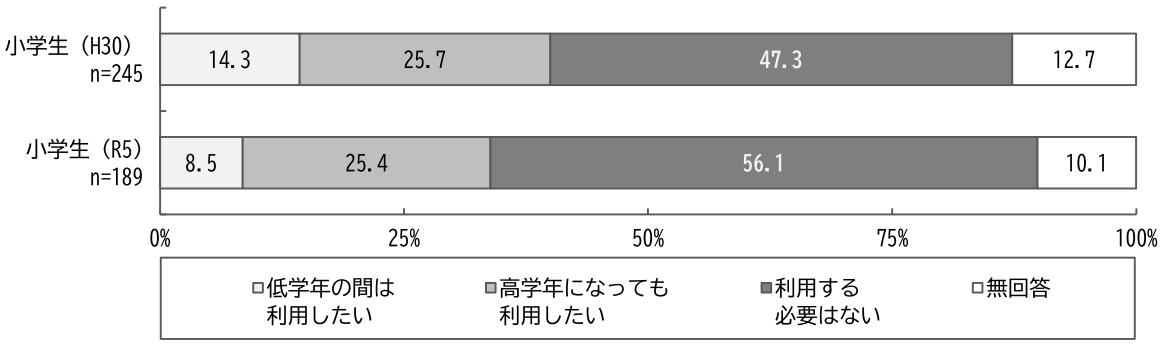
就学前児童

問27(1)　放課後児童クラブの土曜日の利用希望（経年比較）



小学生

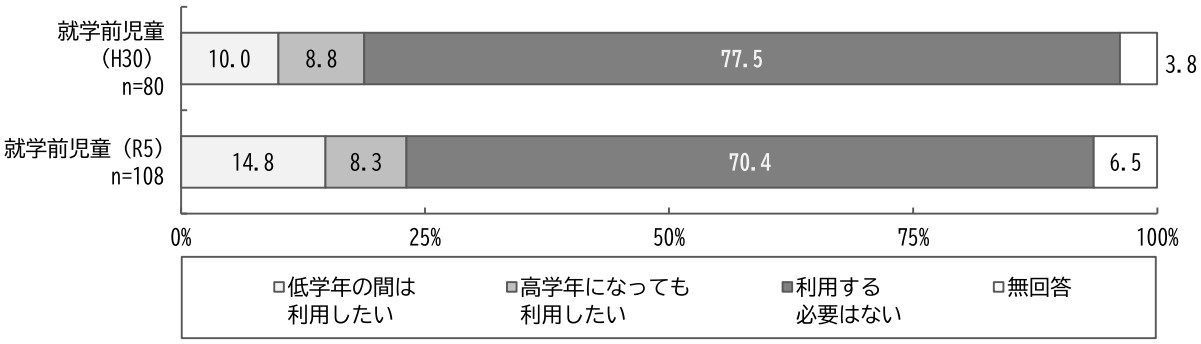
［問15(1)］　放課後児童クラブの土曜日の利用希望（経年比較）



○放課後児童クラブの日曜日・祝日の利用希望を前回調査と比較すると、就学前児童、小学生いずれも利用希望（「低学年の間は利用したい」+「高学年になっても利用したい」の合計）は、就学前児童で4.3ポイント、小学生で2.7ポイント増加しています。

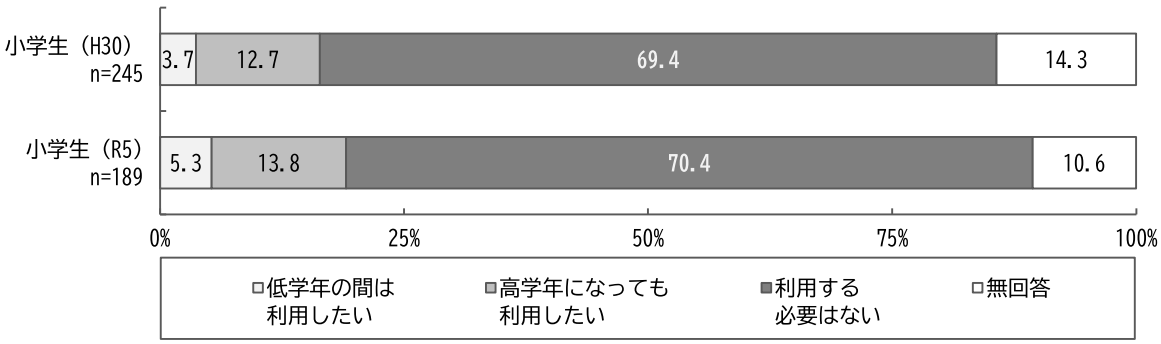
就学前児童

問27(2)　放課後児童クラブの日曜日・祝日の利用希望（経年比較）



小学生

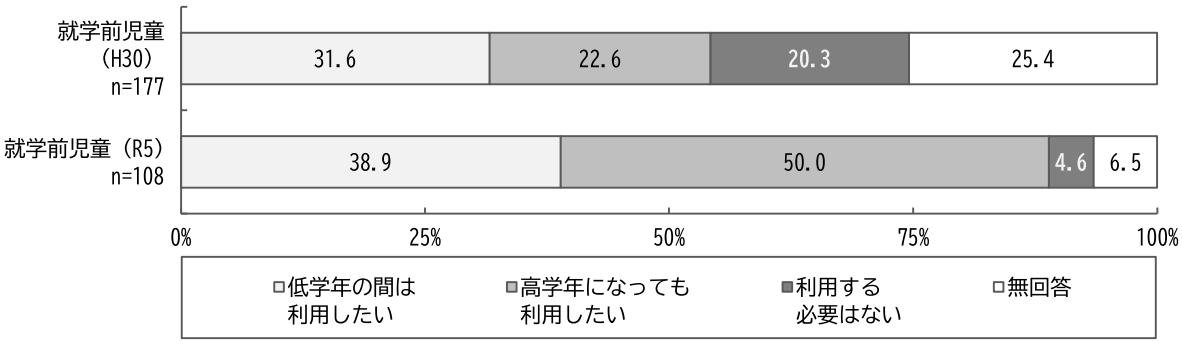
［問15(2)］　放課後児童クラブの日曜日・祝日の利用希望（経年比較）



○放課後児童クラブの長期休暇期間中の利用希望を前回調査と比較すると、就学前児童、小学生いずれも利用希望(「低学年の間は利用したい」+「高学年になっても利用したい」の合計）は、就学前児童で34.7ポイント、小学生で53.4ポイント増加しています。

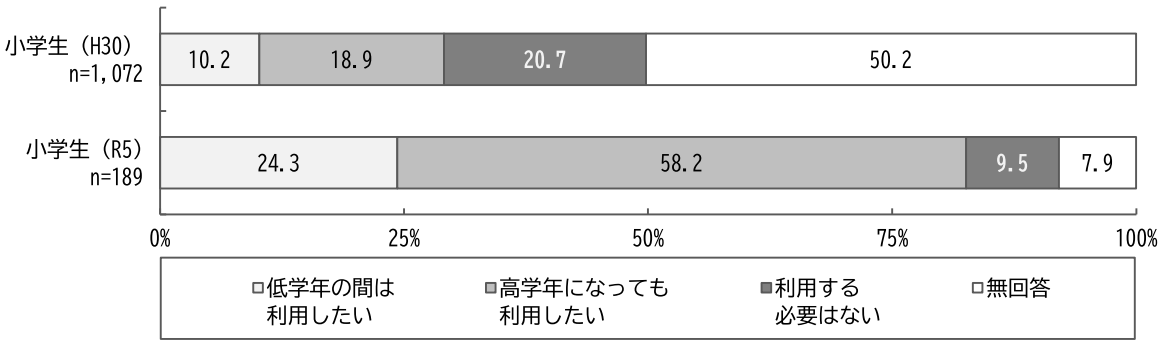
就学前児童

問28　長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望（経年比較）



小学生

［問16］　長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望（経年比較）



6　地域の子育て支援事業の状況と今後の利用希望

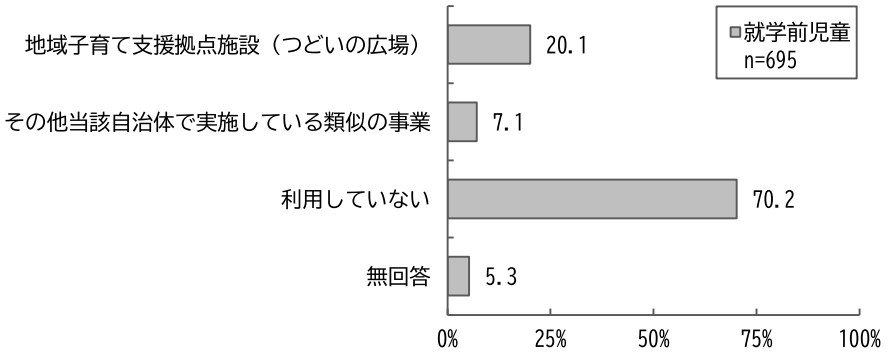
（１）地域子育て支援拠点事業の利用状況

○「地域子育て支援拠点施設（つどいの広場）」の利用割合は20.1%となっています。

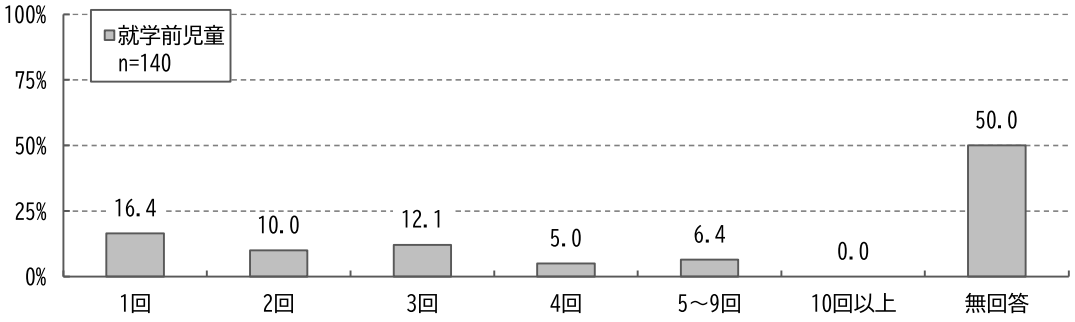
○「地域子育て支援拠点施設（つどいの広場）」利用者の１週当たりの利用回数をみると、「１回」（16.4%）が最も高くなっています。

○「地域子育て支援拠点施設（つどいの広場）」利用者の１か月当たりの利用回数をみると、「１回」（21.4%）が最も高くなっています。

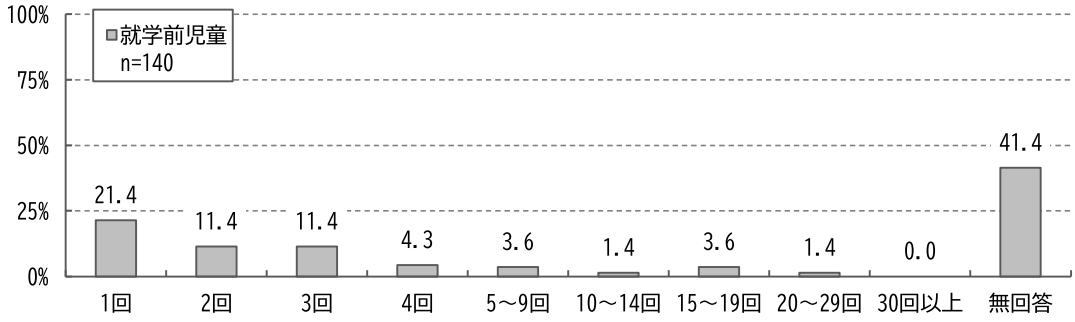
問16　子育て支援センターの利用状況



問16.1　地域子育て支援拠点施設（つどいの広場）の利用回数（１週当たり）



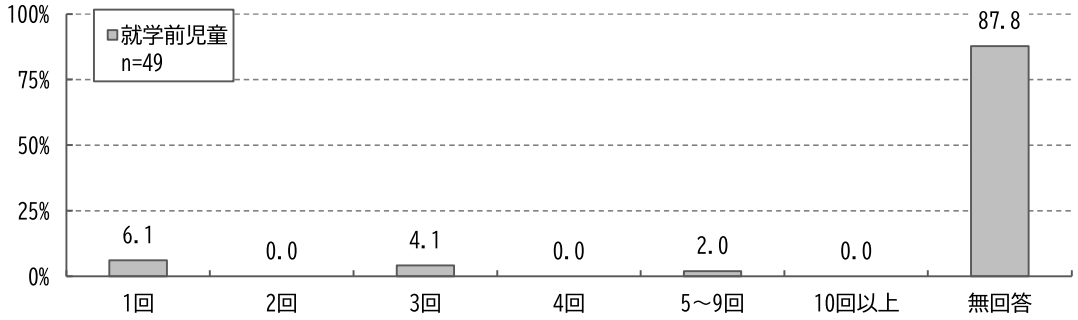
問16-1　地域子育て支援拠点施設（つどいの広場）の利用回数（１か月当たり）



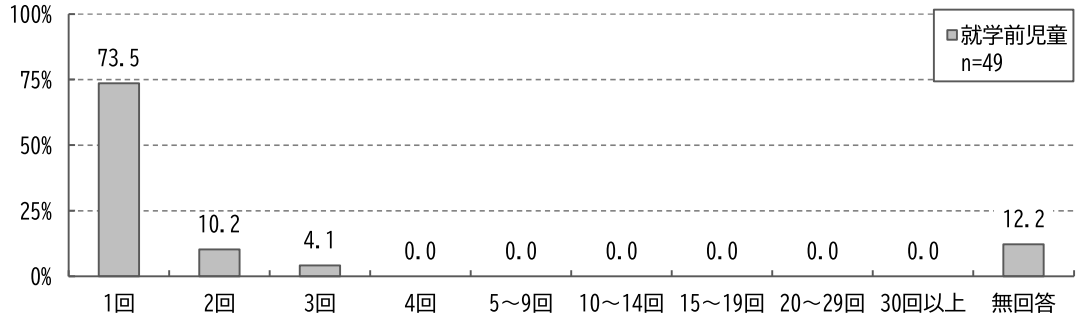
○「類似の事業」利用者の１週当たりの利用回数をみると、「１回」（6.1%）が最も高くなっています。

○「類似の事業」利用者の１か月当たりの利用回数をみると、「１回」（73.5%）が最も高くなっています。

問16.2　類似の事業の利用回数（１週当たり）



問16-2　類似事業の利用回数（１か月当たり）

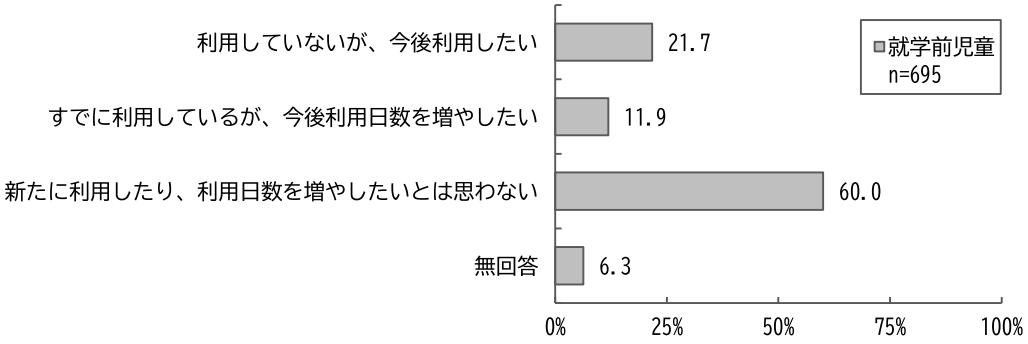


（２）今後の利用意向

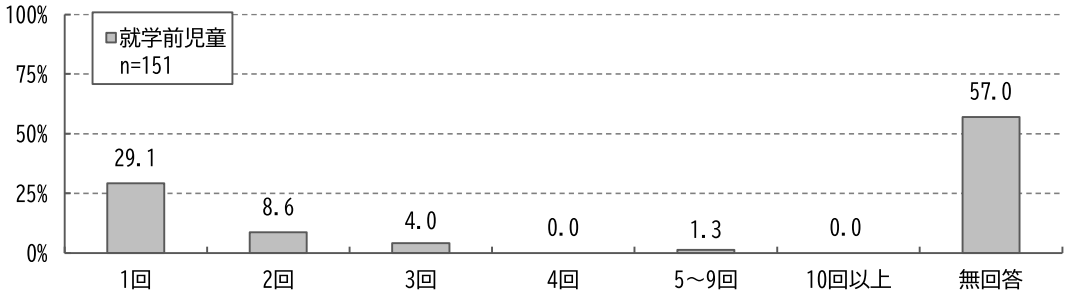
○地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向をみると、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が60.0%となっています。

○未利用者の今後１週当たりの利用希望回数をみると、「１回」（29.1%）が最も高くなっています。また、今後１か月あたりの利用希望回数をみると、「１回」（30.5%）が最も高くなっています。

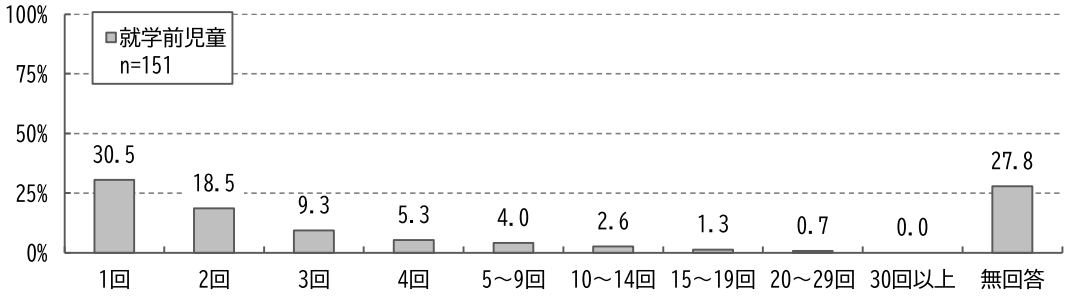
問17　地域子育て支援拠点事業の今後の利用意向



問17.1　未利用者の今後の利用希望回数（１週当たり）

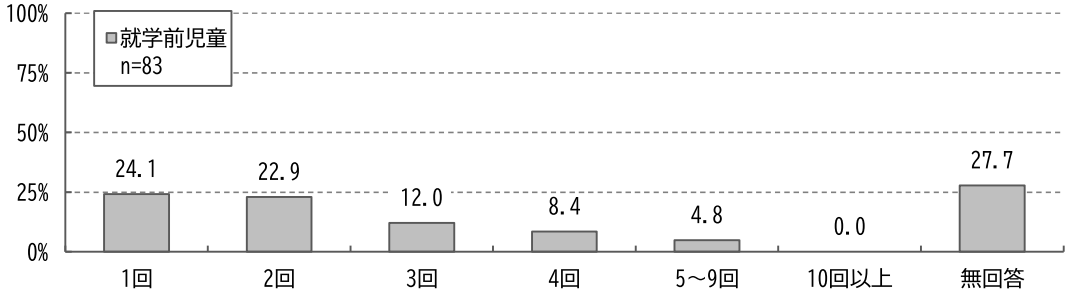


問17.1　未利用者の今後の利用希望回数（１か月当たり）

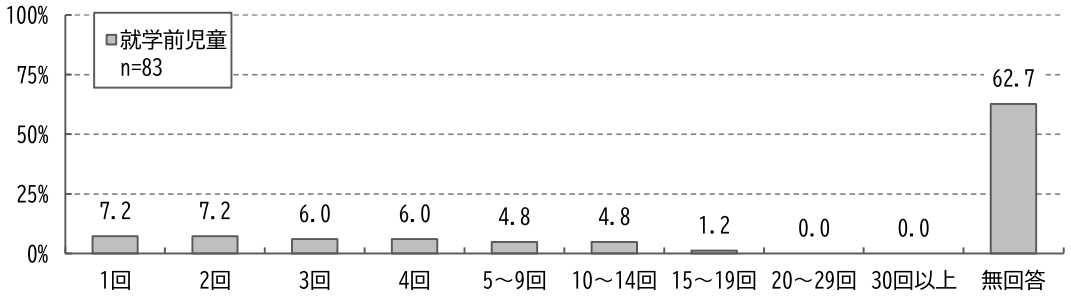


○既利用者が今後増やしたい１週当たりの利用希望回数をみると、「１回」（24.1%）が最も高くなっています。また、増やしたい１か月あたりの利用希望回数をみると、「１回「２回」（各7.2%）が最も高くなっています。

問17.2　既利用者の今後増やしたい利用回数（１週当たり）



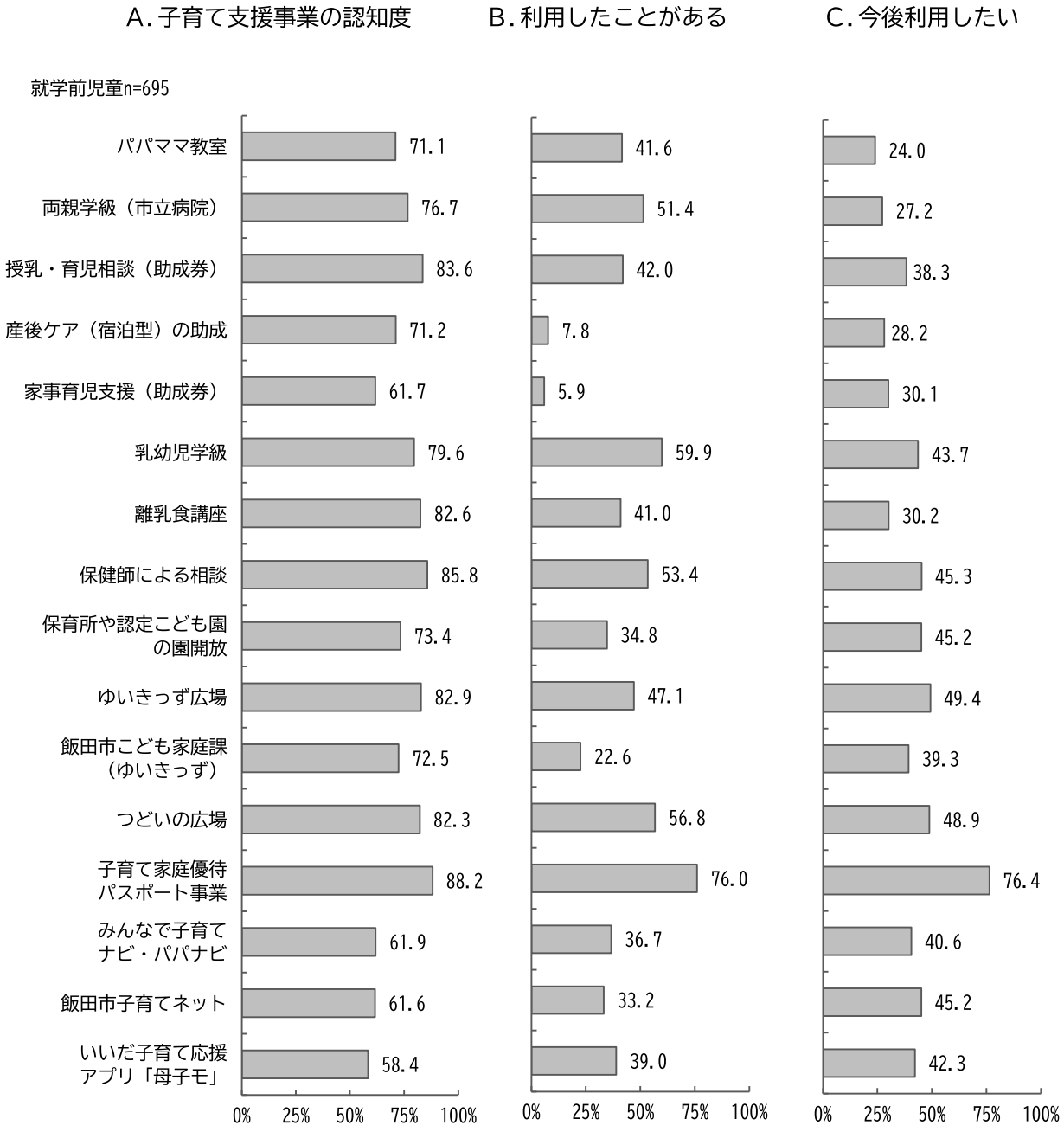
問17.2　既利用者の今後増やしたい利用回数（１か月当たり）



（３）子育て支援事業の認知度、利用状況と今後の利用意向について

○子育て支援事業の認知度をみると、「子育て家庭優待パスポート事業」（88.2%）が最も高く、次いで「保健師による相談」（85.8%）、「授乳・育児相談（助成券）」（83.6%）となっています。

○子育て支援事業の利用状況をみると、「子育て家庭優待パスポート事業」（76.0%）が最も高く、次いで「乳幼児学級」（59.9%）となっています。

○子育て支援事業の利用意向をみると、「子育て家庭優待パスポート事業」（76.4%）が最も高くなっています。

問18　子育て支援事業の認知度、利用状況、今後の利用意向